建築工事仕様書

Ⅰ　工事概要

1　工事場所　　隠岐郡海士町海士地区内

2　地域地区　　都市計画区域（　・内　⊙外　）
用途地域等　（　　）
用途地域等　（　　）

3　敷地面積　　３８５７．２２　㎡

4　建物用途　　肥育牛舎

5　棟別概要

No.	建物名称	建築種別	構造	階数	建築面積(㎡)	延面積(㎡)
1	肥育牛舎（D棟）	新築	W造	1	８５６．７２	８５６．７２
2						
3						
4						
5						
6						
7						
合計					８５６．７２	８５６．７２

Ⅱ　工事仕様

1　図面及び特記事項に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成２５年版〔平成２６年３月改定〕」(以下「標準仕様書」という)による。ただし、木造工事に関しては、併せて「公共建築木造工事標準仕様書平成２５年版」により、改修工事に関しては、「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)平成２５年版〔平成２６年３月改定〕」(以下「改修標準仕様書」という)による。

2　特記事項
(1) 章及び項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は ⊙ 印を適用する。
⊙ 印の無い場合は、＊ 印のあるものを適用する。
⊙ 印と ㊟ 印のある場合はともに適用する。
(3) 特記事項に記載の（　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目・図または表を示す。

章	項目	特記事項
①一般共通事項	① 適用基準等	㊟ 建築工事標準詳細図（平成２２年版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・ 公共住宅標準詳細設計図集（第４版） 公共住宅事業者等連絡協議会監修 ㊟ 工事写真の撮り方（改訂第３版）建築編 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ⊙ 鉄筋コンクリート構造配筋要領（平成１１年版） 建設大臣官房官庁営繕部
	② 材料の品質等	本工事に使用する材料等は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳ及びＪＡＳマーク表示のない材料及びその製造業者等は、次の１）～５）の事項を満たすものとする。 ただし、使用量の少ないもの、簡易な材料又は品質を証明する資料の入手困難なもの等については、次の１）～５）を考慮の上、監督職員の承諾を受けて証明資料の提出を省略することができる。 １）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ２）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ３）法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ４）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ５）安定的な供給及び保守等の営業体制が整えられていること。 なお、商品名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。 また、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。 ただし、社団法人公共建築協会編集・発行「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿(平成___年版)」及び「同設備機材等評価名簿(平成___年版)」に記載されたものについては、所定の品質及び性能を有しているものとする。
	③ 特別な材料の工法及び製品	標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督職員の承諾を受けて、当該製品指定工法によることができる。

章	項目	特記事項
		・ しまね・ハツ・建設ブランドに登録された下記工法又は製品を使用する。 登録技術：　適用箇所： （　　）（　　） （　　）（　　） （　　）（　　） （　　）（　　）
	4 電気保安技術者 (1.3.3)	工事現場におく電気保安技術者は、監督職員の指示に従い、電気工作物の保安の業務を行うものとする。
	⑤ 発生材の処理等 (1.3.8)	・ 引き渡しを要するもの（　　） ・ 現場において再利用を図るもの（　　） 産業廃棄物の処理及び再資源化を図るものは下記による

項目	品目	搬出場所	距離	処分費	備考
特定建設資材	コンクリート塊	島内再資源化施設		無	
	木材	島内再資源化施設		無	
特別管理産業廃棄物					
その他	廃プラスチック、金属	島外安定型産業廃棄物処理施設		無	

＊発生材の処分は全て島根県東部産業廃棄物処分業者による。
＊有価物の処分は松江市内業者とし、松江広域再生資源共同組合を優先するものとする。

	6 交通安全管理 (1.3.9)	以下のとおり、交通の誘導に係る業務に従事する者を配置すること。 配置する位置は別に図示する。 交通誘導員Ａ＿＿人・日　（　　） 交通誘導員Ｂ＿＿人・日　（　　） 交通整理員　＿＿人・日　（　　） (注)交通誘導員A、Bは警備業法に定める警備員とし、交通整理員については資格を問わない。
	7 技能士 (1.5.2)	技能士制度の趣旨を十分理解の上、積極的な活用に努めること。
	8 化学物質の濃度測定 (1.5.9)	下記により測定し、その結果を監督職員に報告する。 測定化学物質名： ・ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ　・ ﾄﾙｴﾝ　・ ｷｼﾚﾝ　・ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ　・ ｽﾁﾚﾝ ・ ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ 測定方法： ・ 営繕工事におけるホルムアルデヒド等測定要領 ・ 学校施設の工事における環境衛生検査の濃度測定要領 ・ 住宅性能表示制度に基づく測定方法 （ただし書きによる測定方法を含む） 測定箇所：　箇所 測定対象室：
	⑨ 工事写真	下記のものを提出する。 仕様は、建築工事写真取扱要領による。

区分	分類	サイズ（mm）	提出部数
工事中（着工前含む）	＊カラー	＊80×120 程度	1 部
完成	＊カラー	外部全景 ＊120×170 程度 ・ 80×120 程度 その他 ＊80×120 程度	1 部
フィルムカメラを使用した場合は、完成写真のネガフィルムをカラーベタ焼き又はインデックスプリントとともに提出する。			1 部
デジタルカメラを使用した場合は、工事写真及び完成写真のデータを記録したＣＤ－Ｒを提出する。			1 部

＊写真及びﾈｶﾞﾌｨﾙﾑは、市販のJIS A4判の工事用アルバムにて製本し、提出する。

	⑩ 完成図及び電子納品について	仕様は、建築工事完成図取扱要領による。

品名・仕様	提出部数
＊原図（設計原図の訂正でもよい）	1 部
＊複写図 ＊製本　サイズ（＊Ａ３縮小版　・原図サイズ）白焼 表装（＊レザック表紙（ラミネート仕上） ・黒表紙金文字入り）	2 部
＊電子データ（画像データ、ＣＡＤデータ）（ＣＤ－Ｒ）	1 部
・施工図	

設計に関するＣＡＤデータを貸与するが、著作権者は、＿発注者＿＿にある。なお、貸与されたデータは、当該工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用してはならない。

＊「工事における電子納品特記仕様書」に基づき、成果物の納品を行うこと。

章	項目	特記事項
	⑪ 保全に関する資料 (1.7.3)	書類名： ⊙ 建築物等の利用に関する説明書 （建築物等の利用に関する説明書作成要領による） ⊙ 機器取扱い説明書 ⊙ 機器性能試験成績書 ⊙ 官公署等届出書類 ⊙ その他監督職員が指示するもの 提出部数：２部
	12 特定元方事業者の指名	下記の者に、労働安全衛生法第３０条第２項に基づく指名を行う。 ・ 本工事の受注者 ・ 関連他工事の受注者（　　）
	⑬ 施工図及び施工計画書	提出した施工図及び施工計画書の著作に関わる当該建物における使用権は発注者に委譲するものとする。
	⑭ 耐荷重及び耐外力	建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速　Ｖ0(m/s)　・ 30　⊙ 32　・ 34 地表面粗土区分　・Ⅰ　・Ⅱ　＊Ⅲ　・Ⅳ 積雪荷重　告示第1455号、告示第474号第3第2、島根県建築基準法施行細則による 風圧力　告示第474号第3第3
	15 関連他工事	
②仮設工事	① 手すり先行足場 (2.2.4)	「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成２１年４月策定）」による。 ＊足場を設ける場合、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成25年版2.2.4(b)によるほか、設置においては、「手すり先行足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は、(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。
	2 監督員事務所 (2.3.1)	面積：　㎡程度 仕上げ： 備品：
	③ 工事用水	構内既存の施設 ・ 利用できる(有償)　⊙ 利用できない
	④ 工事用電力	構内既存の施設 ・ 利用できる(有償)　⊙ 利用できない
	5 仮囲い及び出入口	設置箇所・材質・構造及び設置期間は図示による。
	⑥ 養生シート	設置範囲　・ 図示の位置　⊙ 外部足場全面 養生シートの種別 ・ 養生シート ・ 防炎Ⅰ類　・ 防炎Ⅱ類 ・ ネット状養生シート ・ 防炎Ⅰ類　・ 防炎Ⅱ類
	7 洗車場	設置箇所・材質・構造及び設置期間は図示による。
	8 木製安全施設製品（県産木材製品）	・ 工事用標示板（表示板1,400㎜×1,100㎜用）　台 ・ 工事用看板（表示板1,400㎜×500㎜用）　台 ・ 工事用バリケード　台
③土工事	① 埋戻し及び盛土の種別 (3.2.3)	埋戻し　・Ａ種　＊Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(表3.2.1) 盛土　・Ａ種　＊Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(表3.2.1) （Ｃ種の場合の詳細は、特記仕様書追加事項による。）
	2 建設発生土の処理 (3.2.5)	指定処分　・Ａ　・Ｂ　・Ｃ　・Ｄ　・Ｅ　・Ｆ （詳細は、特記仕様書追加事項による。）
	3 山留め (3.3.2～3)	工法等
④地業工事	1 試験杭 (4.2.2)	＊図示による
	2 杭の載荷試験 (4.2.3)	・ 鉛直載荷試験　・ 水平載荷試験 試験杭の位置及び載荷荷重等は図示による。 試験の方法及び報告書の記載事項等は図示による。
	3 地盤の載荷試験 (4.2.4)	平板載荷試験 試験位置及び載荷荷重は図示による。 試験の方法及び報告書の記載事項等は図示による。
	4 既製ｺﾝｸﾘｰﾄ及び鋼管杭地業 (4.3節、4.4節)	

杭の種別	＊ＰＨＣ杭	
規格名称	JIS A 5373	
曲げ強度による区分	図示による	
寸法（径×長さ）	図示による	
設計支持力(kN／本)	図示による	
先端部形状	開放形	
継手の工法	溶接継手	
杭頭の処理	図示による	

章	項目	特記事項
		工法　・ﾌﾟﾚﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ併用打撃工法（掘削長・径は図示による） ・ セメントミルク工法（支持地盤は図示による） ・ 特定埋込杭工法（支持地盤は図示による） 杭の精度 水平方向の位置ずれ ＊ 杭径の1/4かつ100㎜以下　・
	5 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5節)	工法　・ アースドリル工法（支持地盤は図示による） ・ リバース工法（支持地盤は図示による） ・ オールケーシング工法（支持地盤は図示による） ・ 場所打ち鋼管ｺﾝｸﾘｰﾄ杭工法（支持地盤は図示による） ・ 拡底杭工法（支持地盤は図示による） コンクリート 種別　・Ａ種　・Ｂ種　(表4.5.1) 設計基準強度　N／mm2 構造体コンクリート強度と供試体の強度差を考慮した割り増し ・ 行う（　・３N／mm2　・　）　＊ 行わない 杭の精度 水平方向の位置ずれ ＊ 杭径の1/4かつ100㎜以下　・
	⑥ 砂利地業 (4.6.2)	材料　・ 切込砂利または切込砕石 ⊙ 再生クラッシャラン
	⑦ 床下防湿層 (4.6.5)	施工範囲は図示による。
	8 その他の地業	・ 地盤改良 工法 ・ 深層混合処理工法 ・ 浅層混合処理工法 ・ 路床改良工法 セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の試験 ・ 六価クロム溶出試験 配合設計段階　検体　施工後段階　検体 ・ タンクリーチング試験 ・ ラップルコンクリート 6.14節無筋コンクリートを適用する。 設計基準強度　N／mm2　、スランプ　cm
⑤鉄筋工事	① 鉄筋の種類 (5.2.1)	種類の記号：径 ＊ SD295A：D10　D13　D16 ＊ SD345：D19以上 ・ ・
	2 溶接金網 (5.2.2)	寸法　＊ 6.0φ×100×100　・ 施工箇所（　　）
	③ 継手 (5.3.4)	継手の工法

部位	継手工法と適用径の範囲
・柱主筋	＊ガス圧接（D19以上）　・
・梁主筋	＊ガス圧接（D19以上）　・
・基礎スラブ、耐圧スラブ	・ガス圧接（　）　・
・土圧壁など	・重ね継手（　）　・
・耐震壁	＊重ね継手　・
・杭主筋	＊重ね継手　・

鉄筋の継手位置は鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造配筋指針・同解説（（社）日本建築学会）による

	4 圧接完了後の試験 (5.4.9)(7.6.11(5)準用)	抜取試験の方法 ＊ 超音波探傷試験　・ 引張試験 受注者が検査機関と直接締結した契約書の写しを提出する。
⑥コンクリート工事	① コンクリートの種類と強度 (6.2.1～2)(6.10.1～2)	＊ 普通コンクリート

設計基準強度(Fc)	気乾単位容積質量	スランプ	適用箇所
＊21N／mm2	＊2.3t/m3程度		基礎一般

・ 軽量コンクリート

設計基準強度(Fc)（N／mm2）	種別	所用気乾単位容積質量（t／m3）	適用箇所
	・1種 ・2種		
	・1種 ・2種		

	② ﾚﾃﾞｨｰﾐｯｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ (6.2.1)(6.4.1～2)	種別　＊Ⅰ類　・Ⅱ類　(表6.2.1)
	③ 構造体コンクリートの仕上り (6.2.5(b))	打放し仕上げの種別（合板せき板を用いる場合）　(表6.2.4)

種別	適用箇所
・Ａ種	
⊙Ｂ種	図示による
・Ｃ種	

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者
A－001（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	特記仕様書（１）		H26.10				

一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

7 鉄骨工事

項目	特記事項
1 鉄骨製作工場 (7.1.3)	＊ 指定性能評価機関によるグレードの指定 ・ Ｓ ・ Ｈ以上 ・ Ｍ以上 ・ Ｒ以上 ・ Ｊ以上 ・ 監督職員が承諾する製作工場
2 施工管理技術者 (7.1.4)	＊ １級鉄骨製作管理技術者 ・ 監督職員が承諾するもの
3 鋼材 (7.2.1)(7.2.4)	鋼材の材質等 (表7.2.1) 種類の記号 ・ SS400 ・ SN400A ・ SM490A ・ SSC400 ・ STKR400
4 高力ボルト (7.2.2)(7.3.2)(7.4.1～9)	高力ボルトの種別 ＊ トルシア形 ・ ＪＩＳ形 ・ 溶融亜鉛めっき
5 アンカーボルト (7.2.4)(7.10.3)	材質 （構造用） ＊ SNR400 （建方用） ＊ SS400 構造用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びｱﾝｶｰﾌﾚｰﾑの形状及び寸法 ＊ 図示による 建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの保持及び埋込み工法 (表7.10.1) ・ Ａ種 ＊ Ｂ種 ・ Ｃ種
6 柱底均しモルタル (7.2.9)(7.10.3)	材料 ＊ 無収縮モルタル ・ モルタル (表7.2.6) 厚さ ＊ 図示による 工法 ＊ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ 図示による (表7.10.2)
7 溶接部の確認 (7.6.10)	溶接施工管理技術者が確認する。
8 溶接部の試験 (7.6.11)	＊ 完全溶込み部の超音波探傷試験 ・ 放射線透過試験 受注者が検査機関と直接締結した契約書の写しを提出する。
9 錆止め塗装 (7.8.1～4)	塗料の種別 鉄鋼面 ＊ Ａ種 ・ Ｂ種 (表18.3.1) 亜鉛めっき鋼面 ・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種 (表18.3.2)
10 耐火被覆材の種類及び性能 (7.9.2～7)	種類 ・ ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り ・ 耐火材吹付け ・ 耐火板張り ・ 耐火材巻付け 性能 ・ ３０分耐火 ・１時間耐火 ・２時間耐火 ・３時間耐火
11 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (7.2.2)(7.3.2)(7.12.4)	摩擦面の処理 ＊ ブラスト処理 ・

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

項目	特記事項
1 コンクリートブロック帳壁及び塀 (8.3.2)	(表8.3.1) 適用箇所：間仕切壁、地下二重壁、外壁、塀 → ＊ 空洞ブロック １６／・ 防水性空洞ブロック Ｗ－１６ 適用箇所：衛生配管用裏積みブロック → ＊ 空洞ブロック ０８／・ 空洞ブロック １６
2 ＡＬＣパネル (8.4.2～6)	用途区分：外壁用 ＊ 平パネル ・ 意匠ﾊﾟﾈﾙ／表面加工区分：＊ 100 ・ 120／厚さ(mm)：・120 ・150 ・200 ・300／単位荷重(×9.8N/㎡)：・ Ａ種 ・ Ｂ種／耐火性能：・ １時間 ・／備考 用途区分：間仕切用 ＊ 平パネル ・ 意匠ﾊﾟﾈﾙ／表面加工区分：＊ 100 ・ 120／厚さ(mm)：・65 ・／単位荷重(×9.8N/㎡)：・ Ｃ種 ・ Ｄ種 ・ Ｅ種／耐火性能：・ １時間 ・／備考 用途区分：屋根用 ＊ 平パネル／表面加工区分：＊ 100 ・ 120／厚さ(mm)：・100 ・／単位荷重(×9.8N/㎡)：＊ Ｆ種／耐火性能：・ 30分間／備考
3 押出成形セメント板（ＥＣＰ） (8.5.2～5)	使用箇所：外壁／表面形状：・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ ・ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ ・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ／厚さ(mm)：・ 35 ・ 50 ・ 60 ・ 75 ・ 100／耐火性能／工法種別：・ Ａ種 ・ Ｂ種／備考 使用箇所：間仕切壁／表面形状：・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ ・ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ ・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ／厚さ(mm)：・ 35 ・ 50 ・ 60 ・ 75 ・ 100／耐火性能／工法種別：・ Ｂ種 ・ Ｃ種／備考

パネル開口の限度

		開口の大きさ	切断後のパネルの残り部分の幅
・開口幅	長辺	・	・
	短辺	・	・
・切り欠き	長辺	・	・
	短辺	・	・

9 防水工事

項目	特記事項
1 アスファルト防水 (9.2.2～5)	(表9.2.3～9) 工法種別：・ Ａ－１ ・Ａ－２ ・Ａ－３／・ ＡＩ－１ ・ＡＩ－２ ・ＡＩ－３／・ Ｂ－１ ・Ｂ－２ ・Ｂ－３／・ ＢＩ－１ ・ＢＩ－２ ・ＢＩ－３／・ Ｄ－１ ・Ｄ－２ ・Ｄ－３ ・Ｄ－４／・ ＤＩ－１ ・ＤＩ－２／・ Ｅ－１ ・Ｅ－２ → 施工箇所 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材 材質 ＊ Ａ種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材 ３種ｂ ｽｷﾝ層付き（特定フロンを使用していないもの） ・ 厚さ ＊ ２５mm ・ 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 材質 ＊ Ａ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材 ２種１号又は２号で透湿係数を除く規格に適合するもの ・ 厚さ ＊ ２５mm ・ 防水立上り部の保護 ＊ 乾式保護材 ・ れんが 脱気装置 ＊ 設ける（ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の指定による） ・ 設けない
2 改質アスファルトシート防水 (9.3.2～3)	(表9.3.1～3) 工法種別：・ ＡＳ－Ｔ１ ・ＡＳ－Ｔ２ ・ＡＳ－Ｊ１／・ ＡＳ－Ｔ３ ・ＡＳ－Ｔ４ ・ＡＳ－Ｊ２／・ ＡＳＩ－Ｔ１ ・ＡＳＩ－Ｊ１ → 施工箇所 屋根露出防水絶縁断熱工法に用いる断熱材 材質 ＊ Ａ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材 ２種１号又は２号で透湿係数を除く規格に適合するもの ・ 厚さ ＊ ２５mm ・ 脱気装置 ＊ 設ける（改質アスファルトシート類製造所の指定による） ・ 設けない 屋根露出防水絶縁断熱工法の防湿層 ＊ 設ける（改質アスファルト製造所の仕様による） ・ 設けない
3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2～3)	(表9.4.1) 種別：・ Ｓ－Ｆ１ ・ Ｓ－Ｆ２ ・ Ｓ－Ｍ１ ・ Ｓ－Ｍ２ ・ Ｓ－Ｍ３／シート厚(mm)：＊ 1.2 ・ ＊ 2.0 ・ ＊ 1.5 ・ ＊ 1.5 ・ ＊ 1.2 ・／施工箇所

10 石工事

項目	特記事項
1 天然石 (10.2.1(a))	品質(JIS A 5003による等級) 床用 ＊ ２等品 ・ その他 ＊ １等品 ・ 形状及び寸法 ＊ 図示による 石材の種類・仕上げ等 (表10.2.1)(表10.2.2)
2 取付け金物 (10.2.2)	乾式工法の方式 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式 (表10.2.4)
3 その他の材料 (10.2.3)	石裏面処理材 ・ 石材施工業者の指定製品 裏打ち処理材 ・ 石材施工業者の指定製品 ドレンパイプ ・ 金物固定充填材料 ・ 石材施工業者の指定製品
4 定礎	定礎石 種類(産地、名称等) ・ 寸法(mm) Ｗ×Ｈ×ｔ＝ 収納箱 材質 ＊ ｽﾃﾝﾚｽ(SUS304) t=0.8mm ・ 鋼板 t=0.4mm 寸法(mm) Ｗ×Ｈ×ｔ＝

11 タイル工事

項目	特記事項
1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3)	伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の設置位置 外壁 ・ 図示による ・ 表11.1.1による ・ 伸縮調整目地の設置位置 屋内 ・ 11.1.3(b)による
2 タイル (11.2.2)(11.3.2)(11.4.2)	タイルの種類 ＊ 一般品 ・ 再生材利用タイル 施工箇所／形状寸法(mm)／吸水率による区分：・ Ⅰ類 ・ Ⅱ類 ・ Ⅲ類／耐凍害性の有無 うわぐすりの有無：・有 ＊無 ・施釉 ・無釉／備考（参考品番等） ＊ タイルの色は特記無き限りメーカー標準色とする。

(表9.4.2)

種別	シート厚(mm)	施工箇所
・ＳＩ－Ｆ１	＊ 1.2 ・	
・ＳＩ－Ｆ２	＊ 2.0 ・	
・ＳＩ－Ｍ１	＊ 1.5 ・	
・ＳＩ－Ｍ２	＊ 1.5 ・	

機械的固定工法に用いる断熱材
材質 ＊ Ａ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材 ２種１号又は２号で透湿係数を除く規格に適合するもの又はＡ種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材
・
厚さ ＊ ２５mm ・
接着工法に用いる断熱材
材質 ＊ Ａ種ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの
・
厚さ ＊ ２５mm ・

(表9.5.1～2)

種別	施工箇所
・ Ｘ－１	
・ Ｘ－２	
・ Ｙ－１	
・ Ｙ－２	

種別Ｘ－１における脱気装置
＊ 設ける（種類・設置数量は主材料製造所の指定による）
・ 設けない
種別Ｙ－２における保護層
・ 設ける ・ 設けない

(表9.6.2)

種別	施工箇所
・ Ｃ－ＵＩ	
・ Ｃ－ＵＰ	

12 木工事

項目	特記事項
1 表面仕上げ (12.1.4)	(表12.1.1) 種別：・ Ａ種／＊ Ｂ種／⊙ Ｃ種／・ Ｄ種 → 適用箇所：図示による 部材全般
2 木材 (12.2.1)	木材の含水率 ＊ Ａ種 ⊙ Ｂ種 (表12.2.1) 製材 ＊「製材の日本農林規格」による ・「製材の日本農林規格」以外の製材 造作材材面の品質 ＊ Ａ種 ・ Ｂ種 (表12.2.2) 樹種は、図示または標準仕様書による。 代用樹種 ・ 認める ＊ 認めない (表12.2.3) 県内産木材を使用する。
3 造作用集成材 (12.2.1)	＊「集成材の日本農林規格」による ・「集成材の日本農林規格」以外の集成材 ・ 造作用集成材（寸法は図示による） 施工箇所／樹種／見付け材面の品質：＊ 1等 ・
	・ 化粧ばり造作用集成材（寸法は図示による） 施工箇所／心材の樹種／化粧薄板の樹種／化粧薄板の厚さ(mm)／見付け材面の品質 柱／鴨居・長押・回縁／天井板／敷居
	・ 化粧ばり構造用集成材（寸法は図示による） 施工箇所／心材の樹種／化粧薄板の樹種／化粧薄板の厚さ(mm)
4 造作用単板積層材 (12.2.1)	＊「単板積層材の日本農林規格」による ・「単板積層材の日本農林規格」以外の集成材 ・ 造作用単板積層材（寸法は図示による） 施工箇所／表面の品質：天然木化粧加工／防虫処理／厚さ(mm)
5 床張り用合板等 (12.2.1)	・ 普通合板(厚さ ＊ 5.5mm ・) 接着の程度 ＊ １類 ・ ２類 表板の樹種 ・ ラワン ・ しな ・ 針葉樹 板面の品質（広葉樹） ・ １等 ・ ２等 （針葉樹） ・ Ｃ－Ｄ ・ 処理 ・ 防虫処理 ・ ・ 構造用合板(厚さ ＊ 12mm ・) 種別 ・ 特類 ＊ １類 表板の樹種 ・ ラワン ・ しな ・ 針葉樹 等級 ・ １級 ＊ ２級 板面の品質 ＊ Ｃ－Ｄ ・ 処理 ・ 防虫処理 ・ ・ パーティクルボード(厚さ ＊ 15mm ・) 曲げ強さによる区分 ・ 18 ＊ 13 ・ 8 接着剤による区分 ・ Ｕ ・ Ｍ ・ Ｐ ・ 構造用パネル(厚さ mm 等級)

役物使用箇所（形状は図示による）
内装 ＊ 出隅 ＊ 天端 ・
外装 ＊ 出隅 ＊ 窓台 ＊ マグサ ・
（標準一体成型品以外は接着成型品とする）
タイルの試験張り ＊ 行わない ・ 行う（ ）
タイルの見本焼き ＊ 行わない ・ 行う（ ）

3 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り (11.2.7)	モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 ・ ＭＣＲ工法 ・ 目荒らし工法（高圧洗浄） 壁タイル張りの工法 外装タイル ・ 密着張り ・ 改良積上げ張り ・ 改良圧着張り ユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り
4 接着剤によるに陶磁器質タイル張り (11.3.7)	モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・ ＭＣＲ工法 ・ 目荒らし工法（高圧洗浄）
5 陶磁器質タイル型枠先付け (11.4.3)	・ タイルシート法 ・ 目地桝法 ・ 桟木法

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者
A－002 （ ）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	特記仕様書（２）		H26.10				

一級建築士事務所第1825号 フジタ設計室
設計者 一級建築士第147056号 藤田 潔雄

13 屋根及びとい工事

6 防腐・防蟻処理 (12.3.1)
処理方法
・ 薬剤の加圧注入（保存処理性能区分　＊Ｋ３　）
・ 薬剤の塗布
・ 接着剤への薬剤混入
適用箇所（　）

7 防虫処理 (12.3.2)
ラワン材　保存処理　Ｋ１

① 長尺金属板葺 (13.2.2～3)
金属板の種類
＊ 塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑｰ亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(屋根用)
・ ポリ塩化ビニル被覆金属板（用途 Ａ種、下地鋼板 ＳＧ）
・ 溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑｰ亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯
・ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
⊙ カラーガルバニューム鋼板（屋根用）
金属板の厚さ（mm）
一般部　・0.3　・0.35　＊0.4　・0.5　⊙0.27
谷　部　・0.3　＊0.4　・0.5　・
下地材料　・ アスファルトルーフィング940
・ 改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ　・複層材タイプ　・粘着層付きタイプ）
屋根葺形式
＊ 瓦棒葺(心木なし)　・ 立平葺　・ 横葺　・ あり掛葺
⊙ 丸波板
雪止め　＊ 設置する　⊙ 設置しない

2 折板葺 (13.3.2)
形式　＊ 重ね形　・ はぜ締め形　・ かん合形
山高　　mm　山ピッチ　　mm
耐力による区分
・ １種　・ ２種　・ ３種　・ ４種　・ ５種
厚さ(mm)　＊0.8　・
材料
＊ 塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑｰ亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(屋根用)
・ ポリ塩化ビニル被覆金属板（用途 Ａ種、下地鋼板 ＳＧ）
・ 溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑｰ亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯
・ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
・
・
軒先面戸板　・ 適用する　・ 適用しない
断熱材張り　・ 行う　・ 行わない
断熱材の種別
厚さ(mm)
防火性能

3 その他の金属板葺

部位	材種	仕上げ	とい受金物
軒とい	・ 硬質塩化ビニル雨とい	＊ カラー	＊ 市販品 ・ 図示による
縦とい	・ 硬質塩化ビニル雨とい ・ 硬質塩化ビニル管(VP) ・ 配管用鋼管	＊ カラー ・ 図示による	＊ 市販品 ・ 図示による

4 粘土瓦葺 (13.4.2～3)
製法による区分　＊ ゆう薬がわら　・ いぶしがわら
形状による区分　＊ Ｊ形　・ Ｓ形　・ Ｆ形
寸法による区分　・ 49A　・ 49B　・ 53A　＊ 53B　・
産地による区分　＊ 石州瓦
役物瓦の種類　・ がんぶり　・ のし瓦　・ 軒瓦　・ そで瓦
雪止め瓦　＊ 使用する　・ 使用しない
棟の工法　・７寸丸伏せ棟　・のし一体棟　・ のし積み棟

⑤ とい (13.5.2～3)

部位	材種	仕上げ	とい受金物
軒とい	⊙ 硬質塩化ビニル雨とい	＊ カラー	＊ 市販品 ⊙ 図示による
縦とい	⊙ 硬質塩化ビニル雨とい ・ 硬質塩化ビニル管(VP) ・ 配管用鋼管	＊ カラー ・ 図示による	＊ 市販品 ⊙ 図示による

6 縦といの床及び天井面の取合部 (13.5.3)
防露を行う場合
＊ 13.5.3(c)による（幅木 h=150mm　回り縁 h=30mm）
防露を行わない場合
＊ ｼｰﾘﾝｸﾞﾌﾟﾚｰﾄ(ｽﾃﾝﾚｽ製)を取り付ける。
施工箇所
屋内露出部の床・天井貫通部及びボード類仕上げの天井貫通部

7 施工保証書
建築板金工事に係る施工保証
・ 屋根の防水　10年間
・ 雨どい　５年間
・ 壁の防水　10年間
上記期間の施工保証書を提出し、期間内に受注者の責任により漏水したときは、受注者の負担により直ちに補修することを確約する。

14 金属工事

1 あと施工アンカー (14.1.3(b))
引抜き耐力の確認試験
＊ 機械的簡易引抜試験機による引張試験　・ 行わない
設計用引張強度

2 ステンレスの表面仕上げ (14.2.1)
屋外　＊ #400　・ ＨＬ　・ 図示による
屋内　・ #400　＊ ＨＬ　・ No.2B　・ 図示による

3 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)
(表14.2.1)

適用箇所	表面処理の種別	複合皮膜の種類
	・ B-1種 ・ B-2種 ・	・ A1 ・ A2
	・ B-1種 ・ B-2種 ・	・ A1 ・ A2
	・ B-1種 ・ B-2種 ・	・ A1 ・ A2

4 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3)
(表14.2.2)

表面処理方法	種別	適用箇所
溶融亜鉛めっき	・ Ａ種	
	・ Ｂ種	
	・ Ｃ種	
電気亜鉛めっき	・ Ｄ種	
	・ Ｅ種	
	・ Ｆ種	

5 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2～4)
野縁等の種類
屋内　＊ １９形　・ ２５形
屋外　・ １９形　＊ ２５形
照明器具、吹出口、その他開口部周辺では必要に応じ増吊りを行う。
耐震性を考慮した補強　・ 図示による
屋外の軒天井・ピロティー天井等の補強　・ 図示による
天井のふところが３ｍを超える場合　・ 図示による

6 軽量鉄骨壁下地 (14.5.3)
スタッド・ライナーの種類
＊ 表14.5.1のスタッドの高さによる区分に応じた種類とする
・ 図示による

7 金属成形板張り (14.6.2～3)

種別	・ ｱﾙﾐｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ(既製品)	
製法	＊ 押出　・ ロール	
寸法(mm)	板幅　板厚	
表面処理	・ B-1種　・ B-2種	
伸縮継手	＊ 設けない　・ 設ける	
形状	・ 図示による	
施工箇所		

8 アルミニウム製笠木 (14.7.2)
部材の種類
・ ２５０形　・ ３００形　・ ３５０形
笠木本体の材料の表面処理
＊ A-1種またはB-1種　・ 製造所の仕様

9 手すり (14.8.2)

施工箇所	材料の種別	表面処理の仕上げ	備考

10 タラップ (14.8.3)
材料の種別　・ ステンレス　・ 鋼製
表面処理の種別　・

15 左官工事

1 既製目地材 (15.2.2)
適用箇所（　）
形状等　・ 図示による　・

2 防水剤入りモルタル塗り
塗り厚さ（mm）
壁　＊ 20　・
床　＊ 30　・
外壁タイル張り下地等の均しモルタルの接着力試験
・行う　・行わない

3 ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り (15.4.2)
(表15.4.1)

種類	施工箇所
＊ セメント系	
・ せっこう系	

4 仕上塗材仕上げ (15.5.2)
(表15.5.1)

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	備考
・ 薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材Si	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ 吹付け ・ ﾛｰﾗｰ塗り	
	・ 外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け	
	・ 可とう形外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ 吹付け ・ ﾛｰﾗｰ塗り	
	・ 防水形外装薄塗材Ｅ	・ 凹凸状 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ 吹付け ・ ﾛｰﾗｰ塗り	
	・ 外装薄塗材Ｓ	・ 砂壁状	・ 吹付け	
	・ 内装薄塗材Ｗ	・ 京壁状じゅらく	・ 吹付け	
・ 厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材Ｃ ・ 内装厚塗材Ｃ	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ ひき起こし	・ 吹付け ・ こて塗り	
	・ 外装厚塗材Ｅ	・ 吹放し ・ 凸部処理	・ 吹付け	
・ 複層仕上塗材	・ 複層塗材CE ・ 複層塗材Si ・ 複層塗材Ｅ ・ 複層塗材RE ・ 可とう形複層塗材CE ・ 防水形複層塗材CE ・ 防水形複層塗材Ｅ ・ 防水形複層塗材RS ・ 防水形複層塗材RE	・ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸模様	・ 吹付け ・ ﾛｰﾗｰ塗り	
・ 軽量骨材仕上塗材	・ 吹付用軽量塗材 ・ こて塗り用軽量塗材	・ 砂壁状 ・ 平たん状	・ 吹付け ・ こて塗り	

複層仕上塗材の上塗材の種類 (表15.5.2)

仕上塗材の種類	樹脂	溶媒	外観
・	＊ アクリル系 ・ シリカ系 ・ ポリウレタン系 ・ アクリルシリコン系 ・ ふっ素系	＊ 水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系	＊ つやあり ・ つやなし ・ メタリック

5 マスチック塗材塗り (15.6.2)

適用箇所	種別	凸面処理
	・A種 ・B種	・行う ・行わない
	・A種 ・B種	・行う ・行わない
	・A種 ・B種	・行う ・行わない

仕上材　・ ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙ　・ つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ

16 建具工事

1 防火戸 (16.1.3)
煙感知器連動とする防火戸の解錠機構は別途とする。
＊ 扉にラッチ受座用切込開口補強を行う
・ 枠に解錠機構用切込開口補強を行う

2 防犯建物部品 (16.1.6)
・適用する（　）

3 アルミニウム製建具 (16.2.2)
外部に面する建具
＊ ビル用サッシ
種別　＊ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　(表16.2.1)
表面処理　・ Ｂ－１種　・ Ｂ－２種(色調：　)
複合皮膜の種類　・ Ａ１　・ Ａ２
・ 木造用サッシ
種別　(木造標準仕様書：表16.2.1)
・ Ａ種　・ Ｂ種
表面処理　・ Ｂ－１種　・ Ｂ－２種(色調：　)
複合皮膜の種類　・ Ａ１　・ Ａ２
・ 防音ドアセット、防音サッシ
遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ
断熱性の等級　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
・ 耐震ドアセット
変形追従性の等級　・ Ｄ－１　・ Ｄ－２　・ Ｄ－３
結露水の処理方法　＊ 図示による

4 網戸 (16.2.3(e))
種類　＊ 可動式　・ 固定式
表面処理　・ Ｂ－１種　・ Ｂ－２種(色調：　)
防虫網の材質
＊ ガラス繊維入り合成樹脂製　・ 合成樹脂製
・ ステンレス(SUS316)製

5 樹脂製建具 (16.3.2)
性能及び構造
種別　＊ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　(表16.3.1)
・ 防音ドアセット、防音サッシ
遮音性の等級　・ Ｔ－Ａ種(Ｔ－１)　・ Ｔ－Ｂ種(Ｔ－２)
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ
断熱性の等級　・ Ｈ－Ａ種(Ｈ－４)　・ Ｈ－Ｂ種(Ｈ－５)

6 鋼製建具 (16.4.2～3)
外部に面する建具の耐風圧性　・ S-4　・ S-5　・ S-6
・ 防音ドアセット、防音サッシ
遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ
断熱性の等級　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
・ 耐震ドアセット
変形追従性の等級　・ Ｄ－１　・ Ｄ－２　・ Ｄ－３
鋼板　・ JIS G 3302 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
・ JIS G 3317 溶融亜鉛－５%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯

7 鋼製軽量建具 (16.5.2～3)
性能及び構造
・ 防音ドアセット、防音サッシ
遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ
断熱性の等級　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
・ 耐震ドアセット
変形追従性の等級　・ Ｄ－１　・ Ｄ－２　・ Ｄ－３
材料
鋼板類
＊ 表面処理亜鉛めっき鋼板または表面処理鋼板
・ ビニル被覆鋼板　・ カラー鋼板
召合せ、縦小口包み板等の材質
＊ 鋼板　・ ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の押出形材

8 ステンレス製建具 (16.6.2～4)
外部に面する建具の耐風圧性　・ S-4　・ S-5　・ S-6
・ 防音ドアセット、防音サッシ
遮音性の等級　・ Ｔ－１　・ Ｔ－２　・ Ｔ－３
・ 断熱ドアセット、断熱サッシ
断熱性の等級　・ Ｈ－１　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３
・ 耐震ドアセット
変形追従性の等級　・ Ｄ－１　・ Ｄ－２　・ Ｄ－３
ステンレス鋼板　＊ ＳＵＳ３０４
表面仕上げ　・ ＨＬ　・ #400　・
曲げ加工　＊ 普通曲げ　・ 角出し曲げ（・a角　・b角　・c角）

⑨ 木製建具 (16.7.2)(16.7.4)
フラッシュ戸の材料
表面材の合板の種類　＊ 図示による
かまち戸の材料
かまち及び鏡板の樹種　＊ 図示による
ふすまの材料
＊ Ⅰ形　・ Ⅱ形　(表16.6.3)
上張りの種類　＊ 図示による
縁仕上　・ 塗り縁　・ 生地縁（素地）
・ 生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
枠及びくつずりの材料　＊ 図示による

⑩ 建具用金物 (16.8.2)
金物の形式
ドアクローザー　＊ 面付形　・ コンシールド形
ヒンジクローザー　＊ ピボット形　・ 丁番形
フロアヒンジ　＊ 中心吊り込み形　・ 持出し吊り込み形
レール戸車
らんまなどの軽微な箇所はビニル製としてよい
マスターキー　・ 製作する（　本）　⊙ 製作しない
・ 既存に合わせる
鍵箱　・ 設ける（　箇所）　⊙ 設けない

11 自動ドア開閉装置 (16.9.3)
戸の開閉方法　＊ 図示による
センサーの種類
・ マット　・ 電子(電磁)マット　・ 光線(反射)　・ 音波
・ 熱線　・ 光電　・ タッチ　・ ペダル　・ 押しボタン
取付位置　・ 天井　・ 床　・ 壁　・ 無目　・ 建具

12 重量シャッター (16.11.2)
種類　・ 一般　・ 外壁用防火　・ 屋内用防火　・ 屋内用防煙
防火及び防煙シャッターは、自動開鎖装置及び随時閉鎖装置付きとし、連動制御板及び煙感知器は別途とする。
耐風圧強度　・ 一般　N/㎡　・ 外壁用　N/㎡
開閉機能の種類　・ 上部電動式(手動併用)　・ 上部手動式
一般重量ｼｬｯﾀｰのｼｬｯﾀｰｹｰｽ　＊ 設ける　・ 設けない

13 軽量シャッター (16.12.2)
開閉形式　＊ 手動式　・ 上部電動式(手動併用)
耐風圧強度　・　N/㎡
スラットの材質
＊ JIS G 3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
・ JIS G 3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯
スラットの形状　＊ ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形　・ ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾋﾟﾝｸﾞ形
シャッターケース　＊ 設ける　・ 設けない
座板の材質(屋外の場合)　＊ ステンレス

14 オーバーヘッドドア (16.13.2)
セクション材料による区分
＊ ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ　・ ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ　・ ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ
耐風圧性能　・ 500Pa　・ 750Pa　・ 1000Pa　・ 1250Pa　・
開閉方式による区分
＊ バランス式　・ チェーン式　・ 電動式
収納形式による区分
＊ ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形　・ ﾛｰﾍｯﾄﾞ形　・ ﾊｲﾘﾌﾄ形　・ ﾊﾞｰﾁｶﾙ形

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	
A－003（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	特記仕様書（３）		H26.10					一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室 設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

17 カーテンウォール工事

15 ガラス (16.14.2)

ガラスの品種・性能・厚さ等は図示による
ガラス留め材（防火戸を除く）
＊ シーリング材
・ ガスケット（ ・ ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ形 ・ ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄﾞ形）
熱線反射ガラスの映像調整 ・ 行う ・ 行わない

16 ガラスブロック積み (16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ(mm)	施工箇所
・ 正方形			
・ 長方形			

17 付属電気設備

電動ｼｬｯﾀｰ、電動ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ、自動ドア等に付属する電気設備の施工範囲は下記による。
一次側電源供給 ＊ 別途工事 ・ 本工事
二次側配管配線器具取付 ＊ 本工事 ・ 別途工事
0.4kW以上の三相電動機には、機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断器及び進相用コンデンサを設置する。

1 性能 (17.1.3)

耐風圧性・耐震性・耐火性・断熱性等の諸性能値は図示による。

2 ﾒﾀﾙｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ (17.2.2)

金属材料の種類
・ アルミニウム ・ 鋼 ・ ステンレス
その他の材料及び形状・寸法等は図示による。

3 PCｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ (17.3.2)

コンクリートの種類 ＊ 軽量コンクリート１種 ・
設計基準強度(N／mm2) ＊ ３０ ・
その他の材料及び形状・寸法等は図示による。
ゴンドラ用ガイドレール ・ 設ける ・ 設けない

18 塗装工事

1 材料等 (18.1.3)

トルエン、キシレン等を含む材料については、できるだけ含有量の少ない材料の使用に努める。また、施工中及び施工後十分な換気を行う。

2 ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面耐候性塗料塗り (18.7.4)

適用箇所	種別
	・ A種 ・ B種 ・ C種
	・ A種 ・ B種 ・ C種
	・ A種 ・ B種 ・ C種

19 内装工事

1 材料等

トルエン、キシレン等を含む材料については、できるだけ含有量の少ない材料の使用に努める。また、施工中及び施工後十分な換気を行う。

2 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り (19.2.2～3)

・ ビニル床シート

種類	記号	色柄	厚さ(mm)	工法	備考
・ 発泡層のないもの	・ ＦＳ ・	＊ 無地 ・ 柄模様	・ 2.0 ・ 2.5	・ 突付け ・ 熱溶接	
・ 発泡層のあるもの	・ ＨＳ ・	・ 無地 ＊ 柄模様	・ 1.8 ・ 2.3	・ 突付け ・ 熱溶接	

・ ビニル床タイル

種類	記号	色柄	厚さ(mm)	備考
・ 複層ビニル床タイル	・ ＦＴ ・	＊ 無地 ・ 柄模様	＊ 2.0 ・ 3.0	
・ コンポジション	・ ＫＴ	＊ 無地 ・ 柄模様	＊ 2.0 ・ 3.0	

・ 特殊機能床材（帯電防止）

種類	記号	厚さ(mm)	性能
・ 床シート ・ 床タイル （ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・ ＦＳ ・ ＫＴ	＊ 2.0 ・	帯電防止性能評価値(JISA1455) 1.2以上 ～ 3.2未満 又は体積電気抵抗値(JISA1454) 1×10^{7} ～10^{10}

・ 特殊機能床材（帯電防止以外）

種類	材質	厚さ(mm)	寸法(mm)	備考
・ 視覚障害者用床材 (JIS T 9251)	・塩化ﾋﾞﾆﾙ ・合成ｺﾞﾑ	・ 2.0 ・ 3.0	＊ 300×300	
・ 耐動荷重性床ｼｰﾄ	・ ＮＣ	・ 2.0		
・ 防滑性床ｼｰﾄ	・	・		
・ 防滑性床ﾀｲﾙ	・	・		

・ ビニル幅木
高さ(mm) ・ 60 ・ 75 ・ 100
・ ゴム床タイル
厚さ(mm) ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0

3 カーペット敷き (19.3.3～4)

施工箇所（ ）
・ 織じゅうたん（ 参考品番 ： ）
種別 ・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種 （表19.3.1）
・ タフテッドカーペット（ 参考品番 ： ）
パイルの形状 ・ ﾙｰﾌﾟ ・ ｶｯﾄ パイル長 mm
工法 ・ ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法 ・ 全面接着工法
・ ニードルパンチカーペット（ 参考品番 ： ）
厚さ(mm) ・ 4.0 ・ 7.0（ラバー付）
・ タイルカーペット（ 参考品番 ： ）

種別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	制電性(人体帯電電位)	施工箇所
＊ 第一種 ・ 第二種	＊ ループ ・ カット	＊ 500×500 ・	＊ 6.5 ・	・ 3kV以下 ・	
＊ 第一種 ・ 第二種	＊ ループ ・ カット	＊ 500×500 ・	＊ 6.5 ・	・ 3kV以下 ・	
＊ 第一種 ・ 第二種	＊ ループ ・ カット	＊ 500×500 ・	＊ 6.5 ・	・ 3kV以下 ・	

人体帯電電位の測定条件は、JIS L 1023(23℃ 25%RH 合成底靴)による。

4 合成樹脂塗床 (19.4.3)

・ 厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床
仕上げの種類
・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
・ 厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床
工法及び仕上げの種類
・ 薄膜流し展べ工法（・ 平滑 ・ 防滑 ）
・ 厚膜流し展べ工法（・ 平滑 ・ 防滑 ）
・ 樹脂モルタル工法（・ 平滑 ・ 防滑 ）
・ 薄膜型塗床材
・ 床用防じん塗料塗り
・

5 フローリング張り (19.5.2～7)

品名・工法
・ 単層フローリング
品名 ・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ ・ ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ
工法 ・ 湿式工法(モルタル埋込み工法)
・ 乾式工法
・ 釘留め工法 （ ・ 根太貼り ・ 直貼り）
・ 接着工法
・ 複合フローリング
品名 ・ 複合１種 ・ 複合２種 ・ 複合３種
工法 ＊ 乾式工法
・ 釘留め工法 （ ・ 根太貼り ・ 直貼り）
（ ・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種）
・ 接着工法
仕上げ
・ ウレタン樹脂ワニス塗り
・ オイルステイン塗り
・ 生地のままワックス塗り
・ 塗装品

6 畳敷き (19.6.2)

種別
・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種 ＊ Ｄ種
Ｄ種の場合の畳床の記号
・KT-Ⅰ ＊KT-Ⅱ ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N

7 せっこうボード、その他ボード及び合板張り (19.7.2～3)

せっこうボード、その他ボード類の種類、厚さ、防火性能等は、図示による。
合板の種類等
・ 普通合板
種別 ＊ １類 ・ ２類
表板の樹種 ・ ラワン ・ しな ・ 針葉樹
板面の品質 （広葉樹） ・ １等 ・ ２等
（針葉樹） ・ Ｃ－Ｄ ・
処理 ＊ 難燃処理 ・ 防虫処理 ・
厚さ ＊ 図示による ・
・ 天然木化粧合板
化粧板の樹種 ・
処理 ＊ 難燃処理 ・ 防虫処理 ・
厚さ ＊ 図示による ・
・ 特殊加工化粧合板
化粧加工の方法
・ ｵｰﾊﾞｰﾚｲ（・ ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ ・ ﾒﾗﾐﾝ） ・ ﾌﾟﾘﾝﾄ ・ 塗装
処理 ＊ 難燃処理 ・ 防虫処理 ・
厚さ ＊ 図示による ・

せっこうボードの目地工法
＊ 突付け工法 適用箇所（下記２工法以外の箇所）
・ 目透し工法 適用箇所（ ）
・ 継目処理工法 適用箇所（ ）
グラスウール吸音材の取付方法
＊ ｶﾞﾗｽｸﾛｽ(104g/㎡)張りの上ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ留め(@450mm)

20 ユニット及びその他の工事

1 性能基準

本章でいう性能基準とは、公共住宅事業者等連絡協議会編集 公共住宅建設工事共通仕様書（平成２５年度版）で別に定める機材の品質・性能基準とする。

2 コーナービード (20.2.2)

材質 ＊ ｽﾃﾝﾚｽ製 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・

3 ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ (20.2.2)

施工箇所		
構法	・ ﾊﾟﾈﾙ構法 ・ 溝構法	・ ﾊﾟﾈﾙ構法 ・ 溝構法
耐震性能	・ 1.0G ・ 0.6G	・ 1.0G ・ 0.6G
耐荷重性能	＊ 3000N ・ 5000N	＊ 3000N ・ 5000N
高さ(mm)	・ 50 ・ 100 ・	・ 50 ・ 100 ・
ﾊﾟﾈﾙ要素の材質	・ ｽﾁｰﾙ系 ・ ｱﾙﾐ系 ・	・ ｽﾁｰﾙ系 ・ ｱﾙﾐ系 ・
床表面仕上げ材の材質	＊ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・ 帯電防止床ﾀｲﾙ	＊ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・ 帯電防止床ﾀｲﾙ
ボーダー部及びスロープの仕様	＊ 製造所仕様 ・ 図示による	＊ 製造所仕様 ・ 図示による

4 可動間仕切 (20.2.3)

構造形式による区分
＊ スタッド式 ・ パネル式 ・ スタッドパネル式
遮音性 ＊ 指定しない ・ 図示による
表面材の材質及び厚さ ＊ 鋼板(0.6mm) ・
パネル表面仕上げ ＊ ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付またはｱｸﾘﾙ樹脂焼付
・
・ 20.2.3(b)(6)を適用しない

5 移動間仕切 (20.2.4)

操作方法による区分
＊ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式
パネル表面材の材質及び仕上げ
＊ 溶融亜鉛めっき鋼板焼付塗装仕上げ
・ 合板張り（・クロス張り ・ＯＰ塗り）
パネル圧接装置の操作方法 ＊ 製造所仕様 ・
遮音性能 ・ 透過損失36dB以上 ・ 指定なし

6 トイレブース (20.2.5)

表面材 ・ ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板 ・ ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板
・ 塗装ステンレス板
ｴｯｼﾞ材質形状 ＊ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製Rｴｯｼﾞ ・ ステンレス製
幅木の材質 ・ ｽﾃﾝﾚｽ製 ・

7 階段滑り止め (20.2.6)

材質 ＊ ｽﾃﾝﾚｽ製 ・ 黄銅製 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製
ﾌﾗｯﾄｴﾝﾄﾞ ＊ 無 ・ 有（＊ ﾀｲﾔと同材 ・ ｽﾃﾝﾚｽ製）
形式 ＊ ﾋﾞﾆﾙﾀｲﾔまたは合成ｺﾞﾑﾀｲﾔ入り ・
幅(mm) ＊ ３５ ・
工法 ＊ 接着工法 ・ 埋込み工法

8 黒板及びホワイトボード (20.2.8)

・ 黒板(種類 ＊ 焼付け ・ 研出し 色 ＊ 緑 ・ ）
＊ ホワイトボード

8 壁紙張り (19.8.2)

施工箇所	品質・製造所等	防火性能
		・ 不燃 ・ 準不燃
		・ 不燃 ・ 準不燃
		・ 不燃 ・ 準不燃

9 断熱材 (19.9.2～3)

＊ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材（スキンなし）
種類 ＊ 3種b ・
厚さ(mm) ＊ 25 ・
・ ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材
種類 ＊ 特号 ・
厚さ(mm) ＊ 25 ・
・ Ａ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材
種類 ・ １種２号 ・
厚さ(mm) ＊ 25 ・
・ 吹付け硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材
種類 ＊ Ａ種 ・
厚さ(mm) ＊ 25 ・
・ グラスウール保温材
種類 ＊ 24K ・ 32K ・ 40K ・
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散による区分 ＊ Ｆ☆☆☆☆
呼び厚さ ・ 25 ・ 50 ・
・ 住宅用グラスウール断熱材
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散による区分 ＊ Ｆ☆☆☆☆
相対密度(kg/m3) ・ 10 ・ 16 ・ 24 ・
呼び厚さ ・ 50 ・ 75 ・ 100

10 天井回縁・見切縁

＊ アルミニウム既製品 ・ 塩化ビニル既製品

9 表示 (20.2.10)

・ 室名札
材質 ＊ ｱｸﾘﾙ ・ ｽﾃﾝﾚｽ ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ
文字書 ・ ｴﾅﾒﾙ書 ・ シート貼り ・ ｼﾙｸ印刷
寸法(mm)
・ ピクトグラフ
材質 ・ ｱｸﾘﾙ ・ ｽﾃﾝﾚｽ ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ
サイン書 ・ シート貼り ・ ｼﾙｸ印刷
寸法(mm)
・ 庁名文字
種別 ・ 切抜文字 ・ 箱文字
材質 ・ ステンレス ・ 黄銅
文字の大きさ(mm) × 文字数
・ 庁舎案内板 図示による
・ 視覚障がい者用案内板 図示による
・ 階数表示板
材質 ・ ｱｸﾘﾙ ・ ｽﾃﾝﾚｽ ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ
文字書 ・ ｴﾅﾒﾙ書 ・ シート貼り ・ ｼﾙｸ印刷
寸法(mm)
・ 衝突防止表示 図示による
・ 非常用進入口等の表示 図示による

10 煙突ライニング (20.2.11)

安全使用温度 ＊ ４００℃ ・ ６００℃

11 ブラインド (20.2.12)

形式	ｽﾗｯﾄの材種	開閉方式	ｽﾗｯﾄの幅(mm)	使用箇所
＊ 横型	＊ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金	＊ ギヤ式 ・ コード式	＊ ２５ ・ ３５	
・ 縦型	＊ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・ クロス	・ コード式 ・	・ ７５ ・ １００	

12 ロールスクリーン (20.2.13)

操作方法 ・ スプリング式 ・ チェーン式
材質 ・ 布製 ・ ガラス繊維製 ・ 木製
製造所等
幅・高さ ＊ 図示による

13 カーテン及びカーテンレール (20.2.14)

・ カーテン

施工箇所			
きれ地の種別			
品質・製造所			
ひだの種類	・ ﾌﾟﾚｰﾝひだ、片ひだ ・ 箱ひだ、つまひだ ・ フランスひだ	・ ﾌﾟﾚｰﾝひだ、片ひだ ・ 箱ひだ、つまひだ ・ フランスひだ	・ ﾌﾟﾚｰﾝひだ、片ひだ ・ 箱ひだ、つまひだ ・ フランスひだ
開閉形式	・片引き ・ 引分け	・片引き ・ 引分け	・片引き ・ 引分け
操作方式	・ 手引き ・ 電動 ・ ひも引き	・ 手引き ・ 電動 ・ ひも引き	・ 手引き ・ 電動 ・ ひも引き
備考			

・ カーテンレール及び付属品
強さ ＊ 10－90 ・ 10－60
材料 ＊ ｱﾙﾐﾆｳﾑ及びｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・ ｽﾃﾝﾚｽ
形状 ＊ 角形 ・ Ｃ形 ・Ｄ形
本数 ・ シングル ・ ダブル

14 くつふきマット

材種（受け枠はステンレス製とする）
・ ステンレス製 ・ アルミニウム製 ・ ビニル製

15 アコーディオンカーテン、ドア

消防法に規定する防炎加工を行ったものとする。

16 ｷｯﾁﾝｷｬﾋﾞﾈｯﾄ

規格 ・一般品（製造所等 ）
・ 性能基準による（＊ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ ・ｼｽﾃﾑｷｯﾁﾝ）

品名	材質 カｳﾝﾀｰﾄｯﾌﾟ、シンク	材質 キャビネット	寸法(mm)
・ 流し台	＊ ステンレス ・	＊ 木製 ・	Ｌ＝
・ コンロ台	＊ ステンレス ・	＊ 木製 ・	Ｌ＝
・ 調理台	＊ ステンレス ・	＊ 木製 ・	Ｌ＝
・ 吊戸棚		＊ 木製 ・	Ｌ＝ Ｈ＝
・ ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ ・ 換気ﾌｰﾄﾞ		＊ 鋼製	Ｌ＝

流し台は、トラップ(水封50mm以上)、網かご、包丁差し付きとする。
トラップへの配水管接続 ・ 本工事 ・ 別途工事
・ 水切棚
材質 ＊ ステンレス ・ アルミニウム
段数 ・ １段 ・ ２段
寸法(mm) Ｌ＝

17 点検口

・ 天井点検口 寸法(mm) ＊ 450×450 ・
材質 ＊ アルミニウム ・
・ 床点検口 寸法(mm) ＊ 600×600 ・
材質 ＊ ステンレス ・ アルミニウム

18 屋上点検口

形式 ＊ 公共住宅標準詳細設計図集による
材質 ＊ ステンレス ・ 鋼製
形状 ・ 丸形(600φ) ・ 角形(600角)

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者
A－004（ ）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	特記仕様書（４）		H26.10				

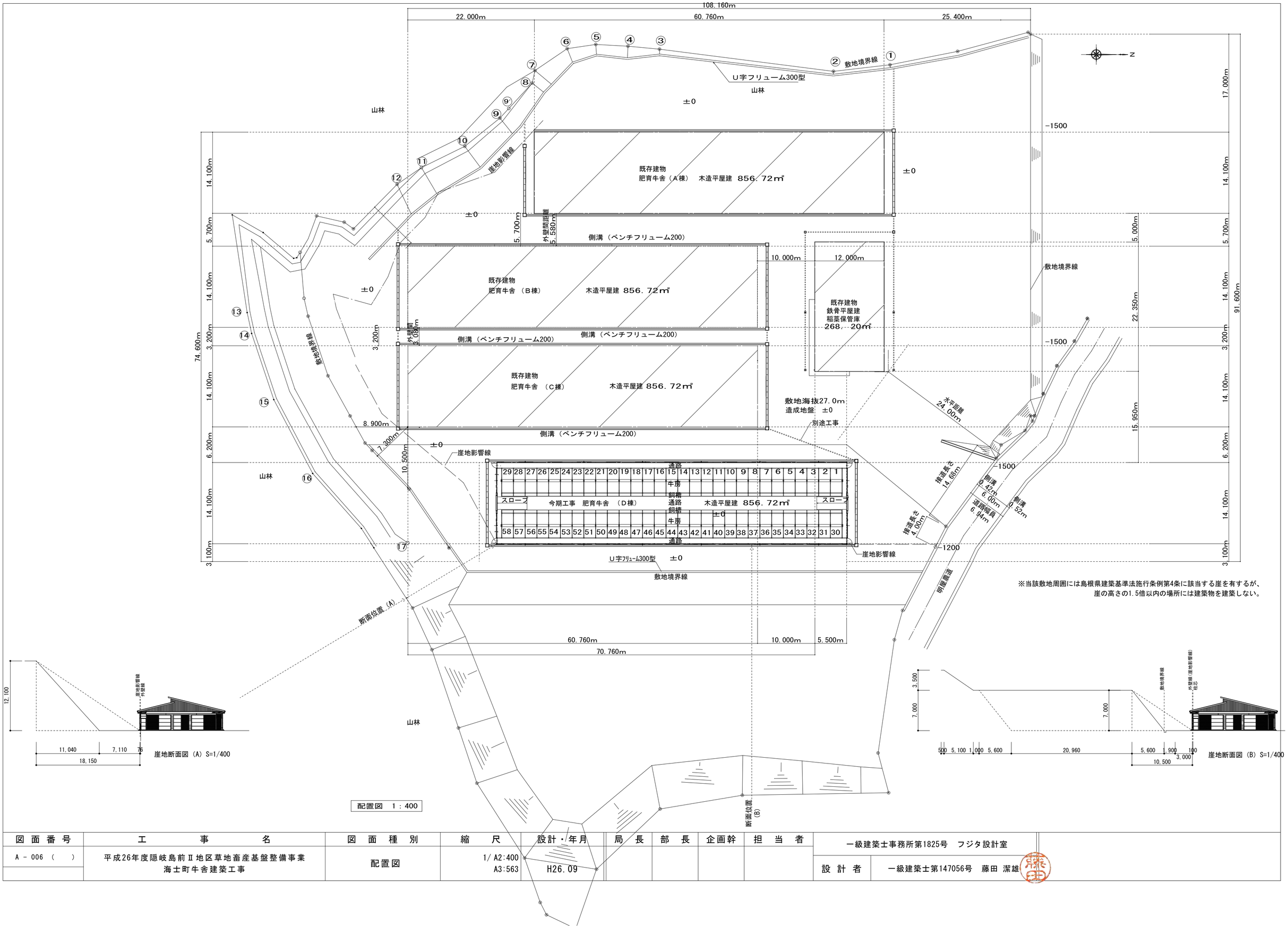
一級建築士事務所第1825号 フジタ設計室
設計者 一級建築士第147056号 藤田 潔雄

章	項目	特記事項
	19 天井裏換気ﾊﾟｲﾌﾟ	材質　＊ 塩化ﾋﾞﾆﾙ　・ ステンレス 径(mm)　＊ 50　・ 外部付属品　・ アミ　・ エルボ　・イゲタ
	20 床下換気孔	材質　・ ステンレス　・ 合成樹脂 寸法(mm)　・ 防虫網　・ ステンレス製　・ 合成樹脂製
	21 階段及び廊下 手すり	規格　＊ 性能基準による　・ 一般品 握り部材質　・ 合成樹脂　・ ステンレス　・ 木 握り部径(mm)　・ 34　・ 38　・ 40
	22 補助手すり	規格　＊性能基準による　・標準詳細図による　・一般品 握り部材質　・合成樹脂被覆ｽﾃﾝﾚｽ　・ｽﾃﾝﾚｽ　・ 木 握り部径(mm)　・ 34　・ 38　・ 40
	23 タオル掛け	形式　＊ 一般品(製造所：　　) ・ 公共住宅標準詳細設計図集(＊A　・B　・C　・D) 材質　・ｽﾃﾝﾚｽ　・ 樹脂被覆ｽﾃﾝﾚｽ 寸法(mm)　・ L=300　・ L=450　・ L=600　・
	24 浴室ユニット	規格　・ 性能基準による(・一般型　・高齢者対応型) (・A型　・B型) ・ 一般品 製造所等 外形呼び寸法　・１２１６　・１６１６　・
21 排水工事	① 排水管 (21.2.1)	材種　(表21.2.1) ・ 遠心力鉄筋コンクリート管 種類　＊ 外圧管Ｂ１　・ 継手　＊ ゴム接合　・ ＊ 硬質ポリ塩化ビニル管(＊VP ・VU ・RS-VU)
	② 側塊、排水桝等 (21.2.2)	排水桝 ⊙ 既製コンクリート桝 ⊙ 建築工事標準詳細図による ・ 島根県機械設備施工標準図(平成12年版)による ・ 図示による ・ 現場打ちコンクリート桝 ・ 建築工事標準詳細図による ・ 島根県機械設備施工標準図(平成12年版)による ・ 図示による ・ 桝ふた ⊙ 既製コンクリート製 ・ 鋳鉄製 種類　・水封型　・簡易密閉型　・密閉型　・中ふた付密閉型 安全荷重(kN)　・5　・15　・50 ・ グレーチング 材質　・ 鋼製　＊ ステンレス ・騒音防止　(　・ 固定式　・ ゴム式　)　・ 一般 ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ　・ 一般型　・ 細目型 耐荷重　・T-2　・ T-6　・ T-20 ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ　・ 適用する　・ 適用しない
	③ 埋戻しに用いる材料 (21.2.3(e))	種別　・ A種　＊ B種　・ C種　・ D種　(表3.2.1)
22 舗装工事	1 路床 (22.2.2～5)	路床の構成 ・ 遮断層　厚さ　mm ・ 凍上抑制層　厚さ　mm　材料 ・ フィルター層　厚さ　mm 路床安定処理 ・添加材料による安定処理 種類　・ｾﾒﾝﾄ系安定材　・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・高炉ｾﾒﾝﾄB種　・石灰系安定材 (処理厚さ　mm　目標CBR　・５以上) ・ 盛土に用いる材料　(表3.2.1) ・ A種　・ B種　・ C種　・ D種 遮断層に用いる材料 ・ 川砂、海砂又は良質な砂質土(75μmふるい通過量10%以下) ・ 凍上抑制層に用いる材料 ・ 川砂、海砂又は良質な砂質土(75μmふるい通過量10%以下) ・
	2 路盤 (22.3.2～5)	路盤の厚さ　＊ 図示による 材料　＊ 再生材ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40 ・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ C-40 ・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ 路盤の厚さ試験　＊ 行う　・ 行わない 路盤の締固め度試験　＊ 行う　・ 行わない
	3 アスファルト舗装 (22.4.2～6)	舗装の構成　＊ 図示による 種別 ＊ 再生加熱アスファルト混合物 ・ 加熱アスファルト混合物 ・ 廃ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ混合再生加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(混合率 5%) 加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の種類　(表22.4.6) 表層　＊ 密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13) ・ 密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13F) 基層　・ 粗粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(20) シールコート　・ 行う　＊ 行わない ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験　・ 行う　＊ 行わない
	4 コンクリート舗装 (22.5.2～6)	舗装の構成及び厚さ　＊ 図示による 早強セメント(寒冷期)　・ 使用する　＊ 使用しない コンクリート版の厚さの試験　・ 行う　＊ 行わない
	5 カラー舗装 (22.6.2～6)	舗装の種類 ＊ 加熱系 ・ アスファルト混合物 ・ 石油樹脂系混合物　(顔料の添加量　・　　) 添加する着色骨材又は自然石 ・ ・ 常温系 ・ 樹脂系混合物 ・ ニート工法 ・ 塗布工法 配合その他
	6 透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装 (22.7.2～6)	透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装の厚さ　＊ 図示による 透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物の抽出試験　・ 行う　＊ 行わない
	7 排水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装 (22.8.2～6)	排水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装の厚さ　＊ 図示による 排水性ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物の抽出試験　・ 行う　＊ 行わない
	8 ブロック系舗装 (22.9.2～5)	舗装の構成及び厚さ　＊図示による　・標準詳細図による(9-　-　) ・ コンクリート平板 種類　＊ 普通平板　・ 透水平板　・ 保水性平板 寸法(mm)　＊ 300×300×60　・ ・ ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ 材質　＊ ｺﾝｸﾘｰﾄ製　・ れんが製 種類　＊ 普通　・ 透水性　・ 保水性　・ 視覚障害者用 曲げ強度　＊ ５MPa以上　・ ３MPa以上　・ ４MPa以上 色彩　＊ カラー　・ ナチュラル 形状　・ 正方形　・ 長方形　・ 六角形　・ 厚さ(mm)　・ ６０　・ ８０　・ １００ 製造所等： ｸｯｼｮﾝ材　＊ 砂　・ から練りモルタル ・ 舗石 種類　・ 形状、寸法　＊ 図示による　・
	9 砂利敷き (22.10.2～3)	・ A種（施工箇所：　　） ・ B種（施工箇所：　　）
23 植栽工事	1 植栽地の確認等 (23.1.3)	土壌の酸度の試験　・ 行う　＊ 行わない 水溶性塩類（EC）の試験　・ 行う　＊ 行わない
	2 植栽基盤 (23.2.2～4)	植栽基盤整備工法 樹木　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　・ Ｄ種 芝、地被類　・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　・ Ｄ種 排水　・ 暗きょ　・ 開きょ　・ 排水層　・ 縦穴排水 土壌改良材（適用箇所は図示による） ・ パーク堆肥 製品は以下の各項目を満たすものとする ① 有機物の含有量(乾物)　70%以上 ② 炭素窒素比[C/N比]　35以下 ③ 陽ｲｵﾝ交換容量[CEC](乾物)　70meq/100g以上 ④ ｐＨ　５．５～７．５ ⑤ 水分　55～65% ⑥ 幼植物試験の結果　生育阻害その他異常が認められない ⑦ 窒素全量[N](現物)　0.5%以上 ⑧ りん酸全量[P2O5](現物)　0.2%以上 ⑨ カリ全量[K2O](現物)　0.1%以上 ・下水汚泥コンポスト 製品は以下の各項目を満たすものとする ① 有機物の含有量(乾物)　35%以上 ② 炭素窒素比[C/N比]　20以下 ③ pH　8.5以下 ④ 水分　50%以下 ⑤ 窒素全量[N](現物)　0.8%以上 ⑥ りん酸全量[P2O5](現物)　1.0%以上 ⑦ アルカリ分（現物）　15%以下
	3 支柱材 (23.3.2(c))	・ 間伐材　・ 真竹 ・ 加圧式防腐処理丸太 (防腐剤：CUAZ-2,CUAZ-3,AAC-1,AAC-2,NZN,ACQ)
	4 新植樹木の枯補償 (23.3.4)	補償期間　＊ 引き渡しの日から１年間
	5 移植樹木の枯損処置 (23.3.6)	枯損処置を行う期間　＊ 引き渡しの日から１年間
24 屋外整備工事	1 間知石及びｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ積み (20.4.2)	・ 間知石 材質　・ 花こう岩　・ ・ ｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ 面の形状　・ 長方形　・ 正方形　・ 六角形 質量区分　・ Ａ　・ Ｂ
	2 旗ざお	材質　＊ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　・ 鋼製　・ 操作方法　・ ロープ型　・ ハンドル型　・ 製造所：
	3 フェンス	種類　・ ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　・ ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ　・ 目隠しﾌｪﾝｽ　・ 格子ﾌｪﾝｽ 表面処理　＊ 亜鉛めっき＋粉体塗装　・ 溶融亜鉛めっき
	4 バリカー	材質　・ ｽﾃﾝﾚｽ製　・ 鋼製　・ 擬石製　・ 製造所：
	5 視覚障がい者誘導用、注意喚起用ﾌﾞﾛｯｸ	材質　・ ｺﾝｸﾘｰﾄ製　・ 磁器質ﾀｲﾙ製　・ 合成ｺﾞﾑ製　・ 寸法(mm)　＊ 300×300 形状　JIS T 9251 による
	6 屋外掲示板	材質　・ ｽﾃﾝﾚｽ製　・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　・ 鋼製 形式　・ 自立型　・ 外壁設置型 寸法(mm) 製造所：

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者
A－005（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	特記仕様書（５）		H26.10				

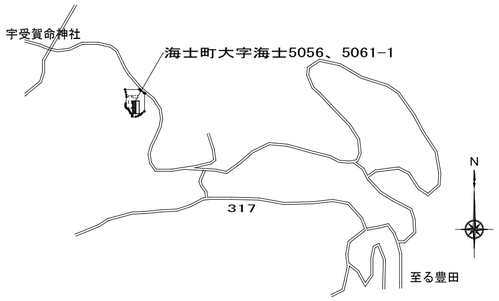
一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室

設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

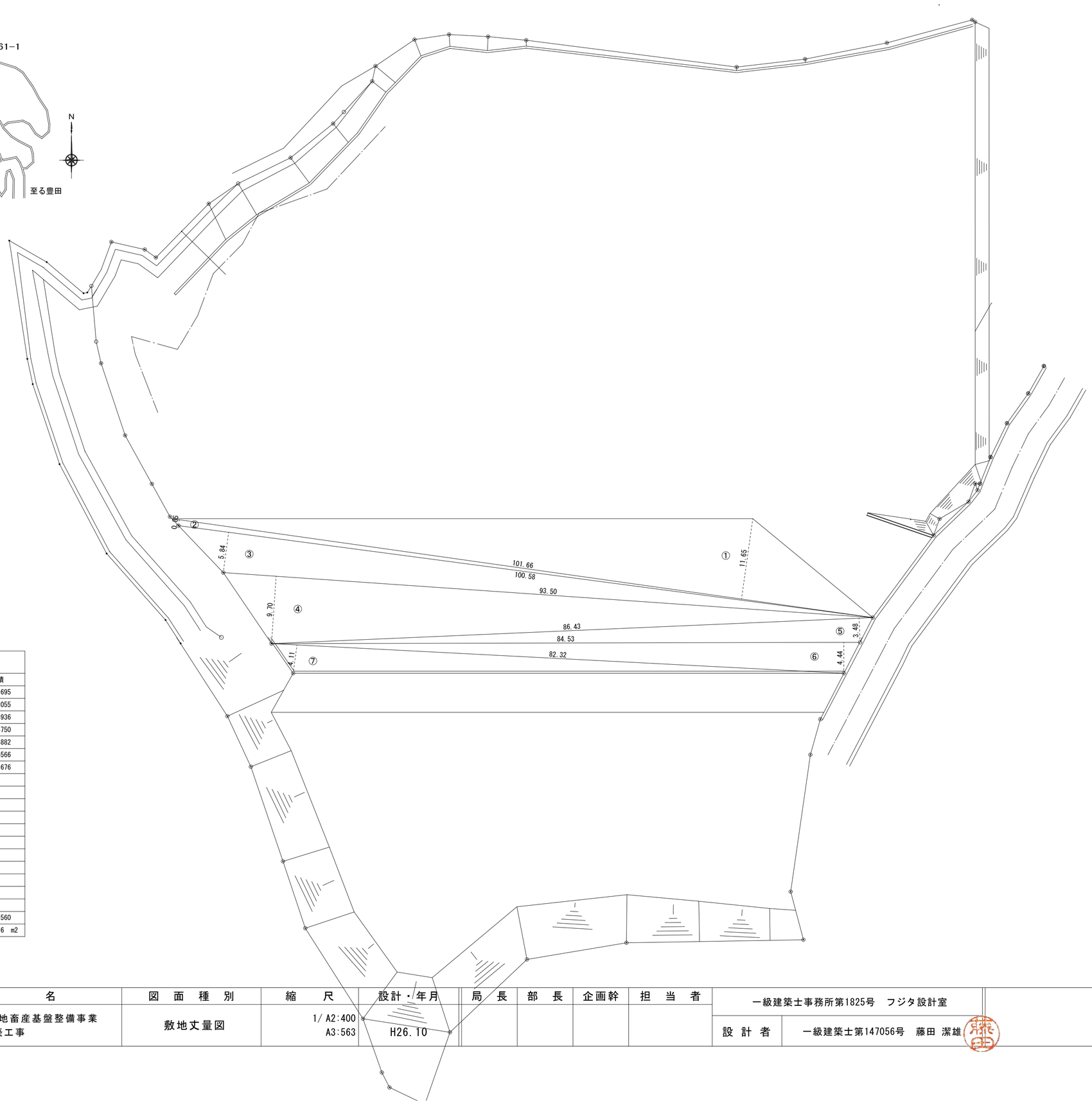


図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	
A－006（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	配置図	1/A2:400 A3:563	H26.09					一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室 設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

※当該敷地周囲には島根県建築基準法施行条例第4条に該当する崖を有するが、
崖の高さの1.5倍以内の場所には建築物を建築しない。



付近見取図



求積表　【敷地面積】

番号	底　辺	高　さ	倍　面　積	面　　積
①	101.66	11.65	1,184.3390	592.1695
②	101.66	0.85	86.4110	43.2055
③	100.58	5.84	587.3872	293.6936
④	93.50	9.70	906.9500	453.4750
⑤	86.43	3.48	300.7764	150.3882
⑥	84.53	4.44	375.3132	187.6566
⑦	82.32	4.11	338.3352	169.1676
合　　計				1,889.7560
敷地面積				1,889.76　m2

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
A－007（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	敷地丈量図	1/A2:400 A3:563	H26.10					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

外　部　仕　上　表

屋　根	カラーガルバニューム鋼板波板ア０．２７断熱材ア３０裏貼り仕様	犬走り	コンクリート金こて押さえ	軒樋	塩ビ製半丸Ｗ＝１０５　受金物　亜鉛めっき製@８１６　集水桝　塩ビ製半丸Ｗ１０５用
下屋根	カラーガルバニューム鋼板波板ア０．２７断熱材ア３０裏貼り仕様	側溝	ベンチフリューム	竪樋	塩ビ製φ６５　掴金物　亜鉛めっき製@１０００以内　下部エルボ付き
外　壁	上部：杉板ア１５×１５５程度　竪羽目板貼り　押え６０　下部：杉板ア１５×１３５程度　下見板貼り	外部建具	木製（メッシュカーテンシート２㎜目貼り）	表示板	積雪荷重及び風圧力の低減に関する、国土交通省告示第４７４号に定められた内容を明記した表示板及び事業名看板を出入口に設置する　アクリル製３００×３８０
	開口部分　メッシュカーテンシート貼り（棟欄間部は４㎜目　その他は２㎜目）	水切	カラーガルバニューム鋼板加工　ア０．３５		
軒　裏	屋根材表し	破風板	杉板　１５０×２５		
根回り	コンクリートＢ種型枠打ち放し	上部鼻隠板	杉板　１５０×２５		

内　部　仕　上　表

階	室　名	床	幅　木	腰　壁	壁	天　井	天井高	備　考
1	牛房	コンクリート荒押さえ仕上 出入口床仕切板ｈ＝２４０×３０取付アングル共	コンクリートＢ種型枠打ち放し （布基礎立ち上がり）	木柵及び回転柵		屋根材表し	３５４０ （下部）	黒板　６００×４５０　線引き共 回転柵　ＳＧＰ製 中央通路側柵　足場用単管製 外部通路側柵　木製 ＮＩＰＰＡＩプラスティック岩塩入れ　２１０×１５０×１６５ ウォーターカップ　フロート式（設備工事）
	中央通路	コンクリート金こて押さえ	――――	――――	――――	屋根材表し	３６９５ （下部）	飼育槽　コンクリート金こて押さえ　仕切板　木製ア６０ スロープ　コンクリート刷毛引き 棟欄間部：メッシュカーテンシート４㎜目貼り
	外壁側通路	コンクリート金こて押さえ（水勾配付き）	コンクリートＢ種型枠打ち放し （布基礎立ち上がり）	杉板ア１５×１３５程度　下見板貼り表し 開口部分　メッシュカーテンシート２㎜目貼り	杉板ア１５×１３５程度　下見板貼り表し 開口部分　メッシュカーテンシート２㎜目貼り	屋根材表し	３３４０ （下部）	水抜きパイプ　ＶＰφ１００ メッシュカーテンシート２㎜目貼り

指　定　材　料

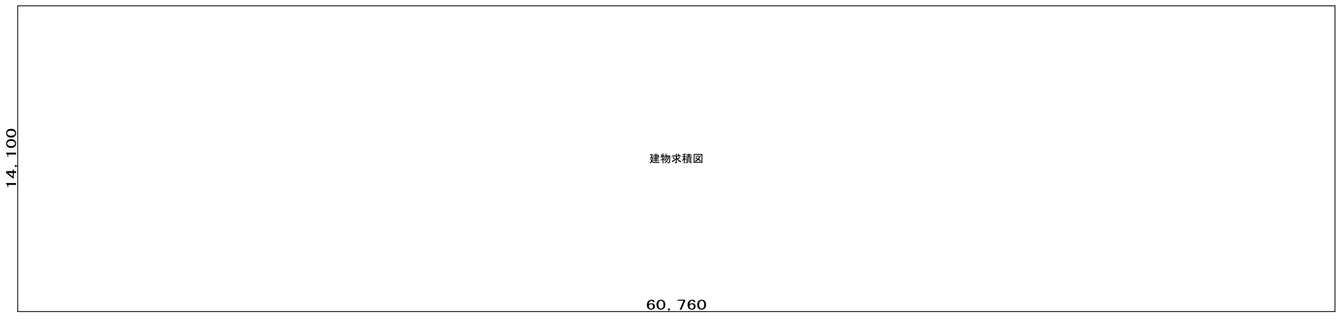
○　屋根材　カラーガルバニューム鋼板波板ア０．２７断熱材ア３０裏貼り仕様
　　アキレス　トリトン（丸波）３０×３８０　裏面材アルミ箔ライナー紙　芯材ウレタン変成イソシアネレートフォーム　同等品以上

○　メッシュカーテンシート　２㎜目・４㎜目　農業用防風ネット

基準法等低減等に適用する法令

○　積雪荷重の低減　：　国土交通省告示第４７４号第３第２による構造計算

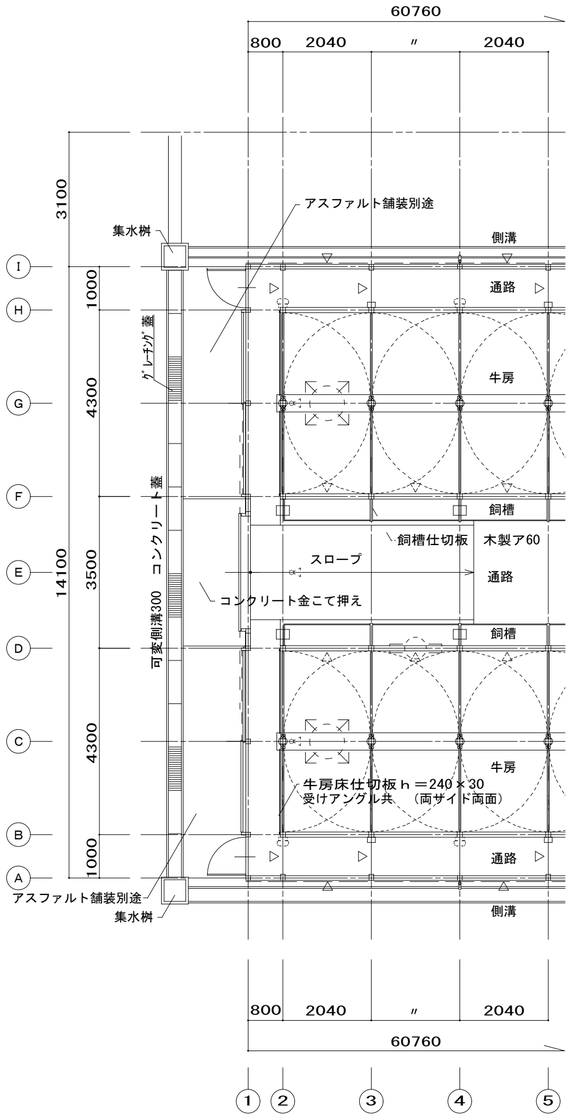
○　風圧力の低減　：　国土交通省告示第４７４号第３第３による構造計算



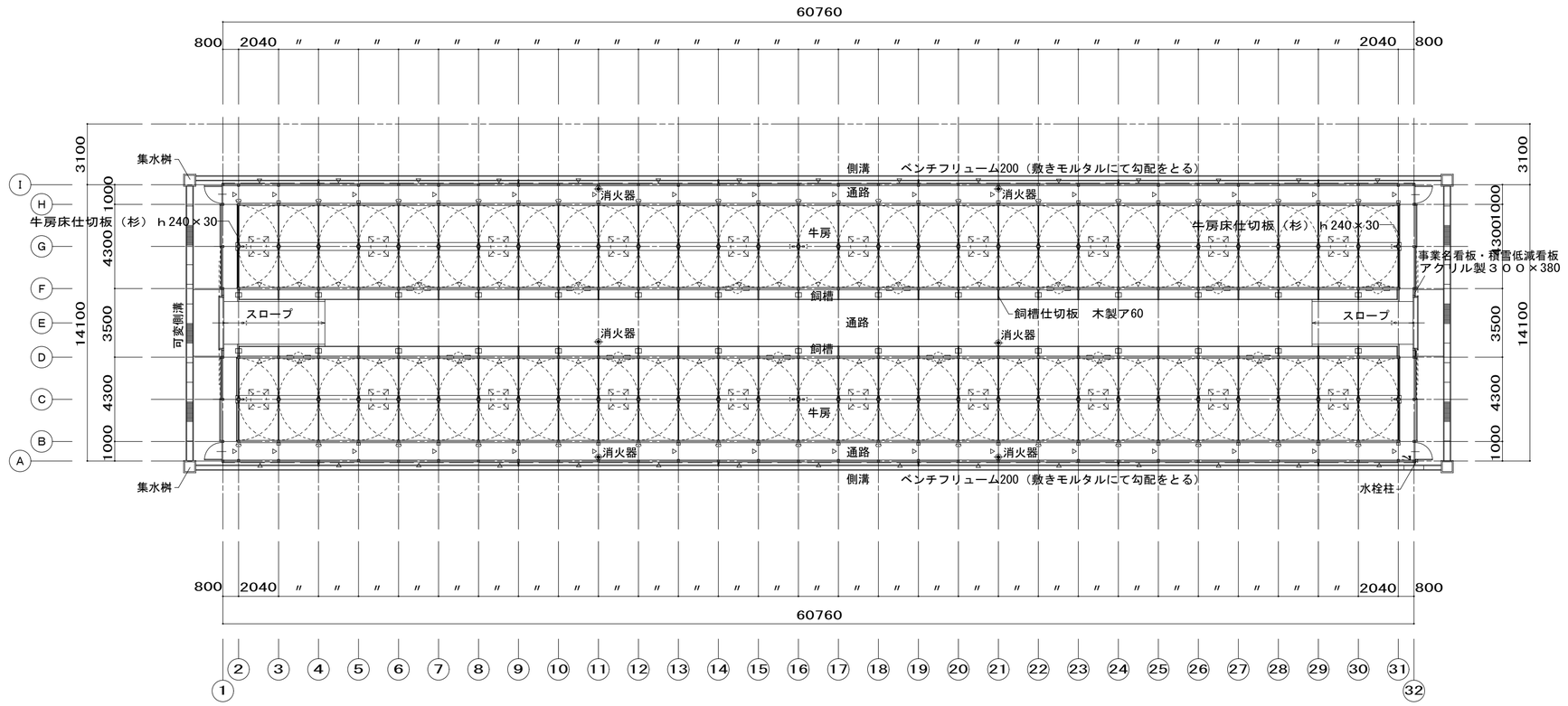
建物面積表　　㎡

建築面積	６０．７６０　×　１４．１００	８５６．７１６	８５６．７２
床面積	全　　上	８５６．７１６	８５６．７２

図　面　番　号	工　　事　　名	図　面　種　別	縮　　尺	設計・年月	局　長	部　長	企画幹	担　当　者		
A－008（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	仕上表・面積表	1/A2:200 A3:282	H26.09					一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室	
									設　計　者	一級建築士第147056号　藤田 潔雄



平面詳細図　１：１００

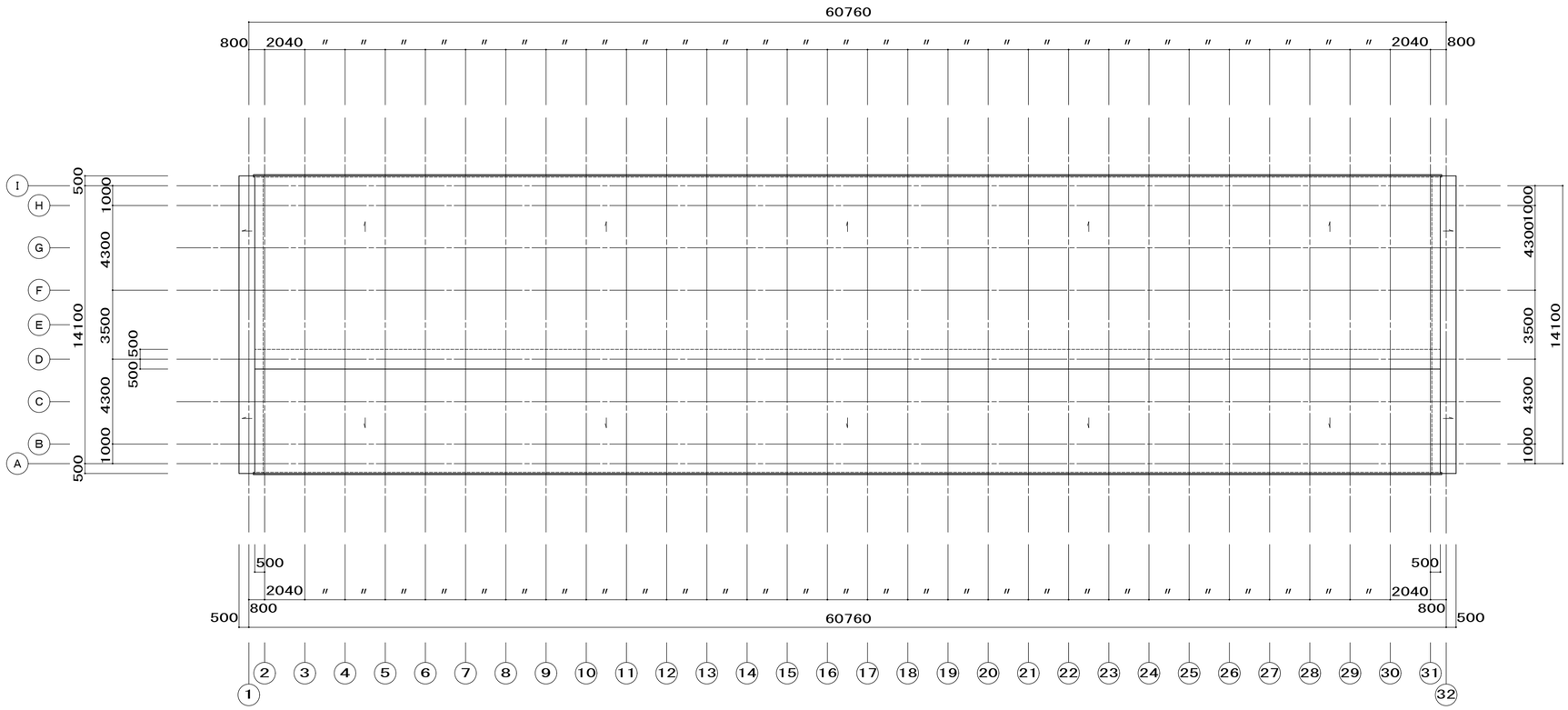


平面図　１：２００

N

建築工事		電気設備工事		機械設備工事	
□	岩塩入　ステンレス製210×150×165　×30箇所（支給品）		照明器具　蛍光灯　×14箇所	✱	消火器ABC10型　×6箇所
□	黒板　600×450線引共　×30箇所		照明器具　投光器　×10箇所		牛舎用送風機　×20箇所
		N	分電盤		右端2箇所のみ～左方向に上下20°傾斜
▽	筋交い　105×50	•	スイッチ		その他～右方向に上下45°傾斜
▽	上部筋交い　90×45			::	水栓柱　×1箇所
					ウォーターカップ　取り付け位置H＝705　×30箇所 各個バルブ取付

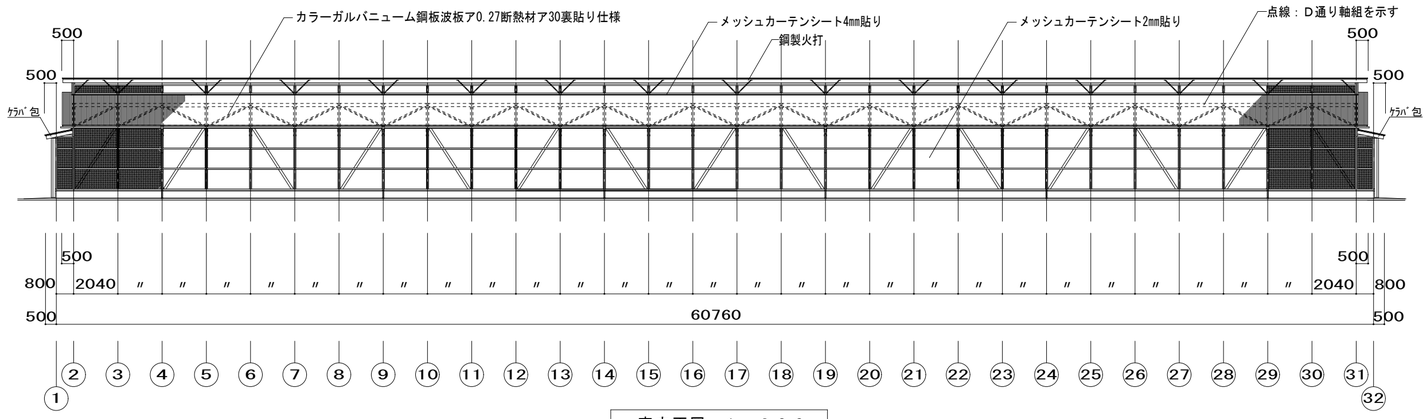
図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
A－009（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	平面図	1/A2:100 1/A2:200 A3:141　A3:282	H26.09					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄



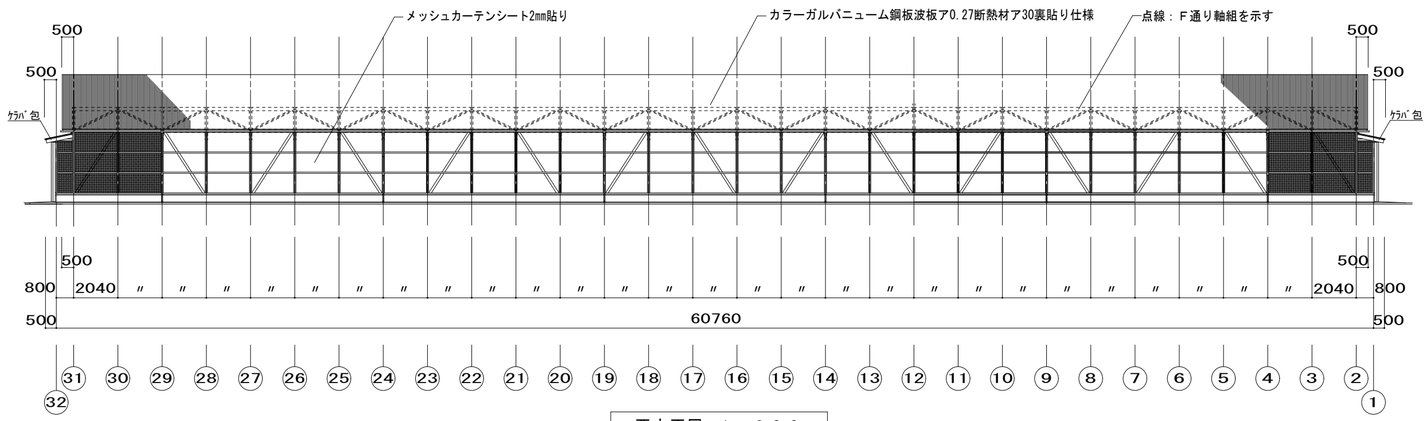
屋根伏図　１：２００

屋根仕上　カラーガルバニューム鋼板波板ア0.27断熱材ア30裏貼り仕様　２．５／１０勾配

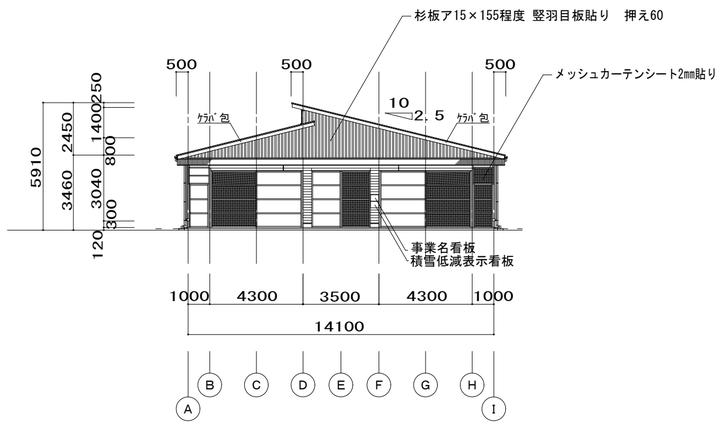
図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
A－010（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	屋根伏図	1/A2:200 A3:282	H26.09					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄



東立面図　１：２００

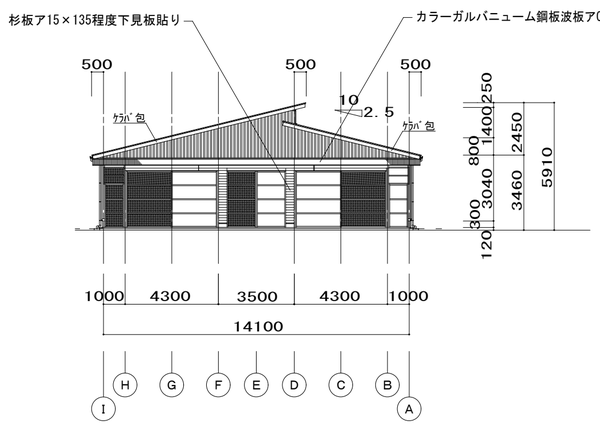


西立面図　１：２００



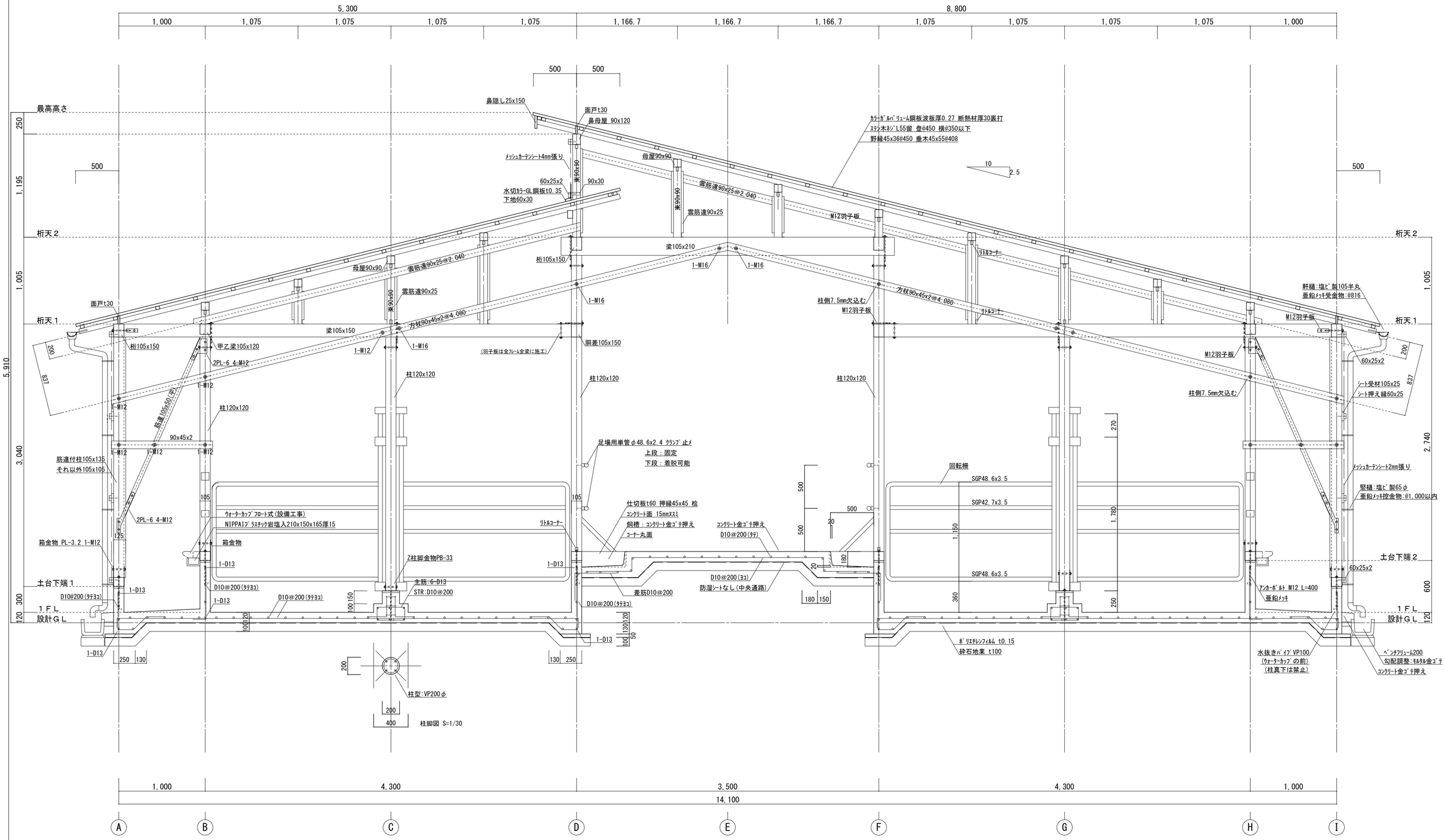
北立面図　１：２００

※破風板：カラーGL鋼板0.35巻

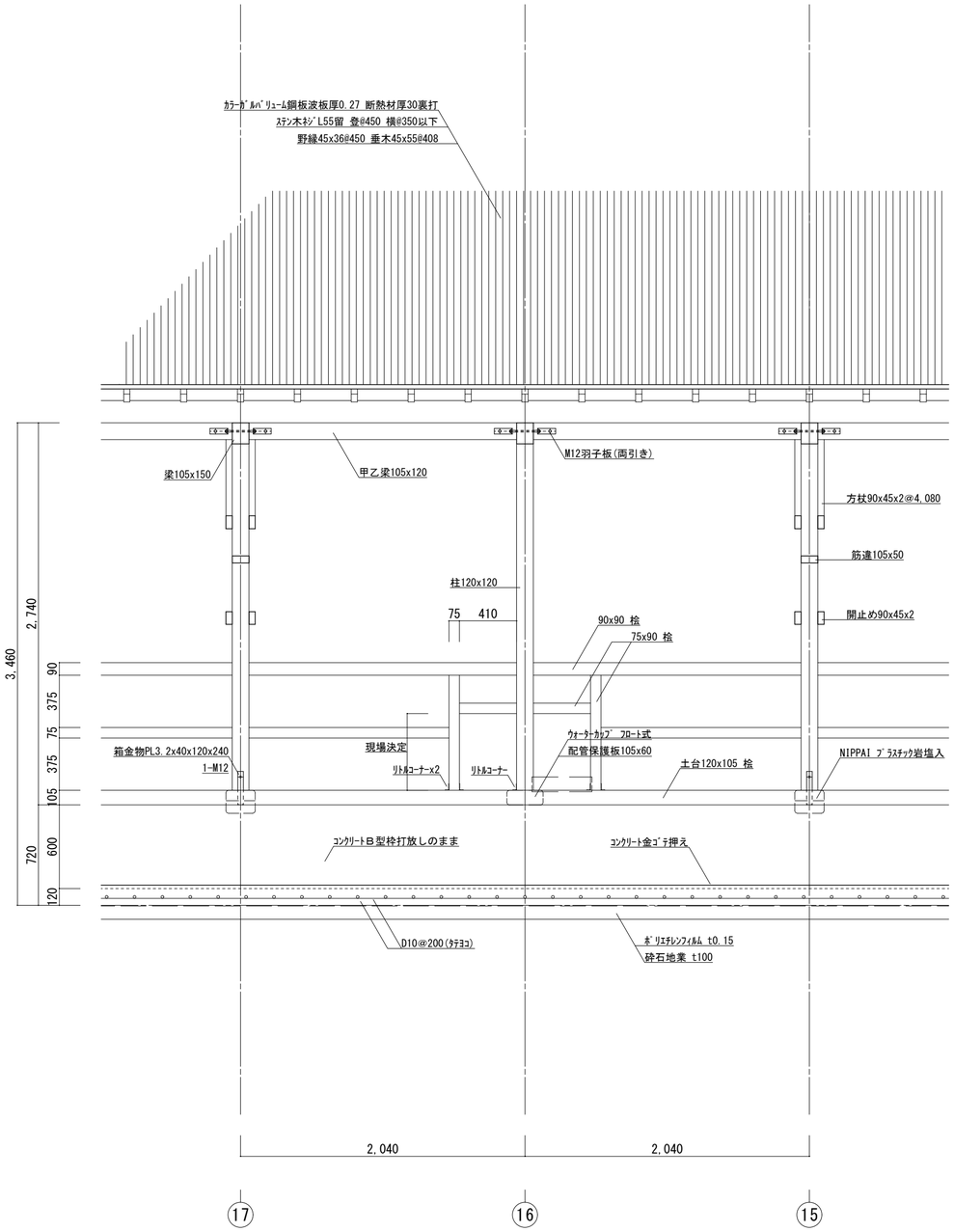


南立面図　１：２００

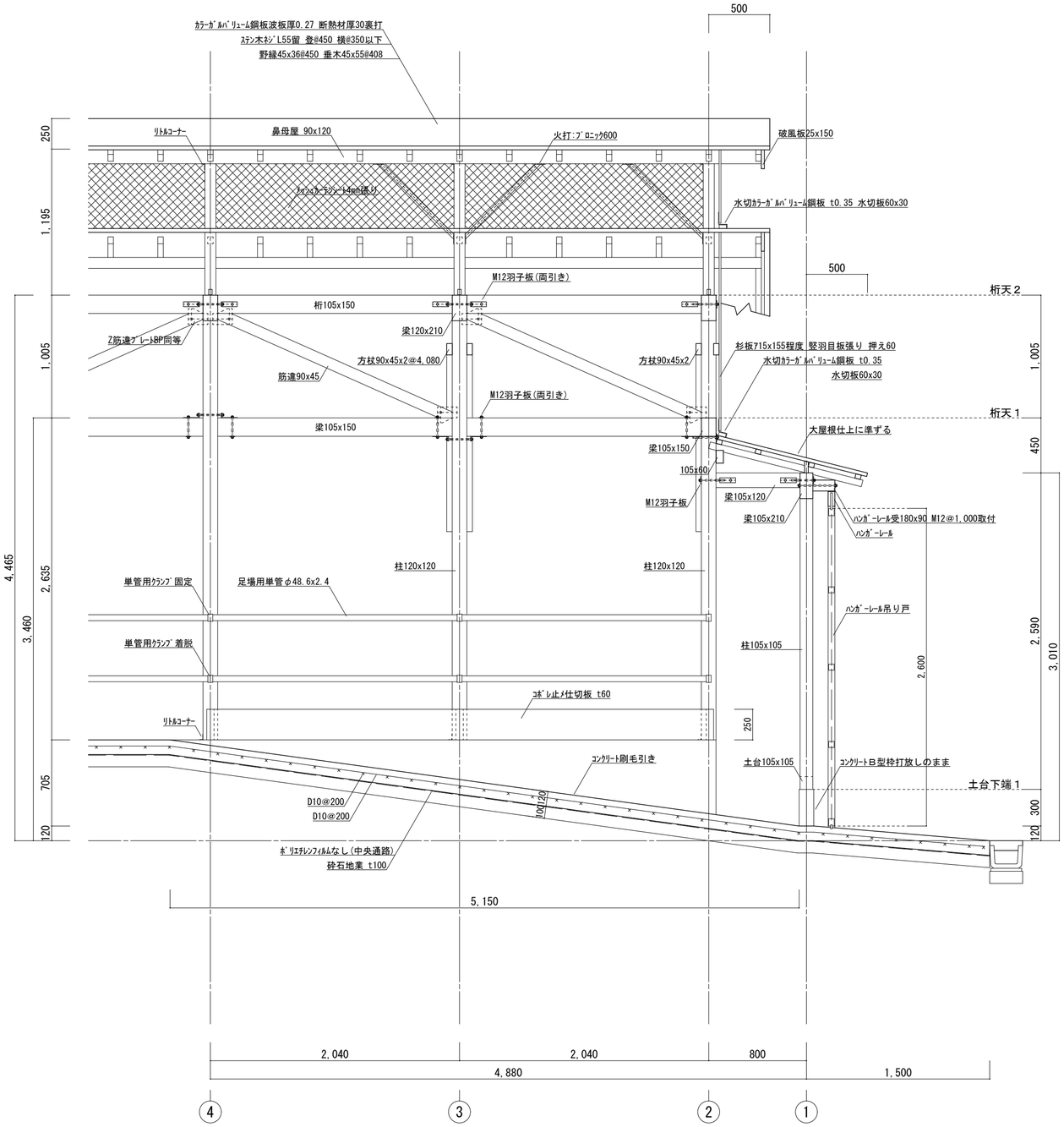
図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
A－011（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	立面図	1/A2:200 A3:282	H26.09					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄



図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
A－012（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	矩計図（１）	1/A2:30 A3:42	H26.09					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

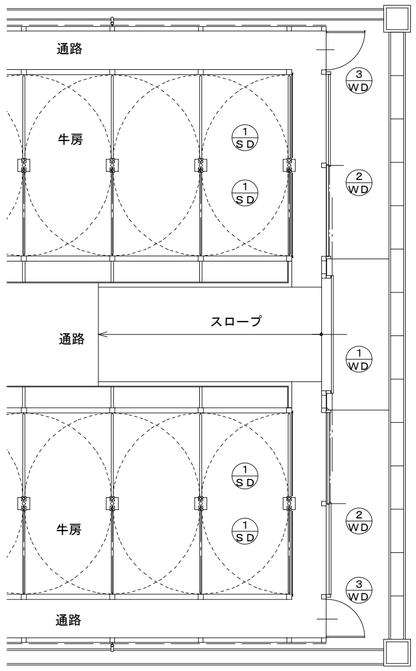


H 通り矩計図 S=1/30

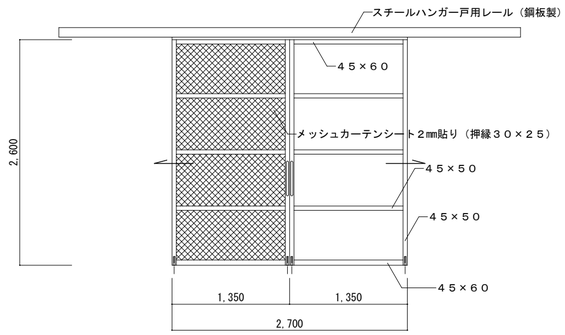
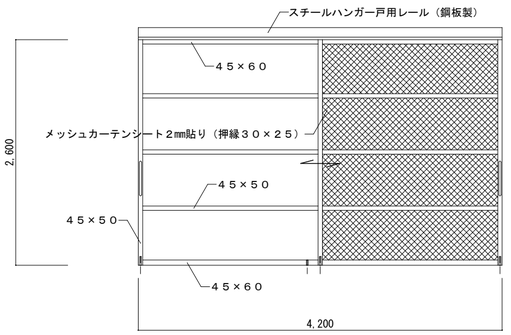
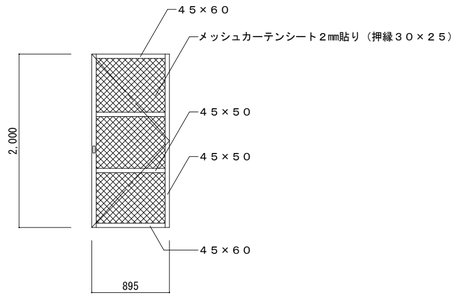


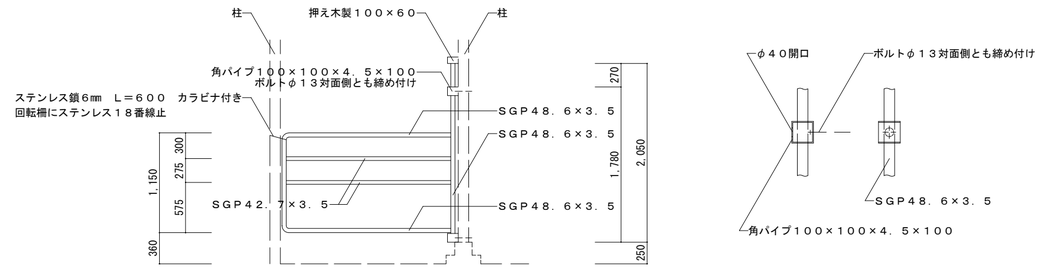
D 通り矩計図 S=1/30

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号 フジタ設計室
A－013 （ ）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	矩計図（２）	1/A2:30 A3:42	H26.10					設計者 一級建築士第147056号 藤田 潔雄



建具配置図

符号・形式	1 WD　木製引き分けハンガードア	2 WD　木製引き違いハンガードア
場所・個数	中央通路出入口　２箇所	牛房出入口　４箇所
形状・寸法		
見込	４５	４５
材質・仕上	杉材　メッシュカーテンシート２㎜貼り	杉材　メッシュカーテンシート２㎜貼り
ガラス		
金物・付属品	スチールハンガー戸用レール　大型ネジ締り錠　木製引き手φ２５　Ｌ＝４００　下部レール：ステンレス製 ステンレスフランス落とし（1枚戸に２箇所　受座共ステンレス製）	スチールハンガー戸用レール　大型ネジ締り錠　木製引き手φ２５　Ｌ＝４００　下部レール：ステンレス製 ステンレスフランス落とし（1枚戸に２箇所　受座共ステンレス製）
備考		
符号・形式	3 WD　木製片開きドア	
場所・個数	屋外側通路出入口　４箇所	
形状・寸法		
見込	４５	
材質・仕上	杉材　メッシュカーテンシート２㎜貼り	
ガラス		
金物・付属品	両面ステンレス製取手　大型クレセント　ステンレス丁番	
備考		

符号・形式	1 SD　回転柵
場所・個数	牛房　１２０箇所
形状・寸法	
見込	
材質・仕上	SGP４８．６×３．５　SGP４２．７×３．５　角パイプ１００×１００×４．５×１００　鉄部はすべて溶融亜鉛めっき仕上
ガラス	
金物・付属品	ステンレス鎖6㎜　Ｌ＝６００　カラビナ付き 回転柵にステンレス１８番線止
備考	

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	
A－014（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	建具表	1/A2:50 A3:70	H26.09					一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室 設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

本仕様書はJSCA木質構造部会品質管理WGが作成したものです。内容を自由に直して使用することが出来ます。使用上の責任は全て使用者にあり、JSCAはいかなる責務も負いません。使用法及び解説はJSCA編「木造・建築構造の設計」に掲載しています。
お気づきの点や改良案などのご意見は、　(info@jsca.or.jp)　まで御願いします。

木質工事特記仕様書（1）

1．一般事項

（1）適用範囲
本仕様書は建築物および工作物の構造上主要な部分に木材を用いる工事に適用する。
☑は適用項目を示すものとする。

（2）設計図書
設計図書とは本仕様書、設計図、指示書（現場説明書および質疑回答書を含む）をいう。

（3）標準仕様書
設計図書に記載なきものは「住宅金融公庫監修・木造住宅工事共通仕様書」及び「国土交通大臣官房官庁営繕部監修・木造建築工事共通仕様書」に準ずる。
上記の仕様書に記載なき場合は、公共規格かこれに準ずる規格を適用する。

（4）設計図書の優先順位
設計図書の優先順位は下記による。
1．指示書（現場説明書及び質疑回答書）
2．設計図
3．本仕様書
4．標準仕様書

（5）疑義
疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。

（6）製作要領書及び施工計画書の作成・提出
工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

（7）施工図及びプレカット図の提出
工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

（8）製作工場の選定、承諾
設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける。

（9）各種試験・検査報告書の提出
施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

2．材料の品質

2.1　木質材料

（1）針葉樹の構造用製材、広葉樹の製材、枠組壁工法構造用製材
本項の内容は特記無き限り、針葉樹の構造用製材及び広葉樹の製材及び枠組壁工法構造用製材等の日本農林規格に準ずること。

部　位	品　名	樹　種	区分、等級	含水率	その他
梁	構造用製材	スギ	甲Ⅱ－３級かつE70	D20	
柱	構造用製材	スギ	乙　－３級かつE70	D20	

☐記入無き梁桁、母屋、タル木等の曲げ材のうち、見えがかり材は目視等級材の甲種２級、見えない部分の木材は甲種３級とする。その他は乙種２級とする。
☑主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。
☐乾燥の際背割りを行う。但し見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。
☑含水率は平均含水率とし下地材等に用いる場合でも含水率D25以下であることを確認する。
☐強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等に注意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように加工する。
☑材の曲がりについては、上記にかかわらず目視等級１級相当とする。

（2）構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)
本項の内容は特記無きかぎり構造用集成材及び構造用単板積層材の日本農林規格に準ずること。

部　位	品　名 等　級	樹　種	曲げヤング係数区分 水平せん断性能区分	材　面 品　質	接　着 性　能	ホルムアルデヒド 放　散　量

（3）構造用合板、構造用パネル
本項の内容は特記無きかぎり構造用合板及び構造用パネルの日本農林規格に準ずること。

部　位	品　名	強度 等級	曲げ性能基準 合板１級	板面 品質	接　着 耐久性	寸法(mm) 厚（巾×長）	ホルムアルデヒド 放　散　量

・構造用合板はできるだけ大きい寸法のものを用いる。

2.2　ファスナー
ここに示すファスナーや接合金物などは、木質構造の接合部に適用する。ファスナーや接合金物等に錆を生じるおそれのある場合は適切な防錆処理を施す。鋼材の表面処理は特記による。
標準メッキ処理は、溶融亜鉛メッキ：　HDZ35-6　、電気メッキ：　EP-Fe/Zn 5(NC)　とする。

（1）くぎ、木ネジ、特殊ネジ

種　類	材　質	適　用　径	使用箇所　頭部／胴部の形状
☑N釘	⊙鉄 ・ステンレス鋼	N19～N150	
☐CN釘 ☐BN釘 ☑ZN釘 ☐GN釘 ☐SN釘	・鉄	CN25～CN150 BN25～BN125 ZN45～90 GNF25～GNF125 3.05 mm	耐力壁、床板、屋根 石膏ボード用 シージングインシュレイション ファイバーボード
☑木ネジ ☐特殊ネジ ☐コースレッド	⊙軟鋼線材 ・ステンレス鋼 ・真鍮		

（2）ボルト、ナット

種　類	材　質	適　用　径	表面処理、部品等級など
☑呼び径六角ボルト	⊙SS400	M3～M36	・電気メッキ
☐有効径六角ボルト	・SS400	M3～M20	
☐全ネジ六角ボルト	・SS400	M3～M36	
☐ステンレスボルト	・SUS304		
☑アンカーボルト	⊙SS400	M12～M24	・溶融亜鉛メッキ

・材質は鋼、ステンレス鋼、非金属。径と長さの組み合わせは　「参照⑩」

（3）座金　※基本的に座掘りなし（危険な場合以外）

適　用	材　質	適　用　径	形状・表面処理　その他
☑座金	・SPCC　(JIS G 3131)	M8～M24	・角座金・丸座金
☐	・SPHC　(JIS G 3141)		・電気メッキ

⊙座金は用途ごと（引張、せん断）に下表により使い分ける。

ボルト径に対する座金の大きさ		8	10	12	16	20	24
引張を受けるボルト	厚さ	4.5	4.5	6	9	9	13
	角座金の一辺	40	50	60	80	105	125
	丸座金の直径	45	60	70	90	120	140
せん断を受けるボルト	厚さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6	6
	角座金の一辺	25	30	35	50	60	70
	丸座金の直径	30	35	40	60	70	80

（4）ドリフトピン、コーチスクリューボルト、ジベル、シアプレート、木栓

種　類	材　質	適用径・長さ	表面処理、その他
☐ドリフトピン	・SS400	φ9～φ19	・電気メッキ
☐コーチスクリューボルト （ラグスクリュー）	・SWRCH10R (JIS G 3507)	φ9～φ19	・電気メッキ
☐スプリットリング	・SS400	φ64、φ102	
☐シアプレート	・		・電気メッキ
☐木栓	・堅木	M12～M24	

・木栓はナラ・ケヤキ・カシ等で気乾比重0.6以上の広葉樹とし、節や目切れ等の欠点の無いものとする。

（5）接合金物、鋼材

種　別	材　質	表面処理	適用、形状、その他
☑Zマーク	・		
☐Cマーク	・		
☐引寄せ金物	・		
☑その他の金物	・		・Dマーク・Sマーク（認定金物）
☑鋼材	・SS400	・溶融亜鉛メッキ	・設計図中の特記による

（6）接着剤（接着接合）
ここでいう接着接合とは、建設現場で用いるものを対象とし、内容は特記による。

3．材料品質の検査方法

現場または加工工場に搬入された製材等は、加工に先立ち下記の要領で受け入れ検査を実施し、監理者に報告する。また監理者の立会いを要する検査については、指定された試験要領に基づいて、適時抜取り検査を実施する。社内検査で試験本数や抜取り率の指定がない場合は原則全数とする。検査の結果、性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行うこと。

（1）針葉樹の構造用製材、広葉樹の製材、枠組壁工法構造用製材
（数値は%を示す）

部　材	確認する仕　様	確認者	材種等級	外観検査	寸法検査	含水率測定			ヤング係数測定		
						表示	全乾重量法	含水率計	表示	静的試験	動的試験
(例)梁 G1	スギ D20, E70	社内	100	100	100		10本	100		10本	100
		監理者	○	○	○			○		○	○
柱	スギ D20, E70	社内	100	100	100	検査後		10		10	
		監理者	○	○	○	木口記入		○		○	
トラス材	スギ D20, E70	社内	100	100	100	検査後		10		10	
		監理者	○	○	○	木口記入		○		○	
梁・桁	スギ D20, E70	社内	100	100	100	検査後		10		10	
		監理者	○	○	○	木口記入		○		○	

・監理者欄の○は立会い検査が必要であることを示す。
・材種・等級は表示を確認し、外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。
・含水率やヤング係数は刻印された表示の確認を原則とし、全乾重量法や動的曲げ試験は公的試験場にて行う。含水率計は住木センター認定品を、曲げヤング係数は全国木材組合連合会の認定品を用いて測定することを原則とする。
・全乾重量法や静的曲げ試験は１荷口につき確認する試験本数を示す。試験体は実際に使用する同一部材の中から抽出し、木材の試験方法（　JIS Z 2101　）に準ずる。
・動的曲げ試験の判定基準は日本農林規格の針葉樹の構造用製材、合板、パネル、の強度区分材に準ずる。
☑含水率測定は、乾燥作業直後に行う。

（2）構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)

材　料	確認項目	確認の方法
構造用集成材	部材、断面、長さ、数量 樹種、品名、強度、材面の品質、接着性能、ホルムアルデヒド放散量	☐製造工場の認定書等の写し ☐日本農林規格(JAS)表示の確認 ☐立会い目視検査
構造用ＬＶＬ	部材、断面、長さ、数量 樹種、曲げヤング係数、水平せん断、接着性能、ホルムアルデヒド放散量	
構造用合板	寸法、数量 強度、曲げ性能、板面の品質、接着耐久性、ホルムアルデヒド放散量	
構造用パネル	寸法、数量 強度、ホルムアルデヒド放散量	

（3）ファスナー

ファスナーの種類	確認項目	確認の方法
☐くぎ	・材質、胴・頭径部、長さ、仕上げ	☐ミルシートの写し ☑表示の確認 ☐木栓曲げ試験
☐木ネジ類	・材質、径、長さ、仕上げ	
☑ボルト・ナット	・材質、径、長さ、仕上げ	
☑座金	・材質、径、仕上げ	
☐ドリフトピン	・材質、径、長さ、仕上げ	
☐コーチスクリューボルト	・材質、径、長さ、仕上げ	
☐スプリットリング	・材質、径、形状、仕上げ	
☐シアープレート	・材質、径、形状、仕上げ	
☐木栓など	・樹種、曲げ強度、比重	

・設計図書に明記されたファスナーであることを確認すること。同等性能のファスナーを用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得ること。また必要に応じて立会いによる性能確認を実施する。

（4）接合金物

接合金物	確認項目	確認の方法
☑Zマーク金物	・材質、形状、仕上げ	☐ミルシートの写し ☑表示の確認
☐Cマーク金物	・材質、形状、仕上げ	
☐引き寄せ金物	・材質、形状、仕上げ	
☑その他の金物	・材質、形状、仕上げ、製造所	
☑鋼材	・材質、形状、仕上げ、溶接	

・設計図書等に明記された接合金物であることを確認する。同等認定品や性能認定品を用いる場合には、その内容を監理者に申し出、承諾を得る。

4．耐久性（防腐・防蟻・耐候処理）

（1）木材の防腐・防蟻処理
・高耐久材の使用（注：製材の心材あるいは心持ち材又は集成材）
・工場処理材（注：現場の加工、切断、穿孔箇所等は、現場処理に準じる）
ＪＡＳ保存処理材　：　Ｋ５　Ｋ４　Ｋ３　Ｋ２
ＡＱ認証保存処理材：　１種　２種　３種
・現場処理（注：給排水用塩化ビニル管に接する部分は、管を保護する）
・　塗布　・　吹付　・　浸漬　（処理量　300 ml/m2　、一処理回数2回）
日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする

使用部位	高耐久材	工場処理剤	現場処理剤
土台	☑　ひのき	☐K3　☐（　）	☐　塗布
外周柱下部1m	☐　ひのき	☐K3　☐（　）	☐（　）
水周り	☑（ひのき）	☐K3　☐（　）	☐（　）
その他	☐（　）	☐K4　☐（　）	☐（　）

（2）土壌処理
☐防蟻薬剤による処理：薬剤（　　）
特記無き場合は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。
☐防蟻薬剤による処理と同等以上の対策　（　べた基礎　　）
☐土壌処理省略　☐北海道　☐東北　☐北陸
注：処理範囲は、外周部布基礎の内側、内部布基礎の周辺２０ｃｍ、束石等の周囲２０ｃｍを標準とし、処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。

（3）耐候処理（塗装）
☐造膜型、　☐含浸型、　・部位（　　）

5．木材の加工

（1）刻み時の注意
製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

（2）加工寸法の精度（下記の値を標準とする）
⊙構造用製材、枠組み壁工法用構造製材の断面寸法
☑　図面表示が挽き立て寸法の場合：　±1.5mm以下
☐　図面表示が仕上がり寸法の場合：　+1.5mm、−0mm以下
⊙構造用製材、枠組み壁工法用構造製材の材長
☑　軸組工法の継手仕口の場合：　±1.5mm以下
☐　ボルト接合工法の場合　：　±5mm以下
・集成材、構造用単板積層材
短辺：　☐　±1.5mm
長辺：　☐　±1.5%かつ±5mm以下
材長：　☐　±5mm以下　☐（　　）
・ボルト穴径：d+1.5mm（d≦M12）、d+2.0mm（d≧M16）　(dはボルト径)
・ドリフトピンの穴径：d±0mm　(dはボルト径)

（3）表面仕上げ　⊙自動機械かんな掛け仕上げ
☐製材　化粧材：　野物材：　板材：

（4）面取り
☑柱：（ 1.5 ）mm
☐梁：（　　）mm

6．接合

（1）仕口、継手の原則
・仕口、継手の方法は構造図による。特記無き場合は　1．（3）標準仕様書に示された在来工法用の一般的な適用慣例に従う。一般的な適用慣例については、9．軸組構法接合部標準仕様による。
・採用する方法は監理者の承諾を得る。
・仕口、継手の各部に作用する応力を考慮し、部材の引き抜けが生じないように、原則として羽子板ボルトや木栓など、引張り抵抗をする補強部材を併用する。

（2）釘接合
・釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように端距離、縁距離、釘間隔を大きく取る。
・釘の長さは材厚の２．５倍以上とする。
・１ヶ所の釘の本数は２本以上とする。
・釘に錆を生じるおそれのある場合は、適切な防錆処理を施す。
・自動釘打ち機を使用する場合は、面材に釘がめり込まないようにする。そのために、釘打ち機の圧力を弱めるか、最後は手打ちを用いるなどの方法による。
・構造用面材を耐力壁とする場合の釘打ち方法は「昭和　年建設省告示　　号」による⑩
・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。
・小口面に打たれた釘は、引き抜き方向に抵抗させることはできない。

（3）木ネジ接合
・構造耐力上主要な部分において、木ネジを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。
・小口面にねじ込まれた木ネジは、引抜き方向に抵抗させることはできない。
・木ネジの先孔の径：針葉樹・・・主材　、側材　0.8d
広葉樹・・・主材　、側材　1.0d　(dはボルト径)
（先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの２／３程度とする。）
・ねじ込みには適切な道具を使い、ハンマーなどで打ち込んではならない。
・ねじ込みを容易にしたり、損傷させないために潤滑油を用いてもよい。

（4）ボルト接合
・締め付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適しているものであることを確認する。
・ボルト接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は、ボルト本数を適切に増加する。
・ボルトの締め付けは、座金が部材にめり込む程度とし、めり込み音が発生した時点で締め付けを完了する。
・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから２山以上突き出ていることを確認する。
・一度締め付けたボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

（5）コーチスクリュー接合
・構造耐力上主要な部分において、コーチスクリューを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。
・コーチスクリューの配置間隔、縁距離および端距離、使用する座金は同じ胴部径のボルトに準ずる。
・胴部の先孔の径は胴部と同径とし、長さも胴部と同寸とする。
・ネジ部の先孔の径：比重　以上の樹種・・・ネジ径の　～　%　60　70
その他の樹種・・・・・・ネジ径の　～　%　40　70
（長さはネジ部の長さと同寸とする。）
・コーチスクリューは先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んではならない。
・ねじ込みを容易にするためや、損傷させないために潤滑油を用いてもよい。

（6）ドリフトピン接合
・ボルトやコーチスクリュー等と併用し、ドリフトピンの変形にともなう部材の開きを防止する。
・ドリフトピンは孔に密着させる。
・一度締め付けた併用ボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
C－001（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	木質工事特記仕様書（１）		H26.10					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

木質工事特記仕様書（２）

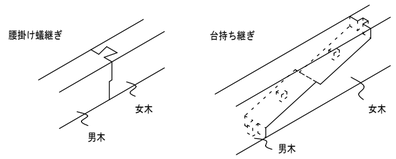
（７）ジベル接合
・木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点に注意し、彫込み・打ち込みまたは圧入に際して割れを生じないよう、ジベルの種類に応じた断面と余長をもたせる。
・接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。
（８）既成金物の接合
・羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取り付けは、それぞれの仕様に基づき、接合両材の間が密着するように締め付ける。
（９）接着接合
・接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。
・接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし、実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合はその際の作業条件を標準とする。
（１０）その他の方法による接合
・使用材料および使用方法は構造図によるものとし、監理者の承諾を得る。

７．運搬・建て方

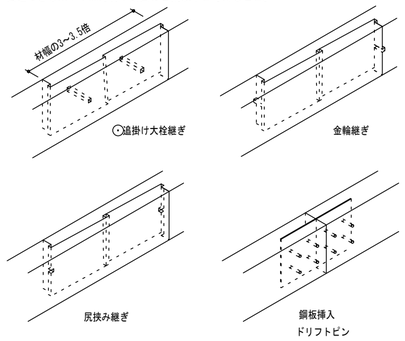
（１）輸送計画
製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。
☐ 輸送計画書の提出 〔 〕
（２）集積・保管
集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。 ☐ 集積場の確認 〔 〕
（３）建方計画
☑ 建方計画書の提出
アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。
（４）施工時の安全性
建方作業中および作業後、横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承諾を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。
☑ 施工時の安全性に対する検討書の提出 ☐ 施工時荷重条件の通知
（５）アンカーボルトの施工
・芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。
・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。
・アンカーボルトはダブルナットとする。 ☑適用除外 〔 〕
・土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。
☑通り芯からの誤差 ： ☑±3mm以下 ☐〔 〕
（６）建方精度
・建方の精度基準は下記による。
☐建物の倒れ ： ☐ e≦H／2500+10mm かつ e≦50mm
☐ 〔 〕
☐梁の水平度 ： ☐ e≦L／ 700+ 5mm かつ e≦15mm
（節点間のレベル差） ☐ 〔 〕
☐建物のわん曲 ： ☐ e≦L／2500mm かつ e≦25mm
☐ 〔 〕
☐柱据え付け面の高さ及び位置
柱据え付け面の基準高さからの誤差 ： ☐±3mm以下 ☐〔 〕
通り芯からの誤差 ： ☐±3mm以下 ☐〔 〕
階高 ： ☐－5mm≦ΔH≦+5mm
☐〔 〕
・建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
（７）施工状況の検査
・アンカーボルト施工時の立会い検査
☐ 目視による精度確認 ☐ 計測機器による精度確認 ☑ アンカーボルト径、間隔
☐ 施工者自主検査記録の提出〔 〕
・地組み時の立会い検査
☐ 目視による精度確認 ☐ 計測機器による精度確認 ☐ 材料の加工寸法検査
☐ 施工者自主検査記録の提出〔 〕
・建方時の立会い検査
☐ 目視による精度確認 ☐ 計測機器による精度確認 ☑ 材料の加工寸法検査
☐ 施工者自主検査記録の提出〔 〕
・建方後の施工状況の検査
☐ 防腐・防蟻処理 ☐ 材料の加工寸法検査 ☑ ファスナーの施工状況
☑ 接合金物の施工状況 ☐ その他〔 〕
☐ 施工者自主検査記録の提出〔 〕
・最終確認
工事中に発生するボルトの緩み、ファスナーおよび接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
☑ 施工者自主検査記録の提出〔 〕

８．軸組構法接合部の標準仕様

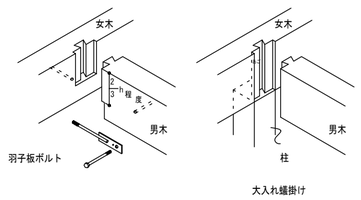
（１）横架材同士の継手
１．曲げ応力や引張力を負担しない継手：腰掛け蟻継ぎ、腰掛け鎌継ぎ
・せん断力が大きい場合は台持ち継ぎとする。
・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
・逆せん断と引張の補強として短冊金物等を併用すること。
・柱からの持ち出し位置は、連続梁の長期荷重の反曲点付近とする。



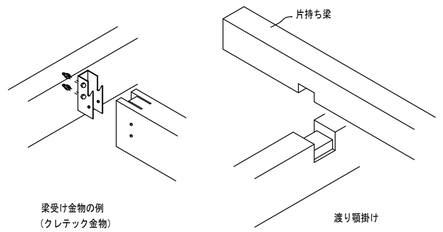
２．曲げ応力や引張力を負担する継手
：追掛け大栓・金輪・尻挟み継ぎ、鋼板挿入ドリフトピン接合
・伝達できるMやTは母材全断面の２割以下と考えること。



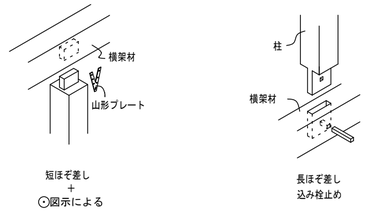
（２）柱の継手
・伝達できるMやTは母材全断面の２割以下と考えること。
・やむを得ず柱の継ぎ手を設ける場合は、曲げと軸力による複合応力の検定を行い安全性を確認する。
（３）横架材どうしの仕口
１．せん断力が母材全断面の３割以下の仕口：（大入れ）蟻掛け
・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
・逆せん断と引張の補強として羽子板ボルト等を併用する。
・男木の梁せいが女木の２／３以下の場合か、仕口直下に柱がある場合には、大入れとしてもよいが、そうでない場合は男木のせいの２／３程度の顎をかける。



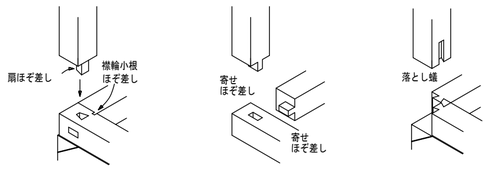
２．せん断力が母材全断面の３割を超える仕口：梁受け金物
・既製品の場合は金物メーカーの許容せん断耐力の値を用い、特注品の場合は構造計算で許容せん断耐力を算出して安全性を確認すること。
３．一方を片持ち梁とする場合：レベル差を設け渡り腮掛け
・逆せん断の補強として羽子板ボルト等を併用すること。



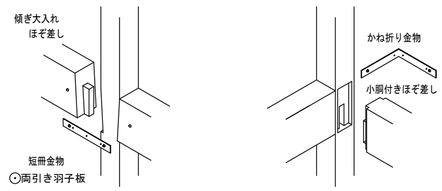
（４）柱と横架材の仕口
１．柱の上下端部：短ほぞ差し、長ほぞ差し込み栓止め
⊙短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。



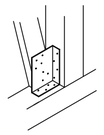
２．土台の出隅入隅部
：土台同士は襟輪小根ほぞ差し又は寄せほぞ差し、柱脚部は扇ほぞ差し又は寄せほぞ差し
（但し、柱勝ちの場合、落とし蟻又は土台をて寄せほぞ差しとする。）
⊙短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。落とし蟻の場合は、HD金物を用いる。



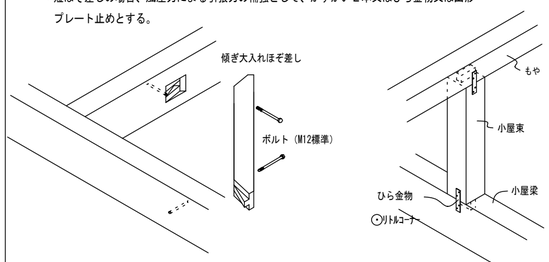
３．通し柱と胴差し：小胴付きほぞ差し、傾ぎ大入れほぞ差し、梁受け金物
・梁受け金物以外の仕口には、引張の補強として短冊金物やかね折り金物等を併用すること。



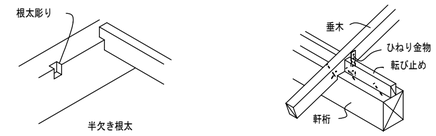
（５）筋かい端部
・平12建告1460号の例示仕様又は同等品とする。
（６）火打ち、方杖
⊙角材を用いる場合の端部は、傾ぎ大入れほぞ差し＋ボルト締めとする。
・Zマーク鋼製火打ち又は同等品としてもよい。



（７）小屋束の上下端部
・短ほぞ差し又は長ほぞ差し込み栓止めとする。
・短ほぞ差しの場合、風圧力による引張力の補強として、かすがい２本又はひら金物又は山形プレート止めとする。



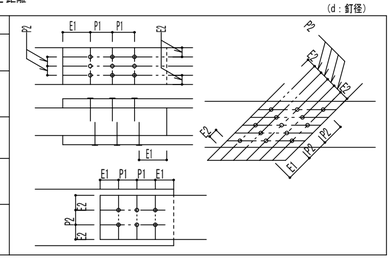
（８）根太、梁木と横架材
・落とし込み根太：横架材に大入れ or 根太掛け＋斜め釘
・半欠き根太：横架材に大入れ腮掛け＋斜め釘
・転ばし根太：根太が正角断面の場合、横架材に脳天釘止め
根太が縦長角断面の場合、斜め釘２本＋転び止め
・梁木：横架材に梁木道を掘り、転ばし根太と同様に止める。
・風の負圧の補強：許容応力度計算により必要耐力を有するひねり金物等を取り付ける。



（９）間柱と横架材
・上下横架材に深さ3mm程度大入れ＋斜め釘上部ほぞ差し、下部突き付け＋斜め釘
（１０）釘の最小間隔及び最小端あき距離

（d：釘径）

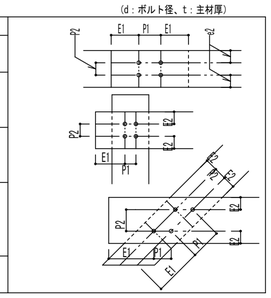
		加力方向	
		繊維方向	繊維直交方向
繊維方向	E1	15d	10d
	P1	12d	10d
繊維直交方向	E2	5d	8d
	P2	5d	8d



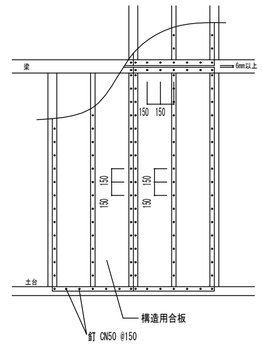
（１１）ボルトの最小間隔及び最小端あき距離

（d：ボルト径、t：主材厚）

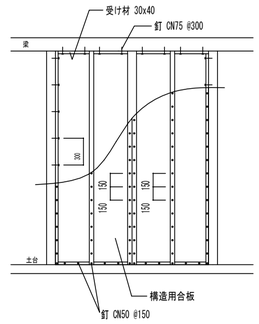
		加力方向	
		繊維方向	繊維直交方向
繊維方向	E1	7d（荷重負担側） 4d（荷重非負担側）	7d
	P1	7d	t/d=2 3d 2≦t/d≦6 3d~5d t/d≧6 5d
繊維直交方向	E2	t/d≦6 1.5d t/d>6 1.5d(hかつP2/2)	特記による。特記のない場合は以下の数値とする。 4d（荷重負担側） 1.5d（荷重非負担側）
	P2	3d	4d



（１２）面材耐力壁
１．大壁造の場合



２．真壁造の場合

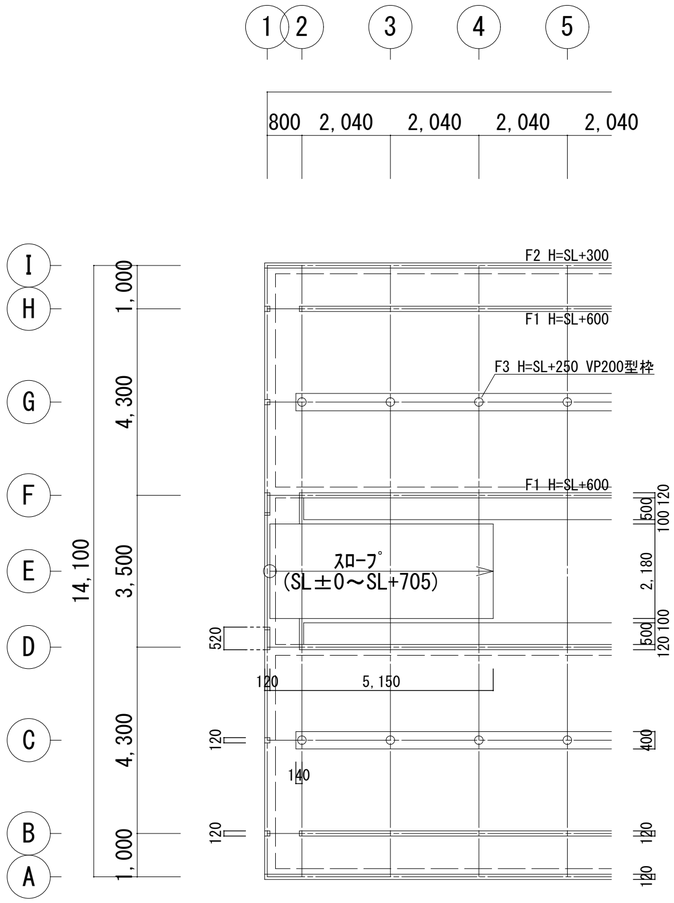


・受け材は柱や横架材にN75-@300以下で平打ちする。

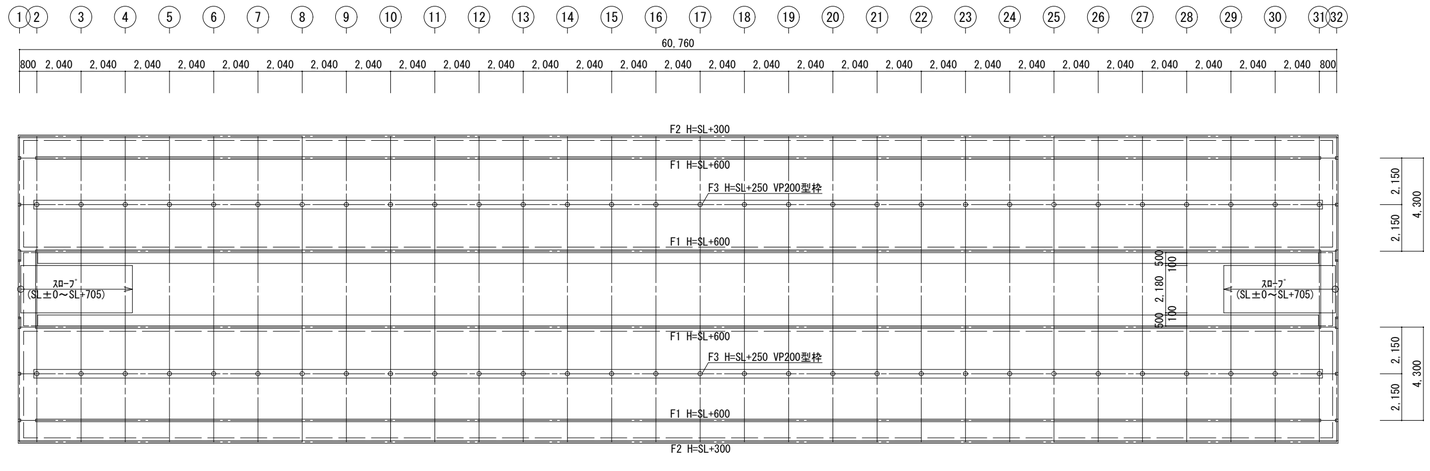
図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号 フジタ設計室
C－002（ ）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	木質工事特記仕様書（２）		H26.10					設計者 一級建築士第147056号 藤田 潔雄

凡例	名称	
□	当階柱	105x105 杉
□	筋違当り柱	105x135 杉
◇	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	M12 L=400
▫	柱脚金物	Z.PB-33

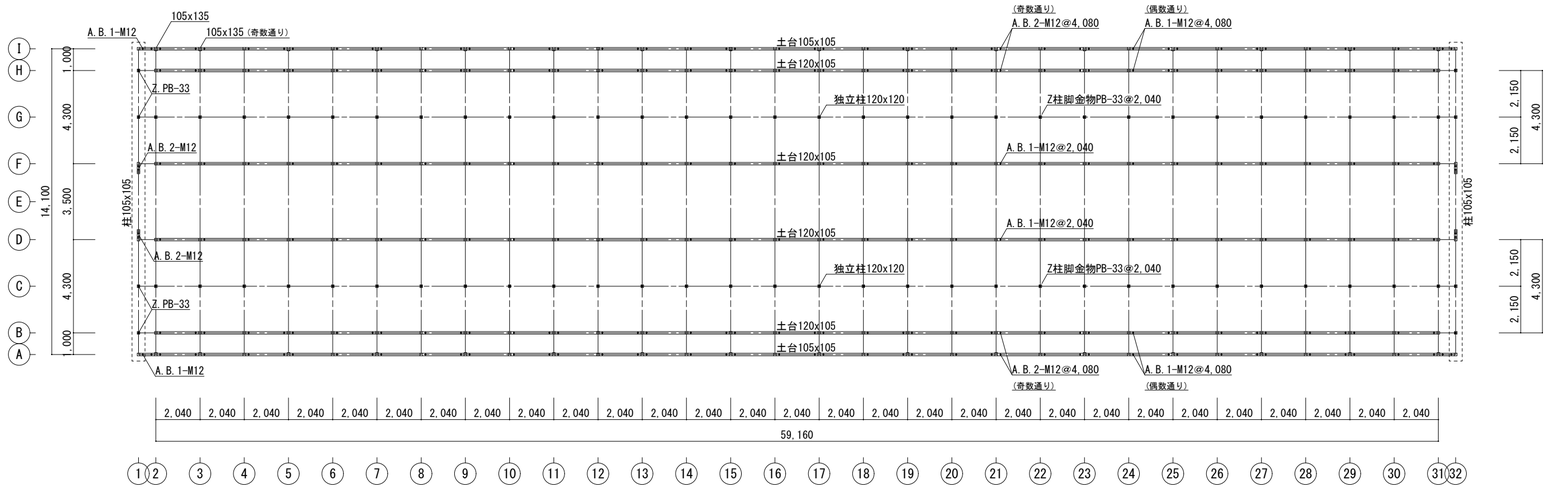
※県内産木材を使用すること
※日本農林規格（ＪＡＳ）に適合
甲種構造材（構造用Ⅰ）～３級
甲種構造材（構造用Ⅱ）～３級
乙種構造材　～３級
造作材　～小節
下地材　～２等
壁板類　～小節



基礎伏図　S=1/100



基礎伏図　S=1/200

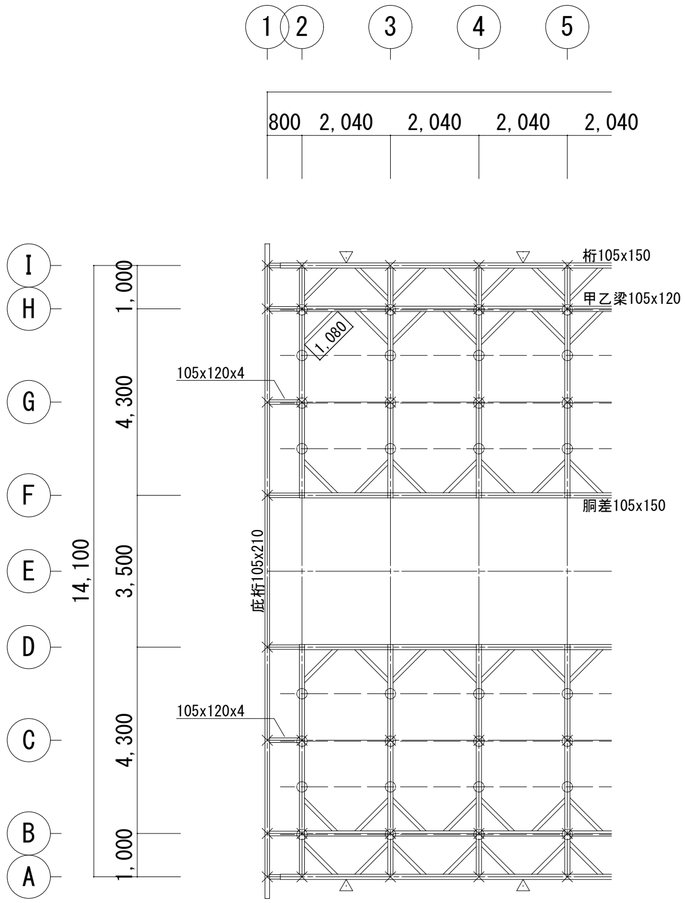


土台・柱伏図　S=1/200

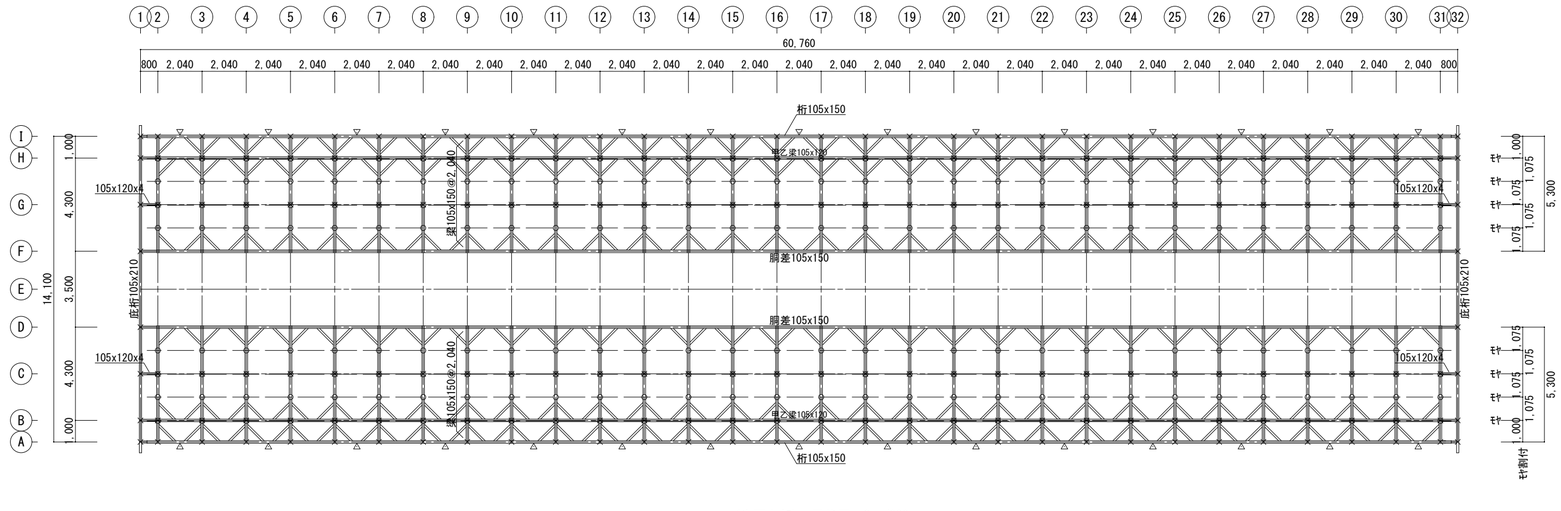
図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
C－003（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	基礎伏図 土台伏図	1/A2:100 1/A2:200 A3:141　A3:282	H26.10					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

※県内産木材を使用すること
※日本農林規格（ＪＡＳ）に適合
甲種構造材（構造用Ⅰ）～３級
甲種構造材（構造用Ⅱ）～３級
乙種構造材　～３級
造作材　～小節
下地材　～２等
壁板類　～小節

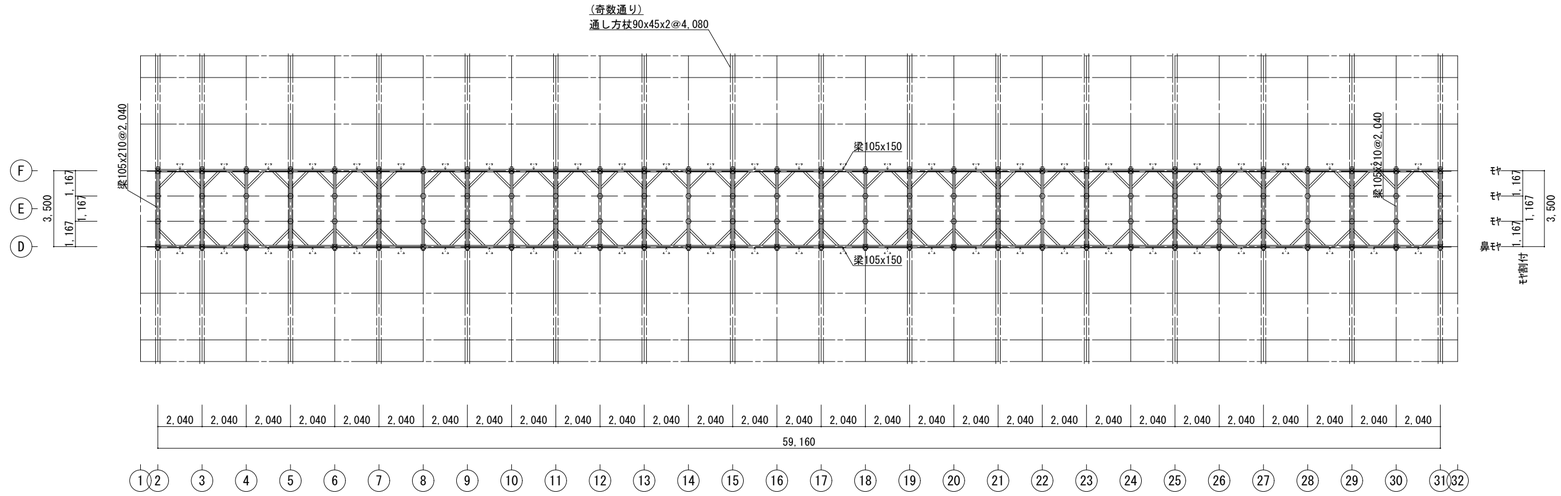
凡例	名称	寸法・材種
×	下階柱（外回り）	105x105 杉
	筋違当り柱	105x135 杉
	ｾﾐﾓﾆﾀｰ鼻ﾓﾔ	90x120 杉
	鼻ﾓﾔ束	90x90 杉
—— ——	ﾓﾔ	90x90 杉
○	ﾓﾔ束	90x90 杉
┆┆┆┆┆	ﾀﾙｷ	45x55@408 杉
／／	火打梁	90x90 杉 L=1,080
▽	壁：片方向筋違	105x50 杉
▽	壁上部：片方向筋違	90x45 杉
×	牛房回り柱	120x120 杉



（牛房上部）小屋伏図　S=1/100

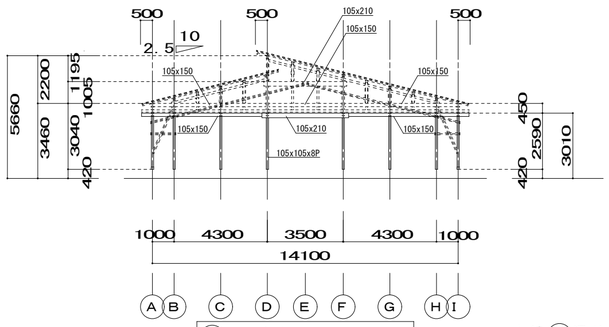


（牛房上部）小屋伏図　S=1/200



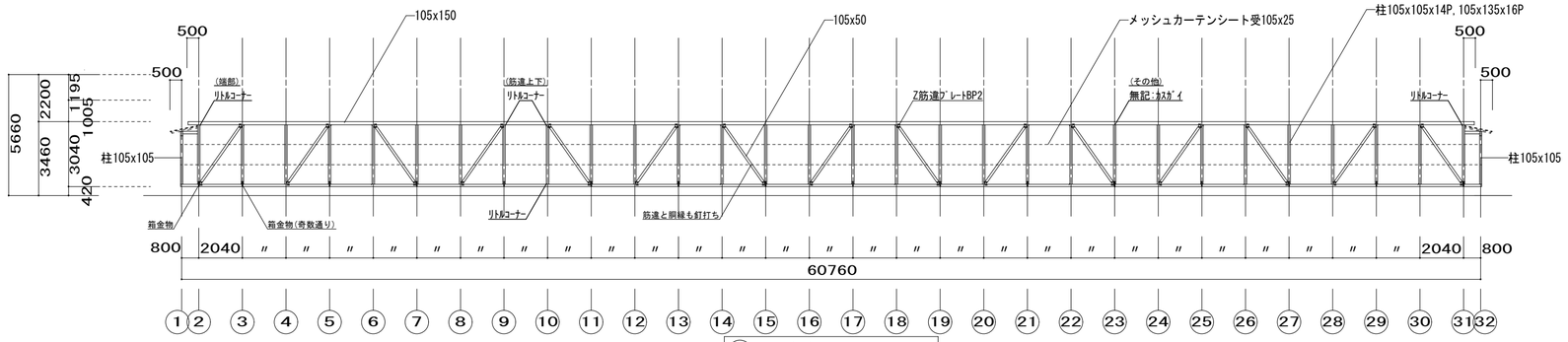
（ｾﾐﾓﾆﾀｰ）小屋伏図　S=1/200

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
C－004（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	小屋伏図	1/A2:100 1/A2:200 A3:141　A3:282	H26.10					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

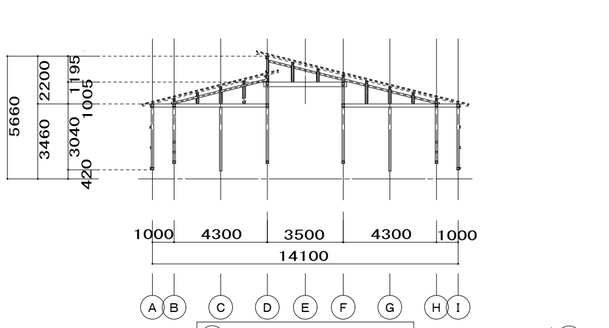


①通り軸組図　1：２００

点線②通り

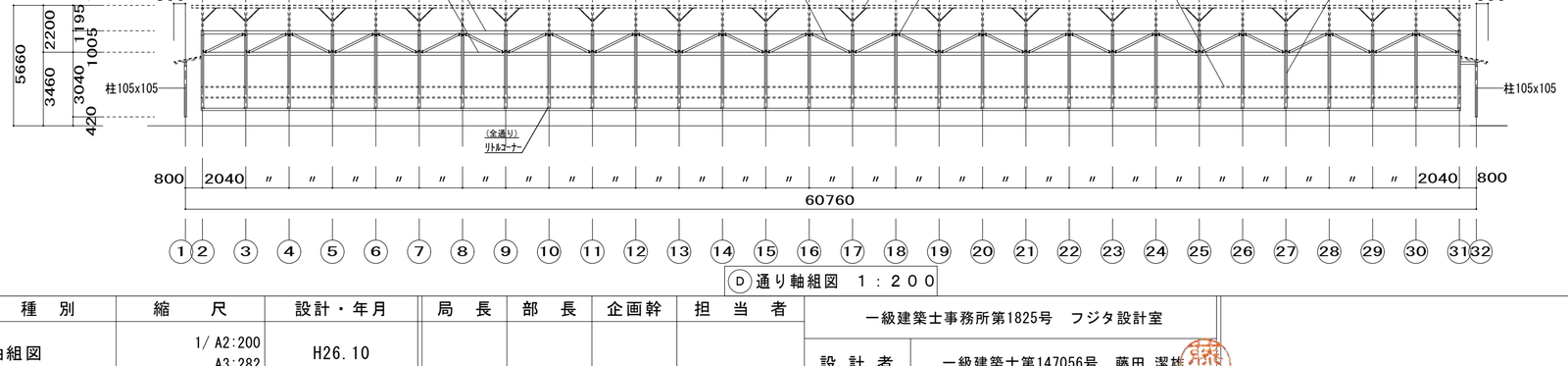


Ⓐ通り軸組図　1：２００



③通り軸組図　1：２００

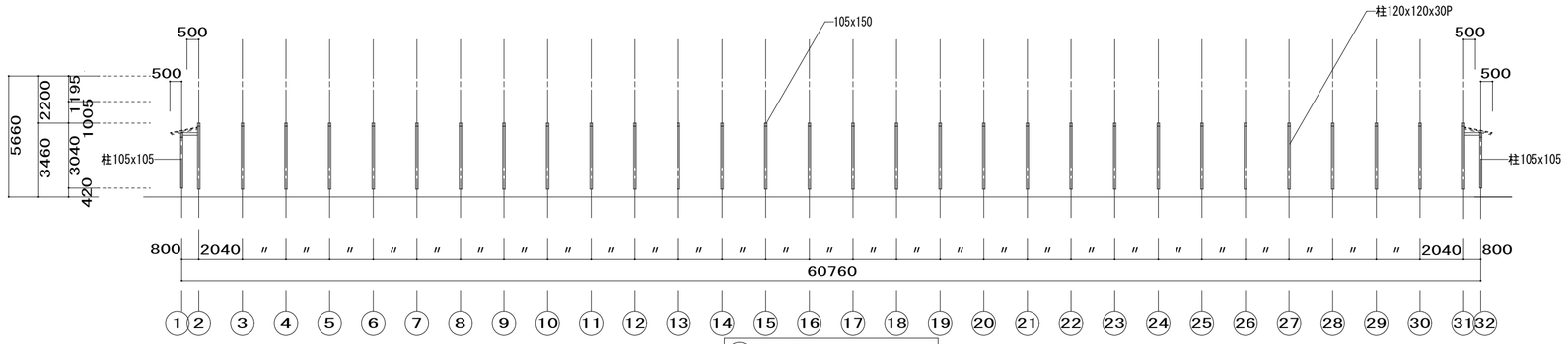
及び奇数通り



Ⓑ通り軸組図　1：２００

④通り軸組図　1：２００

及び偶数通り



Ⓒ通り軸組図　1：２００

Ⓓ通り軸組図　1：２００

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
C－005（　）	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	軸組図	1/A2:200 A3:282	H26.10					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

電　気　設　備　工　事　仕　様　書

Ⅰ　工　事　概　要

１．工　事　場　所　　島根県隠岐郡海士町大字海士5056、5061-1

２．建　物　概　要

番号	建　物　名　称	構　造	階　数	延面積（㎡）	消防法の区分	備　考
1	肥育牛舎（D棟）	W造	1	856.72	15項	
2						
3						
4						
5						

（注）　消防法の区分は消防法施行令別表第一の該当符号を示す。

３．工　事　種　目　（○印を付したものが該当）

工事種目＼建物	別建物番号 1	2	3	4	5
受変電設備	○				
電力貯蔵設備					
発電設備					
幹線設備	○				
電灯コンセント設備	○				
動力設備	○				
構内情報通信網設備					
構内交換設備					
情報表示装置					
映像・音響設備					
拡声・非常放送設備					
誘導支援装置					
テレビ共同受信設備					
テレビ電波障害調査					
防災設備					
防犯設備					
雷保護設備					
屋外設備	○				

Ⅱ　工　事　仕　様

２．　共　通　事　項

（１）図面及び特記事項に記載されていない事項は全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）平成22年版」（以下「標準仕様書」という）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）平成22年版」（以下「標準図」という）による。
ただし、改修工事に関しては「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備編)平成22年版」（以下「改修標準仕様書」という）による。

（２）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

２．　特　記　事　項

（１）章及び項目は番号に○印の付いたものを適用する。

（２）特記事項は⊙を適用する。

（３）⊙印の無い場合は、＊印のあるものを適用する。
⊙印と❀印のある場合はともに適用する。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	1 適用基準等	・消防用設備等の技術基準（第７次改訂版）（全国消防長会中国支部編） ⊙公共施設用照明器具（２０１０年版）（社団法人日本照明器具工業会） ＊工業写真の撮り方（改訂第３版）建築設備編　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
	2 機材の品質等	本工事に使用する機材は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳマーク表示のない機材及びその製造業者等は、次の１）～５）の事項を満たすものとする。 ただし使用量の少ないもの、簡易な機材又は品質を証明する資料の入手困難なもの等については、次の１）～５）を考慮の上、監督職員の承諾を受けて証明資料の提出を省略することができる。 １）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ２）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ３）法令等で定める許可、認可、認定又は、免許を取得していること。 ４）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ５）安定的な供給及び保守等の営業体制が整えられていること。 なお、商品名が記載された機材については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。 また、これらの機材を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は、外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。 ただし、社団法人公共建築協会編集・発行「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿（平成25年版）及び「同設備機材等評価名簿（平成25年版）」に記載されたものについては、所定の品質及び性能を有しているものとする。
	3 官公署その他へ届出手続等	官公署等への届出手続き、申請等に要する費用はすべて請負者の負担とする。
	4 契約種別等	・業務用電力　　変圧器容量　　電灯　　ＫＶＡ 動力　　ＫＶＡ 計　　ＫＶＡ ⊙低圧電力 ・従量電灯Ａ　　⊙従量電灯Ｂ　　・定額電灯
	5 電気保安技術者	電気工作物の保安の業務を行うものとする。なお、事業用電気工作物に係る工事においては、電気主任技術者（電気事業法による有資格者）をおくものとする。
	6 電気工事士	最大電力５００ｋＷ以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行う。
	7 工事用電力、水その他	本工事に必要な工事用電力、水などの費用は請負者の負担とする。
	8 発生材の処理	・引き渡しを要するもの（　　） ・現場において再利用を図るもの（　　） 産業廃棄物の処理及び再資源化を図るものは下記による。

項　目	品　目	搬出場所	距離(km)	処分費(有・無)	備考
特定建設資材	・ｺﾝｸﾘｰﾄ塊				
	・ｱｽﾌｧﾙﾄ塊				
	・木材				
特別管理産廃					
その他					

	9 工事写真	下記のものを提出する。 仕様は、建築工事写真取扱要領による。

区　分	分　類	サ　イ　ズ	部　数
工事中(着工前含む)	＊カラー	＊８０×１２０程度	2　部
完　成	＊カラー	＊８０×１２０程度	2　部
ﾌｨﾙﾑｶﾒﾗを使用した場合は、完成写真のﾈｶﾞﾌｨﾙﾑをｶﾗｰﾍﾟたら焼き又はｲﾝﾃﾞｯｸｽﾌﾟﾘﾝﾄと共に提出する。			1　部
ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗを使用した場合は、工事写真及び完成写真のﾃﾞｰﾀを記録したＣＤ－Ｒを提出する。			1　部

＊写真及びﾈｶﾞﾌｨﾙﾑは市販のＪＩＳ　Ａ４判の工事用ｱﾙﾊﾞﾑにて製本し、提出する。

章	項　目	特　記　事　項
	10 完成図及びﾏｲｸﾛﾌｨﾙﾑ	下記のものを、完成後１５日以内に提出する。 仕様は、建築工事完成図取扱要領による。

品　名　・　仕　様	提出部数
＊原図（設計原図訂正でもよい）	1　部
＊複写図 ＊製本　サイズ（＊Ａ３縮小版　・原図サイズ）白焼表装（＊レザック表紙（ラミネート仕上） ・黒表紙金文字入り） ・製本不要（ホッチキス止め）	4　部
＊電子ﾃﾞｰﾀ（画像ﾃﾞｰﾀ、ＣＡＤﾃﾞｰﾀ）　（ＣＤ－Ｒ）	1　部
・マイクロフィルム（島根県マイクロフィルム仕様書による）	

設計に関するCADデータを貸与するが、著作権者は＿＿＿＿にある。なお、貸与されたデータは、当該工事における施工図又は、完成図の作成のため以外に使用してはならない。

		書　類　名	提出部数
	11 保全に関する資料	建築物等の利用に関する説明書 （建築物等の利用に関する説明書作成要領による） 機器取扱説明書 官公署等届出書類 主要機器製造者一覧 その他監督員が指示するもの	2 部

	12 提出書類	竣工検査までに下記のものを１部提出する。 ⊙絶縁抵抗測定結果　　⊙接地抵抗測定結果 ・機器試験成績表　　・テレビ端子出力レベル測定結果 ・ＬＡＮケーブル伝送品質測定結果 ⊙一般用照明照度測定結果（各室について３カ所程度） 測定高さは（事務室　ＦＬ＋８００、廊下等　ＦＬ＋０）とする ・非常用照明照度測定結果（各室について２カ所程度） 測定高さは床面とする
	13 耐震措置	設備機器の固定は、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説（建設大臣官房官庁営繕部監修）平成8年版」による。施工は「建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立法人建築研究所監修）2005年版」による。 建物の種別 ・　特定の施設　　⊙　一般の施設 重要機器 ・配電盤　・自家発電装置　・交換機 ・直流電源装置　・ＵＰＳ装置　・火災報知受信機 ・中央監視制御装置 設計用水平地震力 機器の重量(kgf)に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。なお、特記なき場合、設計用標準水平震度は次による。 設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水槽類(ｵｲﾙﾀﾝｸ)	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水槽類(ｵｲﾙﾀﾝｸ)	1.5	1.0	1.0	0.6
１階及び地下階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類(ｵｲﾙﾀﾝｸ)	1.5	1.0	1.0	0.6

注）上層階の定義は次による。
2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階

設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

	14 耐震施工	横引き配管等は、地震時の設計用水平震度及び設計用鉛直震度に応じた地震力に耐えるよう標準図による耐震支持を行う。 ただし、次の場合を除く。 呼び径が82mm以下の単独配管、幅400mm以下のｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ 周長800mm以下の金属ダクト、幅400mm以下の集合配管 吊り材の長さが平均0.3m以下の配管配線等
	15 他工事との取合	梁・壁・床貫通部の補強及びスリーブ 補強　⊙本工事　・別途工事 スリーブ　⊙本工事　・別途工事 照明器具、幹線等の吊りボルト用インサート インサート　・本工事　・別途工事

章	項　目	特　記　事　項
		埋込分電盤、端子盤等の仮枠及び埋込部分の補強 ・本工事　・別途工事 天井埋込形器具の天井切込加工（下地を含む）及び補強 ・本工事　・別途工事 二重床の配線器具取付箇所の切込及び補強 ・本工事　・別途工事 シャッター等の２次側配線配管工事 ・本工事　・別途工事
	16 位置ボックス	・鋼製　⊙樹脂製 鋼製ボックスを使用する場合は、ボックスに接地を施すこと。 防火隔壁等に埋込む場合は、鋼製とする。
	17 フラッシュプレート	⊙金属製　（適用範囲：　　） ・合成樹脂製（適用範囲：　　）
	18 カバープレートの表示	容易に剥離しない方法にて、用途を表示したｼｰﾙ等を貼付すること。
	19 接地極	接地極は下記による。（ＥＢはＬ＝１，５００mmとする）

種　類	記　号	接地抵抗値	接地極
Ａ種	ＥＡ	10Ω以下	EB(D=14又はW=40)＊3連－2組
Ｂ種	ＥＢ	Ω以下	EB(D=10又はW=30)＊2連－2組
Ｃ種	ＥＣ	10Ω以下	EB(D=14又はW=40)＊3連－2組
Ｄ種	ＥＤ	100Ω以下	EB(D=10又はW=30)＊1
雷保護用Ａ型	ＥＬＡ	Ω以下	EB(900＊900，t=1．5)＊2

（但し、D種は　ＥＢ＝１，０００　とする）

	20 分電盤・端子盤	・標準仕様書による　　⊙製造者標準とする
	21 鋼製電線管	特記なきは、ねじなし電線管とする。
	22 ＰＦ管	特記なきは一重管とする。
	23 露出配管の塗装	居室、廊下、外壁面で露出となる鋼製電線管（位置ﾎﾞｯｸｽを含む）、支持金物には塗装を施す。
	24 ﾌﾞﾙﾎﾞｯｸｽの塗装	ステンレス製ブルボックスの塗装 ＊ 有（メーカ指定色又は指定色仕上）　・　無（素地仕上）
	25 結露防止	内側断熱施工される構造体のコンクリートに埋込むボックス等には断熱材等を取り付ける。
	26 再使用機器	取外し再使用する機器は清掃及び絶縁抵抗測定の上取付ける。
	27 予備配管	壁内に埋込みとなる分電盤、端子盤等には予備配管として、Ｅ２５×２　または　ＰＦ２２×２　を設置する。 天井スラブの場合 天井又は梁下２０ｃｍまで立上げ、ボックス止めとする 二重天井の場合 配管を天井内まで立上げる
	28 支持金物等	屋外及び湿気の多い場所で使用する支持金物はステンレス製とする。ただし、装柱金物は除く
	29 電線類	（１）EM電線類で規格等記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。 （２）通信ケーブルでJCS規格にない対数のケーブルはJCS規格に準じたものとする。
	30 足場	本工事で設置する。 ・外部足場（・Ａ種　・Ｂ種）
	31 土工事	建設発生土の処分 ・　構内敷き均し ⊙　構外搬出適切処理
	32 はつり工事	既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴あけは原則としてダイヤモンドカッターによる。
	33 防火区画等の貫通	配管・配線・ラック等が防火区画等を貫通する場合は、適切な処置を施す。
	34 スリーブ	柱・梁には紙チューブは使用しない。
	35 負担金	工事負担金は、本工事とする。 ・電力負担金　　円（内消費税等相当額　　円） ・テレビ共聴　　円（内消費税等相当額　　円）
	36 特定元方事業者の指名	労働安全衛生法第30条第2項に基づく指名 ・本工事の請負者を指名する。 ・他工事の請負者を指名する。 （　　）

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	
Ｅ－０１	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	電灯設備工事仕様書1	― ― ―	H26.09					一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室 設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

章	項目	特記事項
	(37) 施工図及び施工計画書	施工図の提出は１部とし、提出した施工図及び施工計画書の著作に関わる当該建築物における使用権は発注者に移譲するものとする。
	(38) 施工調査	本工事の施工に先立ち事前調査を行う。
	39 木製安全施設製品（県産木材製品）	・　工事用掲示板（表示板1,400㎜×1,100m用）　台 ＊　工事用看板（表示板1,400㎜×500m用）　２台 ＊　工事用バリケード
	40 関連他工事	
２受変電設備	(1) 電気方式	・高圧　三相３線式　６．６ＫＶ ⊙低圧　三相３線式　２００Ｖ ⊙低圧　単相３線式　２００Ｖ／１００Ｖ ・低圧　単相２線式　１００Ｖ
	2 高圧負荷開閉器	引込柱取付け、閉鎖型、過電流蓄勢トリップ形、モールドコーンプッシング付 ・気中　・真空　・ガス ・耐塩形（・亜鉛メッキ・ステンレス） ・地絡継電器付　・方向性地絡継電器付 ・ＶＴ内蔵　・ＬＡ内蔵
	3 キュービクル	・屋内形　・屋外形 ・鋼板製　・ステンレス製（着色）
	4 変圧器	・油入　・モールド モールド変圧器の表面は充電部とみなし注意標識を取付ける。 モールド変圧器はダイヤル温度計を附属させる。
	5 進相コンデンサ	・高圧側　・低圧側 ・油入 ・乾式（・モールド　・ガス　・オイルレス（一体型））
	6 直列リアクトル	・油入 ・乾式（・モールド　・オイルレス（一体型））
	7 引込開閉器盤（低圧の場合）	・電柱取付形（防水）　・屋側取付形（防水） ・鋼板製　・ステンレス製（着色）
	8 キュービクル基礎及びボルト	基礎　・本工事　・別途工事 ボルト　・本工事　・別途工事
	9 感熱表示ラベル	導電部の接続端子近辺には不可逆性の感熱表示ラベルを貼付する。（変圧器の２次側端子、低圧盤１次側母線）
	10 高調波計算書	機器承諾図提出前に高調波流出電流を計算し、監督員に提出する。
	11 予備配管	屋外キュービクル式受電設備の場合、予備配管を基礎外部まで設ける。（ＦＥＰ　８０　×３本）
	12 予備品等	標準仕様書によるほか下記による。 ヒューズ類（種別ごとに下記の数量とする） ・現用数　・現用数の２０％（１個以上） ＡＢＣ１０型消火器（屋外は箱入りとする） 主回路接続図（透明ケース入り）
３電力貯蔵設備	Ａ 直流電源装置	
	1 用途	・非常用照明（建築基準法）・受変電設備用
	2 蓄電池	・ＨＳ型鉛蓄電池　・ＭＳＥ型鉛蓄電池
	3 予備品等	標準仕様書によるほか下記による。 主回路接続図（透明ケース入り）
	Ｂ 交流無停電電源装置（ＵＰＳ）	
	1 形式	・ＵＰＳ　・簡易形
	2 定格出力	（　　）ＫＶＡ
	3 停電補償時間	（　　）分（定格出力運転時）
	4 予備品等	標準仕様書によるほか下記による。 主回路接続図（透明ケース入り）但し、簡易形は除く

章	項目	特記事項
４発電設備	Ａ非常用発電	
	1 電気方式	三相３線式　・高圧　・低圧
	2 用途	・消防設備負荷　・建築基準法関連負荷 ・一般負荷
	3 使用燃料	・灯油　・軽油　・Ａ重油　・ガス
	4 形式	・屋内形　・屋外形 ・配電盤別置形　・配電盤搭載形 ・配電盤搭載形（キュービクル形）
	5 発電機	（　　）ＫＶＡ以上
	6 原動機	（　　）ＰＳ以上　定格回転速度（　　）min^{-1} ・ディーゼル　・ガスエンジン　・ガスタービン
	7 連続運転時間	無給油で（　　）時間以上運転可能なこと
	8 運転音	機器、排気管及び排風ﾀﾞｸﾄより１ｍの位置での運転音 ・105dB(A)　・85dB(A)　・75dB(A)
	9 保守運転	自動
	10 燃料系統	・本工事　・別途工事
	11 防災電源	建築基準法及び消防法に係る発電装置は、関係法令に適合している旨の試験成績書等を監督員に提出する。
	12 予備品等	標準仕様書によるほか下記による。 ＡＢＣ１０形消火器　１本（屋外は箱入りとする）
	Ｂ太陽光発電	
	1 公称最大出力	（　　）KW以上　（日射強度　１KW／㎡，２５℃，ＡＭ１．５）
	2 耐風速	建築基準法施行令第８７条の規定による風圧力に耐えるものとし、強度計算書を監督員に提出する。
	3 系統連系	・行う　・行わない 系統連系を行う場合は、「系統連系技術要件ガイドライン」を満足すること。
	4 売電	・行う　・行わない
５幹線設備	(1) 電気方式	⊙三相３線式　２００Ｖ ⊙単相３線式　２００Ｖ／１００Ｖ ・単相２線式　・１００Ｖ　・２００Ｖ ・直流２線式　１００Ｖ
	(2) 施工方式	⊙電線管配線　・ケーブルラック配線
	3 ラックの種別	・ＺＭ形・Ｚ３５形・ＡＬ形　・ＺＴ形 図示がある場合には、図示の種別による。
	4 電力量計	・検定付　・検定なし
６電灯コンセント設備	(1) 電気方式	⊙単相２線式　⊙１００Ｖ　⊙２００Ｖ ・直流２線式　１００Ｖ
	(2) 配線器具	スイッチ、コンセントは大角形とする。 ２連以上スイッチは、ネーム付とする。 床コンセント　・アップ式　・フロア形 コンセント容量２０Ａ以上、３Ｐ以上、防水形はプラグを付ける。 接地極付コンセント（２Ｐ１５Ａ（Ｅ））及び防雨形コンセントのプラグは不要とする。
	3 非常用照明器具	・電池内蔵型　・電源別置形
	(4) 安定器	特記なきは下記による。 電圧（・１００　⊙２００　・１００／２００） 直管形　Ｈｆ形　１６Ｗ　・ＰＨ・ＰＸ ３２Ｗ　・ＰＨ・ＰＫ・ＰＸ・ＰＺ コンパクト形　Ｈｆ形　Ｈ２４　ＰＮ Ｈ４２　ＰＸ Ｐ３２　・ＰＮ・ＰＷ Ｐ４５　・ＰＮ・ＰＸ 定格入力電圧の１００／２００はユニバーサル電圧（１００～２４２Ｖ）に対応するものとする。
	5 照明制御	・在／不在制御　・外光（昼光）利用 ・初期照度補正　・段階調光 ・連続調光 特記なき場合、一般事務室において初期照度は（　　）ルックスに設定を行う。

章	項目	特記事項
	6 光源	光源色の特記なき場合は下記による 直管　３波長域発光形昼白色 コンパクト形　＊３波長域発光形昼白色 ・３波長域発光形電球色 ＬＥＤ　＊昼白色 ・　電球色
	7 コンセントプレート	・シール等により商用系、自家発系を明示すること。 ・ＯＡタップについては回路番号を明示すること。
７動力設備	(1) 電気方式	三相３線式
	(2) 電源を必要とする機器	・空調設備　⊙換気設備　・給排水設備 ・浄化設備　・消火設備　・厨房設備 ・給湯設備　・排煙設備　・エレベータ設備 ・コンセント　・建築関係設備　・備品関係設備
	3 監視	・警報盤　・中央監視盤（別途工事）に接続
	4 空調電気設備	・本工事　・別途工事
	(5) 機器への接続	⊙本工事　・別途工事
８構内情報通信網設備	1 工事範囲	・配管　・配線　・端子盤等取付 ・機器収納ラック等取付　・情報通信機器取付
９構内交換設備	1 工事範囲	・配管　・配線　・端子盤取付 ・機器取付
	2 交換機	・新設　・既存交換機改修 ・本工事　・別途工事 ・電子電話交換機　・ボタン電話
	3 電話機	・本工事　・別途工事 ・固定電話・デジタルコードレス電話（ＰＨＳ方式）
	4 取付高さ	壁又は柱に設置する電話用アウトレットの取付高さは、特記なき場合、　ＦＬ＋１，３００　とする。 この場合、電話機は壁掛形とする。
	5 保安器箱	・埋込形　・露出形
10情報表示装置	Ａﾏﾙﾁｻｲﾝ設備	
	1 情報表示盤	・発光ダイオード式（・４色　・フルカラー） ・プラズマ式（・標準形　・広角形） ・液晶式
	Ｂ出退表示設備	
	1 出退表示盤	・発光ダイオード式（・２モード　・４モード） ・液晶式　・プラズマ式
	Ｃ時刻表示設備	
	1 親時計	水晶式（週差０．７秒以下）
	2 子時計	・壁掛形　・埋込形　・吊下形　・スピーカ組込 ・アナログ式　・デジタル式
	3 電池時計	電池はリチウム電池とする。

章	項目	特記事項
11映像音響設備	1 工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
	2 対象室名	・ ・
	3 増幅器	Ｌｏ形増幅器とする。
	4 プロジェクター	・本工事　・別途工事 投写方式 ・前面投写式・天井つり下げ形・床置形 ・背面投写式・反射透過形　・キャビネット形 ・キャビネット組合せ形　・直射透過形 明るさ・Ⅰ型・Ⅱ形・Ⅲ形　解像度・Ａ形・Ｂ形 コントラスト比　・Ｘ形　・Ｙ形
	5 スクリーン	・本工事　・別途工事 ・反射マット形・反射ビーズ形・反射細ビーズ形 ・反射ストライプ形　・透過形 ・手動巻上式　・電動巻上式（・無線・有線） 電圧（・単相１００Ｖ　・三相２００Ｖ）
12拡声非常放送設備	1 放送設備	・一般用　・非常一般兼用
	2 増幅器	Ｈｉ形増幅器　（　　Ｗ　　局）
	3 形式	・ラック形　・卓上型　・壁掛形
	4 スピーカ	一般放送のスピーカは図面に特記なき場合は下記による。 壁掛け形　ＳＷ１Ｈｉ－３Ｖ０ 天井埋込形　ＳＣ６Ｈｉ－１（３）Ｖ３Ｍ 非常放送の場合は消防法適合品とし、形状は一般放送と同様とする。
	5 放送回路	時報及び自動放送（体操放送等）は音量調節器を経由した回路とする。（一斉放送回路は使用しない）
	6 接続	卓上型増幅器の場合、増幅器と外部配線（壁ボックス等）の接続は、コネクターによる。
13誘導支援装置	1 音声誘導装置	検出部　・磁気式　・無線式 案内表示部　・音声　・音響
	3 トイレ等呼出装置	呼出ボタンは呼出確認ができるものとし、引き紐付とする。
	4 ｲﾝﾀｰﾎﾝ種別	・インターホン　・テレビインターホン
	5 接続方式	・親子式　・相互式　・複合式
	6 通話方式	・交互通話方式　・同時通話方式
	7 形式	親機　・電話形　・スピーカ形 ・壁掛形　・卓上形 子機　・電話形　・スピーカ形　・壁掛形 ・卓上型　・点字説明付　・確認灯付
	8 用途	・庁内連絡　・夜間受付　・身体障がい者用兼用
14テレビ共同受信設備	1 アンテナ	・ＶＨＦ　・ＵＨＦ　・ＢＳ　・ＣＳ ・標準図による　・一般品
	2 機器	分岐器、分配器及び直列ユニットは、ＣＳ、ＢＳ、ＵＶ共用形とする。
	3 増幅器	・標準図による　・一般品（金属ケース）
	4 アンテナマスト	・標準図による　・設計図による ・自立型　・壁面取付形　・ポール取付
	5 アンテナ基礎及びボルト	基礎　・本工事　・別途工事 ボルト　・本工事　・別途工事
	6 受像端子	・単独　・コンセントと同一プレート
	7 プラグ	・受像端子に付属させる

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	
Ｅ－０２	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	電灯設備工事仕様書2	―― ―― ――	H26.09					一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室 設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

章	項目	特記事項
15 テレビ電波障害調査	1 調査仕様	図面に記載されていない事項は全て（社）日本ＣＡＴＶ技術協会の「建物によるテレビ受信障害調査要領」による。
	2 調査機関	テレビ電波障害の調査は、社団法人日本ＣＡＴＶ協会による。
	3 調査内容	・事前調査　・中間調査　・事後調査
16 防災設備	Ａ火災報知設備等	
	1 種別	・自動火災報知設備　・非常警報設備 ・漏電火災警報器　・火災通報装置 ・自動閉鎖装置　・住宅用火災警報器
	2 受信機	・Ｐ形１級　・Ｐ形２級　・Ｒ形 ・単独形　・複合形　（　）回線
	3 副受信機	（　）窓
	4 発信器、ベルランプ	・単独設置　・総合盤　・消火栓ボックスに組込
	5 消火ポンプ起動	・発信器連動　・起動押しボタン方式 ・消火栓開閉レバー連動（リミットスイッチ）
	6 非常警報装置	・複合装置　・一体形　・単独設置
	7 予備品等	共通仕様書によるほか下記による 警戒区域図（透明ケースに収納）
	Ｂ誘導灯等	
	1 誘導灯の種別	・避難口　・通路　・客席
	2 誘導標識	・避難口　・通路 誘導標識は所轄の消防署と協議の上、取付とする。
	Ｃｶﾞｽ漏れ警報設備	
	1 警報対象	・ＬＰガス　・都市ガス
	2 警報方式	・現地警報　・　現地警報及び中央警報 ・遮断弁連動
	3 警報器電源	・ＡＣ１００Ｖ　・ＤＣ　２４Ｖ
	4 受信機	・単独　・火報受信機などと一体
	5 ガス遮断弁	・本工事　・別途工事
	6 予備品等	共通仕様書によるほか下記による 警戒区域図（透明ケースに収納）
17 防犯設備	1 工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
	2 警戒方式	・監視カメラ　・センサー ・別途機械警備
	3 監視カメラ	・カラー　・白黒　・旋回装置・モニタ装置・録画装置 伝送方式　・アナログ　・ネットワーク
18 雷保護設備	1 受雷部ｼｽﾃﾑ	・突針　・メッシュ導体　・水平導体　・棟上げ導体
	2 引下導線ｼｽﾃﾑ	・引下げ導線　・建築構造体利用
	3 接地システム	・板状接地極　・垂直接地極 ・放射状接地極　・環状接地極　・網状接地極
	4 保護レベル	・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ
	5 大地抵抗率の測定	工事着工時に大地抵抗を測定し、測定表及び接地極省略判定記録書を監督職員に提出する。

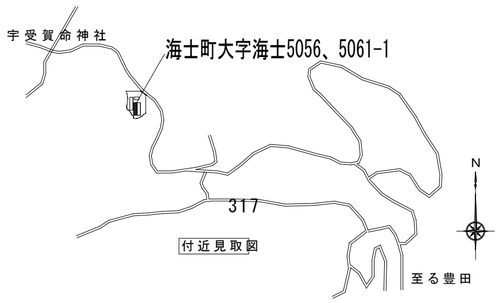
章	項目	特記事項
19 屋外設備	Ａ構内線路	
	1 施工方式	⊙地中配線　・架空配線
	2 標識シート	・高圧　⊙低圧　・弱電 標識シートは２倍長以上重ね合わせとする。
	3 埋設標	標準図（電力１２４）により設置する。
	4 ハンドホール	ブロックハンドホールとする。
	5 地中埋設深さ	⊙ＧＬ－６００ｍｍ（　） ・ＧＬ－３００ｍｍ（　） 舗装のある場合は、路盤下より上記の深さとする。 埋設深さは、地表面又は路盤下より配管上端までとする。
	6 支線	支線のある場合は支線ガードを設置する。
	7 埋戻し土	地中配管の上下５０ｍｍを砂又は良質土にて保護を行う。 良質土は、根切り土中の良質土を使用する。
	Ｂ屋外機器	
	1 機器	・蛍光灯　・水銀灯　・分電盤　・端子盤 ・コンセント　・スピーカ　・時計　・防犯灯
	2 外灯区分開閉器	配線用遮断器（トリップ機構無し）をﾎﾟｰﾙ内部に設置する。
	3 ポール基礎	・設計図による　・標準図による ・埋込式　・ベースプレート式

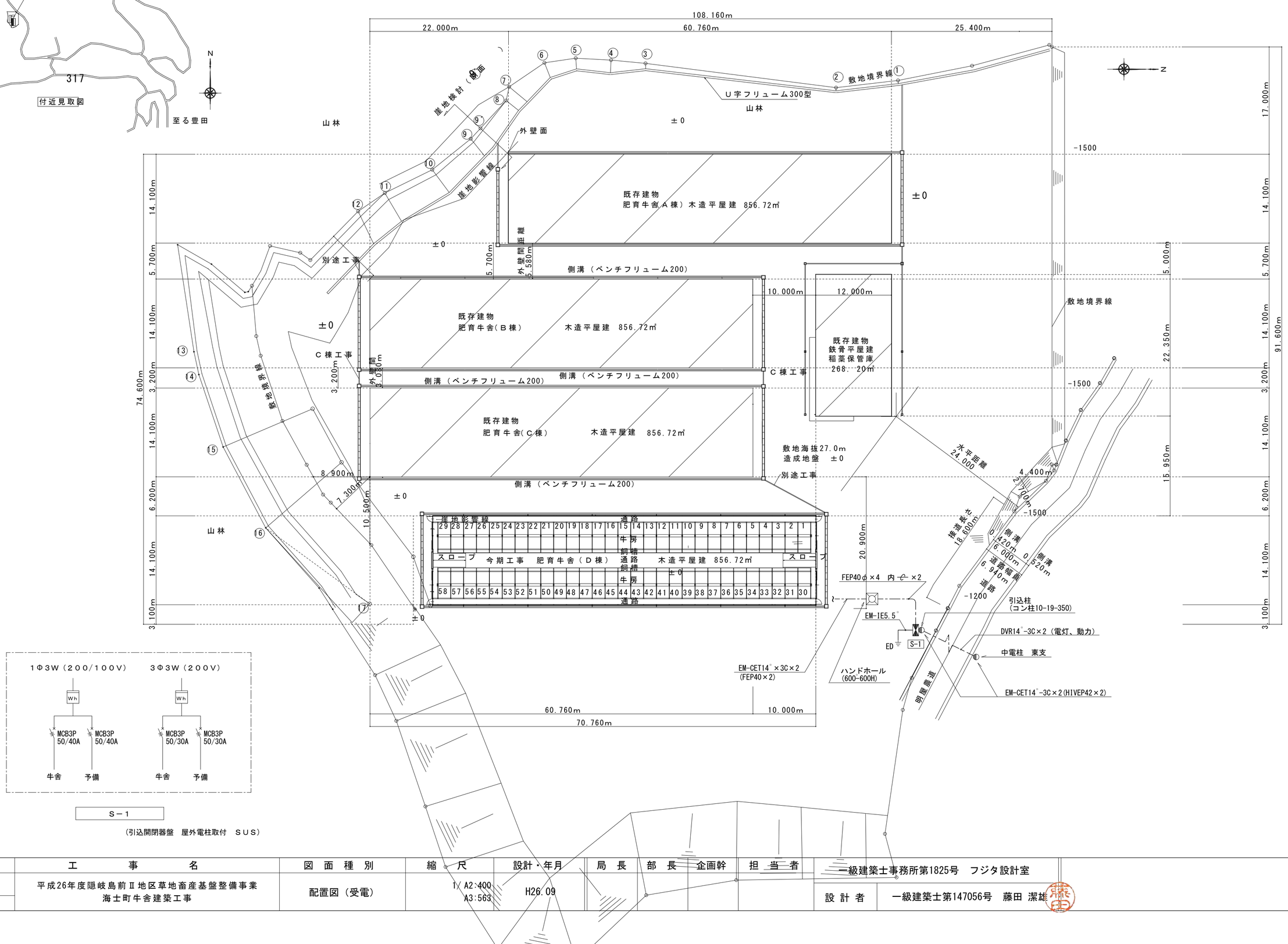
章	項目	特記事項
20 その他	機器取付高	機器の取付高は、下表を標準とする。ただし、監督員の指示により変更することがある。

	名称	測点	取付高（mm）
電力	取引用計器	地　上～窓中心	1,800～2,000
	引込開閉器盤	床　上～中　心	1,800～2,200
電灯	分電盤	〃	（上端1,900以下）1,500
	スイッチ	〃	1,300
	ｽｲｯﾁ（宿舎）	〃	1,100
	ｺﾝｾﾝﾄ（一般）	〃	300
	〃　（和室）	〃	150
	〃　（宿舎居室内）	〃	150
	〃　（台上）	台　上～中　心	150
	〃　（土間）	床　上～中　心	800～1,300
	ﾌﾟﾗｹｯﾄ（一般）	〃	2,100～2,300
	〃　（踊場）	〃	2,000～2,500
	〃　（鏡上）	鏡上端～中　心	150
	多機能ﾄｲﾚｽｲｯﾁ	床　上～中　心	900
動力	壁掛形制御盤	〃	（上端1,900以下）1,500
	手元開閉器	〃	1,500
	操作ｽｲｯﾁ	〃	1,300
構内交換	端子盤	床　上～下　端	300
	保安器箱（一般）	天井下～上　端	200
	壁付位置ﾎﾞｯｸｽ（和室）	床　上～中　心	150
	〃　（壁掛）	〃	1,300
拡声時計	壁掛形親時計	〃	（上端1,900以下）1,500
	子時計	天井下～上　端	200
	壁掛形ｽﾋﾟｰｶ	〃	200
	壁付ｱｯﾃﾈｰﾀ	床　上～中　心	1,300
誘導支援	壁付位置ﾎﾞｯｸｽ（一般）	〃	1,300
	〃　（和室）	〃	150
	壁付ｲﾝﾀｰﾎﾝ（一般）	〃	1,300
	〃　（身障者用）	〃	1,000
	押しﾎﾞﾀﾝ（多機能ﾄｲﾚ）	〃	900(300)
表示	壁付発信器	〃	1,300
ﾃﾚﾋﾞ共同受信	機器収納箱	天井下～上　端	200
	直列ﾕﾆｯﾄ（一般）	床　上～中　心	300
	直列ﾕﾆｯﾄ（和室）	〃	150
火災報知	受信機、副受信機	床　上～中　心	1,500
	総合盤	〃	1,200～1,500
	発信器	〃	800～1,500
	ベル	〃	2,300
	表示灯	〃	2,100
ｶﾞｽ検知	検知器（都市ｶﾞｽ）	天井下～下　端	300
	検知器（ＬＰｶﾞｽ）	床　上～上　端	300
	ｶﾞｽ漏れ中継器	天井下～中　心	300

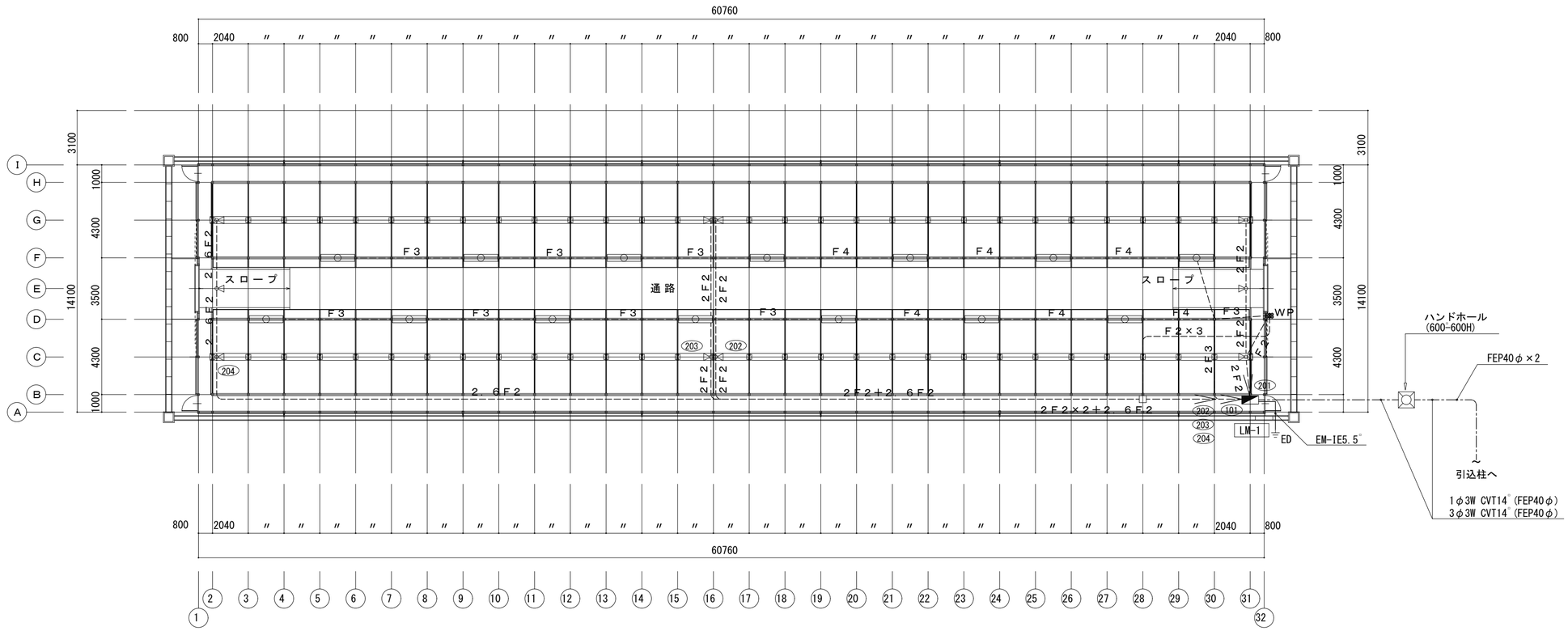
注）誘導支援設備の押しボタン（多機能トイレ）の取付高さ（300）は床に転倒した時を考慮した高さ

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
Ｅ－０３	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	電灯設備工事仕様書3	― ― ―	H26.09					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄





図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号 フジタ設計室
E－04	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	配置図（受電）	1/A2:400 A3:563	H26.09					設計者 一級建築士第147056号 藤田 潔雄



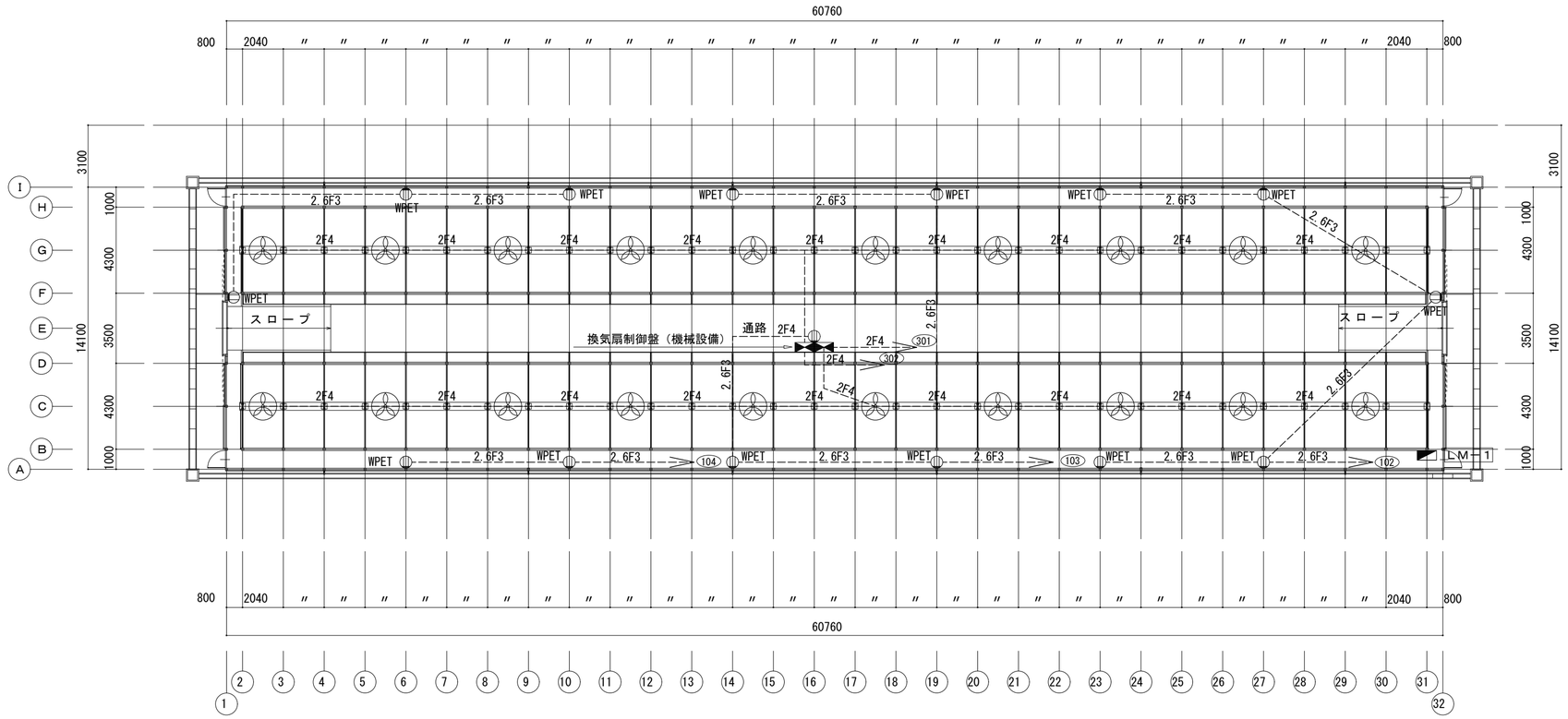
平面図　　１：２００

A　IL500W（200V）（10台）	B　FHF32W×2（PH）（14台）
丸座台取付	ガード付

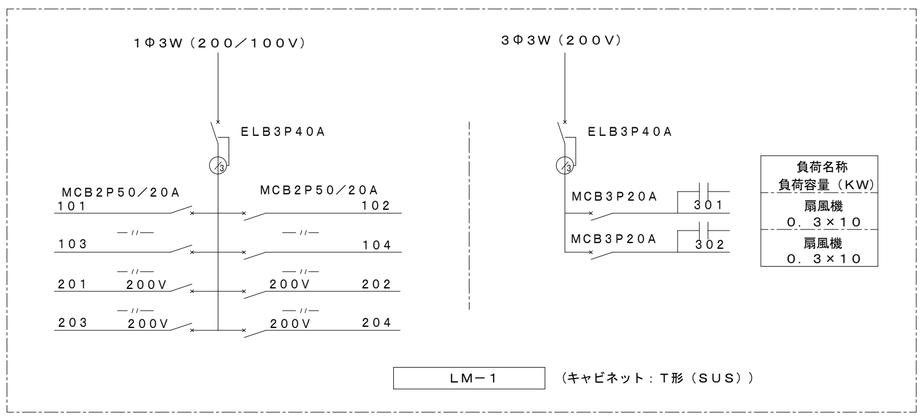
照明器具姿図

凡　例	
2.6F2	EEF2.6-2C
2F2	EEF2.0-2C
2F3	EEF2.0-3C
F2	EEF1.6-2C
F3	EEF1.6-3C
F4	EEF1.6-2C×2

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
E-05	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	平面図（幹線・電灯）	1/A2:200 A3:282	H26.09					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄



平面図　　１：２００



LM－1　（キャビネット：T形（SUS））

凡　例

2F4	EEF2.0-3C E2.0
2.6F3	EEF2.6-3C

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
E－06	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	平面図（動力・コンセント）	1/A2:200 A3:282	H26.09					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

機械設備工事仕様書

Ⅰ　工事概要

1．工事場所　　島根県隠岐郡海士町大字海士5056、5061-1

2．棟別概要

建物番号	名称	構造	階数	延面積(㎡)	消防法の区分	備考
1	肥育牛舎（D棟）	W造	1	856.72	15項	
2						
3						
4						
5						
6						
7						

（注）消防法の区分は消防法施行令別表第一の該当符号を示す。

3．工事種目　（○印を付したものが該当）

工事種目＼建物別番号	1	2	3	4	5	6	7	8
衛生器具設備								
給水設備	○							
排水設備								
消火設備	○							
ガス設備								
給湯設備								
浄化槽設備								
空気調和設備								
換気設備	○							
自動制御設備								
エレベーター設備								

Ⅱ　工事仕様

1．共通事項
（1）図面及び特記事項に記載されていない事項は全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）平成22年版」（以下「標準仕様書」という）及び「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）平成２２年版）」（以下「標準図」という）による。ただし、改修工事に関しては「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）平成２２年版」（以下「改修標準仕様書」という）による。
（2）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2．特記事項
（1）章及び項目は、番号に○印のついたものを適用する。
（2）特記事項は、⊙ 印を適用する。
⊙ 印の無い場合は、＊ 印のあるものを適用する。
⊙ 印と ㊟ 印のある場合はともに適用する。

章	項目	特記事項
①一般共通事項	①. 適用基準等	⊙ 消防設備等の技術基準 全国消防長会中国支部編（第７次改訂版） ⊙ 島根県機械設備工事施工標準図（平成１２年版） ㊟ 工事写真の撮り方（改訂第３版）建築設備編 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

章	項目	特記事項
	②. 材料の品質等	本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳ、ＪＡＳマーク又は「給水装置の構造及び材質の基準に関する省令」に適合することを示す認証機関のマーク表示のない機材及びその製造業者等は、次の１）～５）の事項を満たすものとする。 ただし、使用量の少ないもの、簡易な機材又は品質を証明する資料の入手困難なもの等については、次の１）～５）を考慮の上、監督職員の承諾を受けて証明資料の提出を省略することができる。 １）品質及び性能に関する試験ﾃﾞｰﾀが整備されていること。 ２）製造又は施工実績があり、その信頼性があること。 ３）法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ４）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ５）安定的な供給及び保守等の営業体制が整えられていること。 なお、商品名が記載された機材については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。 また、これらの機材を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。 ただし、社団法人公共建築協会編集・発行の「建築材料設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿（平成25年版）」及び「同設備機材等評価名簿（平成25年版）」に記載されたものについては、所定の品質及び性能を有しているものとする。
	③. 官公署その他への届出手続き等	官公署等への届出手続き、申請等に要する費用はすべて請負者の負担とする。
	④. 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、監督職員の指示に従い電気工作物の保安の業務を行うものとする。
	⑤. 工事用電力、水その他	本工事に必要な工事用電力、水などの費用はすべて請負者の負担とする。
	６．発生材の処理等	・引き渡しを要するもの （　　） ・現場において再利用を図るもの （　　） 産業廃棄物の処理及び再資源化を図るものは下記による。

項目	品目	搬出場所	距離(km)	処分費(有・無)	備考
特定建設資材	・ｺﾝｸﾘｰﾄ塊				
	・木くず				
	・ｱｽﾌｧﾙﾄ塊				
特別管理産廃					
その他	・樹脂類				
	・金属類				

章	項目	特記事項
	⑦. 技能士の適用	技能士制度の趣旨を十分理解の上、積極的な活用に努めること。
	⑧. 工事写真	下記のものを提出する。 仕様は、建築工事写真取扱要領による。

区分	分類	サイズ（mm）	提出部数
工事中（着工前含む）	＊ カラー	＊ 80×120 程度	2 部
完成	＊ カラー	＊ 80×120 程度	2 部
ﾌｨﾙﾑｶﾒﾗを使用した場合は、完成写真のネガフィルムをｶﾗｰべた焼き又はｲﾝﾃﾞｯｸｽﾌﾟﾘﾝﾄとともに提出する。			1 部
ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗを使用した場合は、工事写真及び完成写真のﾃﾞｰﾀを記録したCD－Rを提出する。			1 部

＊写真及びﾈｶﾞﾌｨﾙﾑは、市販のJIS A4判の工事用アルバムにて製本し、提出する。

章	項目	特記事項
	⑨. 完成図及びﾏｲｸﾛﾌｨﾙﾑ	下記のものを、完成後15日以内に提出する。 仕様は、建築工事完成図取扱要領による。

品名・仕様	提出部数
㊟ 原図（設計原図の訂正でもよい）	1部
㊟ 複写図 ㊟ 製本　ｻｲｽﾞ（＊ A3縮小版 ⊙ 原図ｻｲｽﾞ）白焼 表装（＊ ﾚｻﾞｯｸ表紙（ﾗﾐﾈｰﾄ仕上） ⊙ 黒表紙金文字入り） ・ 製本不要（ホッチキス止め）	4部
＊ 電子ﾃﾞｰﾀ（画像ﾃﾞｰﾀ、ＣＡＤﾃﾞｰﾀ）（CD-R）	1部
・ ﾏｲｸﾛﾌｨﾙﾑ（島根県ﾏｲｸﾛﾌｨﾙﾑ仕様書による）	

章	項目	特記事項
		設計に関するＣＡＤデータを貸与するが、著作権者は、＿＿＿＿＿＿＿＿にある。なお、貸与されたデータは、当該工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用してはならない。
	⑩. 保全に関する資料	建築物等の利用に関する説明書 （建築物等の利用に関する説明書作成要領による） 機器取扱い説明書 機器性能試験成績書及び配管試験等記録 官公署届出書類 主要機器一覧表 総合調整測定表 その他監督員が指示するもの　　2部
	⑪. 総合調整	装置全体の施工完了時に、下記の総合調整を行う。 ・ 風量調整 ⊙ 水量調整 ・ 室内外空気の温湿度の測定 ・ 室内気流及びじんあいの測定 ・ 騒音の測定 ⊙ 飲料水の水質の測定 ＊ 一般飲料水適否検査 （一般細菌、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、塩素イオン、有機酸(TOC)、ｐＨ値、味、臭気、色度、濁度の１０項目を含むものとする） ・ 水道法施工規則による水質検査
	⑫. 図形表示	機器類は、図示する形状及び配管などの取り出し位置により、特定製造者の製品を指示、限定しない。
	⑬. 電気容量及び機器能力表示	原則として、電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は図面に記載されている数値以下、機器類の能力及び容量等は表示された数値以上とする。
	14. 保温	（１）管（継手及び弁類を含む。）の保温は下記の部分を除きｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温材によるものとする。 施工順序は標準仕様書による。 ①給水管の保温材はﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材による。 ②屋内露出排水管の保温材はﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材とし、屋外露出排水立管は塗装のみとする。 （２）一般ダクトの保温はグラスウール保温材による。 （３）機器の保温はグラスウール保温材による。 （４）次の部分の保温は屋外露出仕様とする。 ・ ピロティ、渡り廊下等外気に接する配管及びﾀﾞｸﾄ ・ ポンプ室内の配管 ・ 厨房内の配管 ・ 共同構内の配管 （５）断熱材被覆銅管の保温は不要とする。 （６）冷媒管に断熱被覆銅管を使用した場合の外装材下記による。 ・ 樹脂製　・ 溶融亜鉛めっき製　・ ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製 （７）全熱交換ユニットより外気側のダクト ・ 断熱する　・ 断熱しない
	15. 塗装	下記の部分を除き、原則として塗装を行う。 ①亜鉛めっきされたもので常時隠ぺいされる部分 ②亜鉛めっきされた金属電線管、鋼製架台及び支持金物類 ③主・各階機械室内等及び電気室内の亜鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管 ④ｶﾗｰ亜鉛鉄板面　⑤亜鉛めっき以外のめっき仕上げ面 ⑥樹脂ｺｰﾃｨﾝｸﾞ等を施したもので、常時隠ぺいされる部分 ⑦ｱﾙﾐﾆｳﾑ、ｽﾃﾝﾚｽ、銅、溶融ｱﾙﾐﾆｳﾑ一亜鉛鉄板、合成樹脂製等、特に塗装に必要を認められない面 ⑧埋設されるもの（ただし、防食塗装部分を除く） 塗装を施さない部分・箇所　＊ 倉庫　・ 車庫
	⑯. 耐震措置	設備機器の固定は、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説（建設大臣官房官庁営繕部監修）平成８年版」、「建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修）2005年版」及び「社団法人日本エレベーター協会発行の「昇降機耐震設計・施工指針（日本建築センター編集）2009年版」による。 建物の種別 ・特定の施設　⊙一般の施設 重要機器 ・水槽（受水槽、高架水槽） ・給水ポンプ（加圧給水ポンプユニット、揚水ポンプ） ・オイルタンク（サービスタンク） ・消火ポンプユニット　・オイルポンプ

章	項目	特記事項
		建築設備（水槽類を除く）の設計用標準水平震度（Ｋｓ）

設置場所	耐震安全性の分類 特定の施設 重要機器	耐震安全性の分類 特定の施設 一般機器	耐震安全性の分類 一般の施設 重要機器	耐震安全性の分類 一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)
中間階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
１階及び地下階	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

（注）（　）内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。

水槽類の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類 特定の施設 重要機器	耐震安全性の分類 特定の施設 一般機器	耐震安全性の分類 一般の施設 重要機器	耐震安全性の分類 一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
１階及び地下階	1.5	1.0	1.0	0.6

ｴﾚﾍﾞｰﾀｰの耐震クラス　・S$_{0.9}$　・A$_{0.9}$
ｴﾚﾍﾞｰﾀｰの設計用標準水平震度（Ｋｓ）標準仕様書による。
地域係数　0.9

章	項目	特記事項
	⑰. 補強等	配管、ダクト及び機器の設置に必要な補強等はすべて本工事とする。
	18. 外壁との取り合い	外壁と設備の取り合い部分はシーリングする。 シーリング材は、外壁の種類に応じたものとする。
	19. 配管施工	（１）ねじ加工に際してはねじゲージを使用し、ねじの長さを調整する。 （２）ねじ切り接合部及び工具による損傷部には、必ず防錆塗料を塗布する。 （３）イオン化傾向の大きく異なる異種管の接続には、絶縁継手を使用する。
	⑳. 支持金物、固定金物	（１）ﾎﾟﾝﾌﾟ及び屋外設置機器、ﾋﾟｯﾄ内のｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ、ﾅｯﾄは、ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)とする。 （２）屋外及びピット内の配管、ダクトに使用する支持金物等は、ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)、又は溶融亜鉛めっき仕上げ（２種35）とする。
	㉑. 屋外埋設管標識柱	方向、種別（給水管W、消火管Ｆ、ガス管Ｇ、油管Ｏ）を表示したもので、設置場所は曲がり部、分岐部とする。
	㉒. 配管名等の表示方法	（１）配管及びダクトの用途、系統及び流れ方向を表示する。 （２）弁にはアクリル板札を取り付けて用途を明記する。 （３）貼付表示する場合は、耐候性のある材料を使用する。
	23. 機器操作要領の説明板	機器の運転操作要領及び取扱い上の留意事項をアクリル板（白地）に黒及び朱色の文字で書く。板の大きさ及び文章は監督員の承諾を受ける。
	24. 足場	本工事で設置する。 ・ 内部足場　（・ Ｅ種　・ Ｆ種 ） ・ 外部足場　（・ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｅ種 ）
	㉕. 土工事	建設発生土の処理 ・ 構内敷き均し ⊙ 構外搬出適切処理
	26. はつり工事	既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、ダイヤモンドカッターによる。
	㉗. 補修	工事の施工に伴い既存部分を汚染または損傷した場合は、既存にならい補修する。
	28. 負担金	・ 水道　円（内消費税等相当額　円） ・ ガス　円（内消費税等相当額　円） ・ 下水道　円（内消費税等相当額　円） 負担金内訳
	29. 特定元方事業者の指名	労働安全衛生法第３０条第２項に基づく指名 ・ 本工事の請負者を指名する。 ・ 他工事の請負者を指名する。 （　　）
	㉚. 施工図及び施工計画書	施工図の提出は１部とし、提出した施工図及び施工計画書の著作に関わる当該建物における使用権は発注者に委譲するものとする。
	㉛. 施工調査	本工事の施工に先立ち事前調査を行う。
	32. 木製安全施設製品（県産木材製品）	・工事用掲示板（表示板1,400㎜×1,100㎜用）　台 ＊工事用看板（表示板1,400㎜×500㎜用）　2台 ＊工事用バリケード　5台
	33. 関連工事	

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者
Ｍ－０１	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	仕様書１	― ― ―	H26.09				

一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄

2 衛生器具設備

項目	特記事項
1．自動水栓	電源供給方式はＡＣ１００Ｖとする。
2．身体障がい者設備	島根県ひとにやさしいまちづくり条例施設整備マニュアルによる。

3 給水設備

項目	特記事項
①．給水方式	⊙ 公共水道直結給水　・ 重力給水（高置ﾀﾝｸ方式） ・ 加圧給水
②．配管材料	下表
③．弁の耐圧	図記なき弁の耐圧は１０Ｋとする。
4．タンク	（１）マンホールカバーは施錠する。 （２）電極棒取付座及び電極棒の取付は本工事とする。 （３）フレキシブルジョイントは （ ・ステンレス製　・合成ゴム製）とする。 （４）屋外に設置するﾀﾝｸの積雪耐荷重は２ＫＰａ以上とする。 （５）屋外に設置するﾀﾝｸのマンホールは、気密性を有する構造とし、断熱性を有するﾀﾝｸの場合には保温形（二重蓋構造等）とする。
5．電気工事	（１）電源供給は別途電気設備工事とする。 （２）操作・制御回路は本工事とする。 （ ・一括警報用無電圧端子付とする）

区分	材料	規格
隠ぺい・コンクリート埋込・露出	・水道用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 116
	一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼管	JIS G 3448
	・架橋ポリエチレン管	JIS K 6769
	または、ポリブデン管	JIS K 6778
土中埋設（露出）屋外埋設	⊙ 水道用硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管（⊙ HIVP　・ VP）	JIS K 6742
	・ 水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ二層管	JIS K 6762

60Ｓｕ以下のｽﾃﾝﾚｽ鋼管継手は一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼管の鋼管継手性能基準による継手とする。75Ｓｕ以上のｽﾃﾝﾚｽ鋼管継手はﾊｳｼﾞﾝｸﾞ継手とする。
ﾋﾞﾆﾙ管の接合方法をｺﾞﾑ輪接合とする場合、直管以外の継手類には、離脱防止金具を使用する。
水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ二層管は50A以下とする。（金属製継手を使用する）

4 排水設備

項目	特記事項
1．配管材料	下表
2．通気口	＊　ベントキャップ（ＶＣ；アルミ製） ・　排水用通気弁（樹脂製）
3．マンホールカバー	（１）マンホール蓋は鎖付としタール塗布仕上げとする。 （２）表示荷重は安全荷重を示す。 （３）マンホール用手かぎを１組収める。

施工場所	種別	配管材料	
屋内	雑排水管	・ＶＰ ・耐火二層管	・ＶＬＰ（Ｄ） ・ＲＦ－ＶＰ
	通気管	・ＶＰ ・耐火二層管	・ＳＧＰ（Ｓ） ・ＲＦ－ＶＰ
	汚水排水管	・ＶＰ ・耐火二層管	・ＶＬＰ（Ｄ） ・ＲＦ－ＶＰ
屋外	雑排水管	・ＶＰ ・ＶＵ	・ＲＳ－ＶＵ ・ＲＥＰ－ＶＵ
	汚水排水管	・ＶＰ ・ＶＵ	・ＲＳ－ＶＵ ・ＲＥＰ－ＶＵ

上記の配管規格は次による。
ＶＰ、ＶＵはJIS Ｋ 6741によるＪＩＳマーク表示品
ＳＧＰ(Ｓ)はJIS Ｇ 3452(白)によるＪＩＳマーク表示品
ＶＬＰ(Ｄ)はWSP 042による。
ＲＦ－ＶＰはJIS Ｋ 9798による。
ＲＳ－ＶＵはJIS Ｋ 9797による。
ＲＥＰ－ＶＵはAS-58とする。
ＶＵ、ＲＥＰ－ＶＵ、ＲＳ－ＶＵは屋外埋設用とし、建物から屋外第1桝まではVP管とする。

5 消火設備

項目	特記事項
①．消火方法	⊙ 消火器　・ 屋内消火栓　・ 屋内２号消火栓 ・ 屋外消火栓　・ 連結送水管　・ スプリンクラー
2．配管材料	下表
3．消火器ﾎﾞｯｸｽ	屋外は樹脂製とする。　屋内は図記とする。
4．保温	消火配管の保温仕様は、給水管を準用する。 （施工場所：　　）
5．弁の耐圧	図記なき弁の耐圧は１０Ｋとする。

区分	材料	規格
隠ぺい・露出	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452（白）
土中埋設	・消火用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼管 ・硬質塩化ビニル管	WSP 041

注）土中埋設で塩化ビニル管を使用する場合は所轄の消防と協議の上使用する。

6 ガス設備

項目	特記事項
1．ガスの種別	・ 液化石油ガス　・ 都市ガス
2．配管材料	下表
3．ガスメーター	・ガス事業者貸与（配管はメーターユニオンまで本工事） ・買取
4．ガスコック	（１）過流出安全装置付とする。 （２）双口コックは片栓にゴムキャップ付とする。 （３）ボックスコックは押回しカチットタイプとする。
5．その他	（１）配管には必要に応じ水抜装置を取付ける。 （２）都市ガス工事はガス事業者の指定業者の施工とする。 （３）実験用高圧ガスは請負者の責任施工とする。 （４）ガス器具はガス事業者認定品（都市ガス）とする。 （５）ガス器具は検定合格品（液化石油ガス）とする。 （６）都市ガスはガス供給事業者の供給約款による。

区分	材料	規格
隠ぺい・露出	・ 配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452(白)
	・ ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ被覆鋼管	JIS G 3469
コンクリート埋込	・ 配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452(白)
	・ ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ被覆鋼管	JIS G 3469
土中埋設	・ ガス用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管	JIS K 6774
	・ ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ被覆鋼管	JIS G 3469

7 給湯設備

項目	特記事項
1．配管材料	下表
2．電気工事	（１）電源供給は別途電気設備工事とする。 （２）操作・制御回路は本工事とする。 （ ・一括警報用無電圧接点付とする）
3．弁の耐圧	耐圧は５Ｋとする。ただし、水道直結部分及び特記部分は１０Ｋとする。

種別	材料	規格
給湯	・水道用耐熱性硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 140
	・一般配管用ステンレス鋼管	JIS G 3448
	・銅管	JIS H 3300
	・被覆銅管	JIS H 3300
	・架橋ポリエチレン管	JIS K 6769
	または、ポリブデン管	JIS K 6778
油	・配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452(黒)
	・ポリエチレン被覆鋼管	JIS G 3469

8 浄化槽設備

項目	特記事項
1．処理対象人員	JIS A 3302-2000に基づく用途及び用途別番号 類似用途別番号　（　　） 建築用途　（　　） 処理対象人員　　人 汚水量（　m3/日） 処理対象人員及び汚水量算定式は、図記による。
2．処理方法 要求性能	下表
3．地業工事	支持杭　工事区分　・本工事　・別途工事 杭径　φ 杭本数　本
4．土留工事	矢板　工事区分　・本工事　・別途工事 矢板種別　鋼製矢板　ＳＰ　型 矢板長さ　m 工法　・バイブロハンマー ・圧入工法
5．上部用途	用途　耐圧（安全荷重）
6．ブロワー	型式　・地上型 台数　・２台（自動交互）　・１台 ブロワー室　・別途建築工事　・本工事
7．配管 配管支持材	下表
8．水中ポンプ	（１）回路には漏電遮断器を設ける。 （２）自動交互並列運転とする。
9．電気工事	（１）電源供給は別途電気設備工事とする。 （２）操作・制御回路は本工事とする。 （ ・一括警報用無電圧端子付とする）
10．その他	（１）指定された放流水質になるまでの調整は請負者が行うものとする。 （２）消毒薬を３ヵ月相当分納入する。 （３）浄化槽法第７条による検査は工事請負者の負担とする。 （４）マンホールは鍵付とする。

処理種別	処理方法	BOD除去率（%）	放流水BOD（mg/ℓ）
・小規模合併処理	嫌気濾床接触ばっ気 ・分離接触ばっ気 ・担体方式	90以上	20以下
・合併処理	・接触ばっ気 （・沈殿分離 ・流量調整） ・担体方式 ・長時間ばっ気	90以上	20以下

水質汚濁防止法第３条第３項の規定に基づく排水基準を適用する。
ＢＯＤ　ＣＯＤ
Ｔ－Ｐ　Ｔ－Ｎ

合併処理浄化槽のフローシートは図記による。

種別		材料
配管材料	地中配管	⊙ 水道用硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(JIS K 6742)
		・ 硬質ポリ塩化ビニル管（JIS K 6741）
	槽内	⊙ 製造者標準仕様
		・ 硬質ポリ塩化ビニル管（JIS K 6741）
		・ 一般配管用ステンレス鋼管（JIS G 3448）
弁類		JIS B 2011による耐圧５Ｋ
支持材		ＳＵＳ３０４

9 空調設備 換気設備

項目	特記事項
1．配管材料	下表 60Ｓｕ以下のステンレス鋼管継手は一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準による継手とする。 ７５Ｓｕ以上のステンレス鋼管継手はハウジング継手とする。
2．フレキシブルジョイント	ステンレス製ベローズ形とする。
3．冷温水管の空気抜き	空気溜りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き装置を設ける。
4．ダクト	（１）長方形ダクトの製作 ・アングルフランジ工法 ・コーナーボルト工法 （ ・共板フランジ　・スライドオンフランジ） ただし、長辺１，５００㎜を超えるもの及び、最大静圧500Paを超えるものはアングル工法とする。 （２）円形ダクト ・亜鉛鉄板製（スパイラルダクト） ・硬質塩化ビニル製（ＶＵ管） （３）防火区画貫通部の施工 貫通する部分の前後１５０㎜以上を１．６㎜の鋼板製とする。
5．吹出口・吸込口	枠及びスリットの材質はアルミニウム製とする。 着色　・する　・しない
6．点検口	サプライチャンバー、リターンチャンバー等には点検口（450×600）を取付ける。
7．チャンバー	外壁に面するガラリに設けるチャンバーには有効なドレン装置を設置すること。
8．予備フィルター	・図記による。 ・フィルター装着枚数の１００％ ただし、ルームエアコン、パッケージ形マルチ屋内機、カセット形全熱交換器、カセット型ファンコイルを除く。
9．ばい煙測定口	煙道内の排気流速が安定している直管部分に８０φのものを取付けること。
10．屋外フード類	着色　・する　・しない
11．弁の耐圧	図記なき弁の耐圧は５Ｋとする。

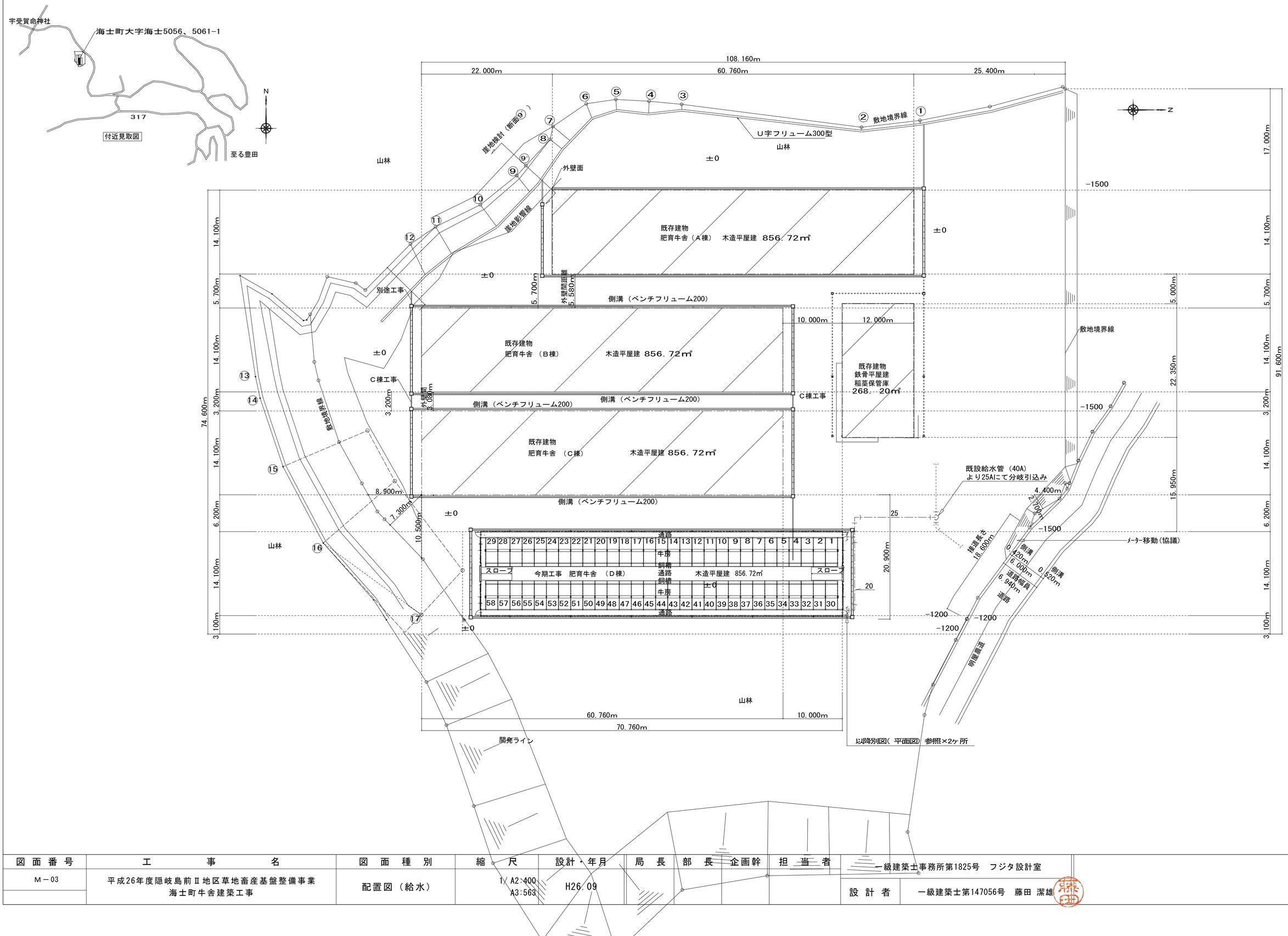
種別	材料	規格
給水	・ 水道用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 116
	・ 一般配管用ステンレス鋼管	JIS G 3448
冷温水	・一般配管用ステンレス鋼管	JIS G 3448
	・配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452(白)
	・架橋ポリエチレン管（ﾌｧﾝｺｲﾙﾕﾆｯﾄ機器接続部のみ）	JIS K 6769
冷却水	・一般配管用ステンレス鋼管	JIS G 3448
	・水道用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 116
	・配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452(白)
蒸気給気	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452(黒)
油	・ 配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452(黒)
	・ ポリエチレン被覆鋼管	JIS G 3469
蒸気還管	圧力配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3454 STGP370黒Sch40
冷　媒	断熱材被覆銅管	
ドレン	・ 配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452(白)
	・ 硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K 6741

10 自動制御設備

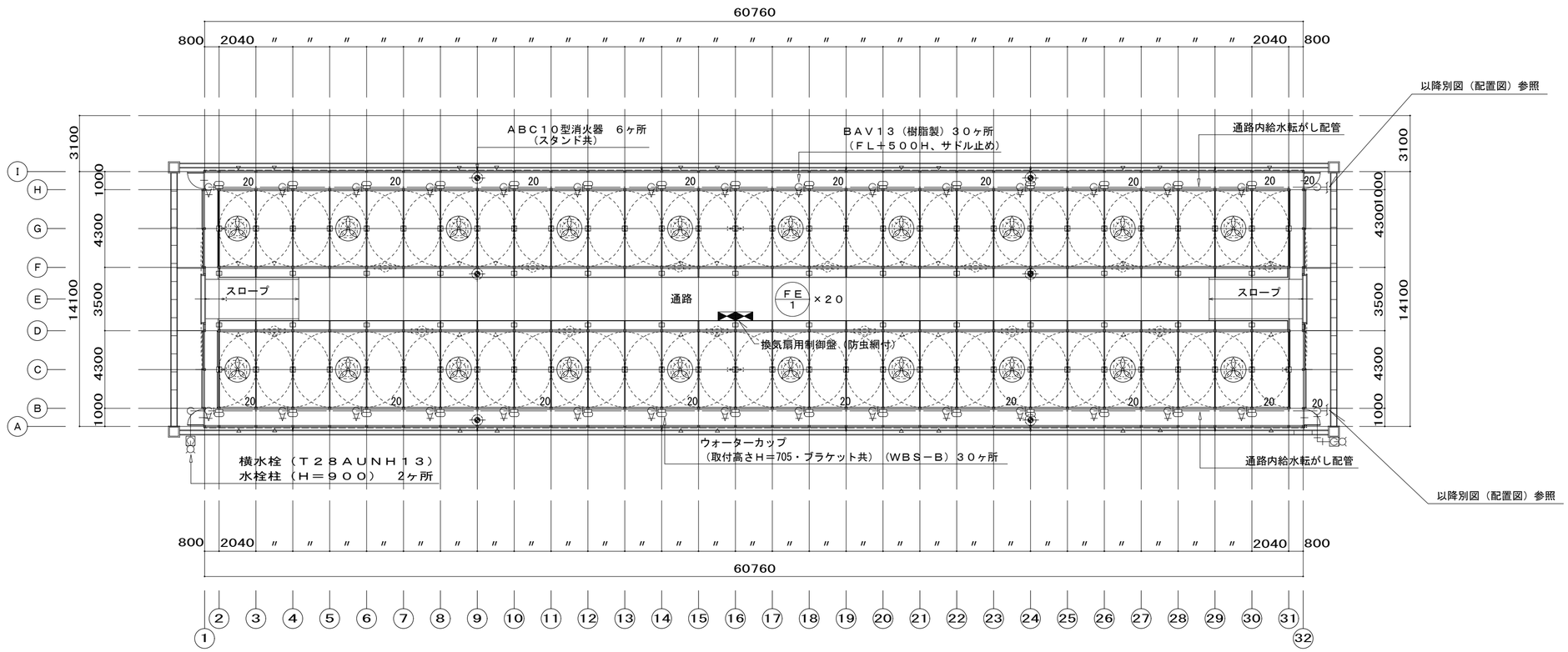
項目	特記事項
1．自動制御方式	・電子式　・電気式　・デジタル式
2．中央監視装置	・本工事　・別途工事 （仕様は図記による）
3．電源装置	・本工事　・別途工事 （仕様は図記による）

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者
Ｍ－０２	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	仕様書２	― ― ―	H26.09				

一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄



図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号 フジタ設計室	
M－03	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	配置図（給水）	1/A2:400 A3:563	H26.09					設計者	一級建築士第147056号 藤田 潔雄



平面図　１：２００

機器リスト

記号	機器名	仕様	電源 相	電源 V	電源 kW	台数	備考（設置場所）
ＦＥ 1	牛舎専用換気扇	形　式：牛舎専用吊下形換気扇　羽根径：φ1,000	3	200	0.3	20	牛舎
		処理風量：550m³／ｍｉｎ					
		付属品：制御盤（ＳＵＳ製壁掛型・ＩＮＶ制御・手動操作）×２面／２０台					
		吊下げ用部材					ET1025-6,SY-037A相当品

＜凡例＞

ＡＢＣ10型消火器	×　６本
ウォーターカップ（取付高さＨ＝705・ブラケット共）（ＷＢＳ－Ｂ）	×３０組
ＢＡＶ13（樹脂製）	×３０個

＜注記＞

・給水管は全て耐衝撃性硬質塩ビ管（ＨＩＶＰ）とし、保温不要とする。

＜屋外＞

横水栓（13-Ｆ7・キー付）	2
水栓柱（樹脂製・900Ｈ）	2

図面番号	工事名	図面種別	縮尺	設計・年月	局長	部長	企画幹	担当者	一級建築士事務所第1825号　フジタ設計室
Ｍ－04	平成26年度隠岐島前Ⅱ地区草地畜産基盤整備事業 海士町牛舎建築工事	平面図 （給水・消火・換気）	1/A2:200 A3:282	H26.09					設計者　一級建築士第147056号　藤田 潔雄